無いと低能の原因を精密に鑑定することは非常にむつかしいことてありませう。其の他家庭に於いて子供が取扱はるゝ有様の如何は、又大に注意すべき必要があります。是れは又親の心得に依りまするとと餘程多大なる影響を與へるものてあります。殊に即ち親の機嫌の變り易いといふ事、それから子供に對する親の愛憎の極端なる事、それから體罰を無暗に課するといふ事、色々な點が子供の能力に非常な影響を及ぼすものでありますから孰れも大に注意を要することてあります。

第三　敎育

環境殊に家族の事情は子供の發達殊に其の道德的方面に於いて多大の關係を有って居る如く、敎育の方法即ち子供が家庭に於いて或は學校に於いて受くる所の保育なり敎育なりの方法といふものが大に子供の智力の發達上に影響を及ぼす者てあります。チョッと考へると、元來質の善い子供は或點までは不合理なる敎育法を用ひても之れに應じて存外物をよく覺えて行き別に何等の害を殘さぬ樣に思はるゝけれ共、是れは實は大なる誤りてありまして其の子供の發達すべき能力が全く伸びない樣になって仕舞ふのであります。親でも敎師でも動もすると相手に對して居る所の者が子供てあるといふことは知って居りますけれ共、併し其の子供が時々刻々常に發達して行き居る者てある、一年二年の短かい間にても餘程變って行くものてあるといふことを常に念頭に留めて居ることの出來ない場合がある。又誰も子供を惡く手引かうと思ふ者は恐らく無からうけれ共、併し動もすると自分の鑄型に子供を入れて仕舞はうとするものがある。理想に子供を導かうと欲せぬ者は無いけれ共其の理想ぢゃと思うて居ることは動もすると自分の偏狹なる鑄型に入れたやうに、知らず識らずの間になることがあります。又子供に知識を與へることは無論大事だけれども、それは又餘程注意いたしませぬと動もすると知識を與へるといふこと許りが主眼になりまして子供の能力を發展せしむるといふことを忘れるやうなことが知らず識らずの間に起らぬとも限らぬ。即ち子供の現在の事をのみ考へて、將來の事を充分考へない爲めに、悲しや知らず識らずの中に其の子供の能力を萎微せしむることが多いのてあります。訓練なども

矢張り左樣であります。訓練は元より大切なことではありまするけれども、これが度を過ごすと軍隊的となる。軍隊的はまだ宜いけれ共、更らに一歩進みまするとと警察的となり、幼弱なる子供の能力を本當に伸ばすとの出來ないやうなことになりますので、學校の方から申すと或はそれは便利でもあり又教師の方からいふと教へるに都合が惡いかも知れぬけれ共斯かる訓練は一時外觀の美を欲するもので俗人の眼を驚かす事は出來やうけれ共識者の眼から見れば甚だ笑ふべきことである。此れは子供の將來の發達ということを考へざるものであるのみならず、其の發展を妨げるといふことに成りまするといふと、弱い子供などは益々委靡して仕舞って、左程でも無い低能者が一層甚だしき低能に成り、又低能でも無いものまでが、低能と認められるゝ樣になって仕舞ふこともある。此の間も高等師範學校附屬小學校の人々の研究の發表である所の『教育研究』といふ雜誌の中に『低能兒の教育に就いて』といふ題が出て居った。此れは奚信生といふ匿名の方の書いたのであったが多分此處に居られる樋口長市君だらうと思ひますが、それは兎に角其の中に低能兒低能兒といって探すと大變深山の低能兒を捲へて仕舞ふといふことが書い

てあったが、私はそれよりも教育の方法宜しきを得無い爲めに低能兒を捲へることも隨分多からうと思ふのであります。一躰教師は教師の爲めに存するのでは無くして兒童の爲めに存するものである。學校は學校の爲めに存するのでは無くして生徒の爲めに存するものである。國家は國民の子弟に教育を加ふるの權力がありまするけれ共之れと共に又最も良い教育を加へるといふ義務があります。所が其の義務といふものは國民教育即ち我々諸君と御同樣の双肩の上に委任せられて居るものでありまするから、不自然なる教育、極端に申せば惡い教育を加へて、子供の發達を枉げるといふやうなことがあっては是れは大變な事であらうと思ひます。私が子供の發達を枉げると申しまするのは獨り學校在學當時に於いてのみを指すのではございませんで、遠く兒童の將來を見越して申すのであります。即ち學校に於いては宜し幸ひに低能では無くっても他日社會の生存競爭の舞臺に於いての低能者にならないやうにすることが甚だ必要でございます。蓋し教育の惡かった爲めに低能に成るのはそう直ぐに現はるゝものではありませんで遙か後に成ってから始めて現はれるものでありますから餘程注意を要するのであ

りまず、此の見地から見るといふと、現時の狀況に照らし考へて二つの方面に分けて申さねばならぬ事がある。其の一つは概して家庭に於ける放育の方法が宜しきを得て居無いと思はるる。或父兄などは次の樣な事を云ふ者がある。昔の子供は學校で一時間に讀本を二枚も三枚も覺えて來た。然るに今の學校では僅か六行か八行しか覺えて來ない。などゝいって不平を鳴らす。此れは都會の地に居らるゝ諸君は御聽きになった事が少ないかも知れませぬが田舍などでは此の不平がまだ餘程澤山あるのであります。斯う云ふ風に子供に唯だ餘計敎ふればよいと思って、復習ても何ても無闇にやらす家庭も少なく無い。其の爲めに彼の宋人の苗の如くに所謂引伸ばし的敎育を加へ樣とする傾きがある。處が例の宋人の苗が枯れて仕舞った如く子供は却って其の親たちの所期と正反對の結果を生ずるに至るのである。第二は學校の方に於いての事でありまして課業過多の問題の如きは詳しく此處で申して居る時もありませぬが、疲勞などゝいふ問題は實驗敎育學の上て段々研究せられて參ったのでありまして「モッソー」とか、「グリスバハ」とか、「クレッペリン」だとか「フリ

ードリッヒ」だとか、色々の學者が之れを調査致しましたが殊に「ミュンヘン」大學の敎授「クレッペリン」氏の研究の如きは學界に多大な貢献を與へました。疲勞のとは詳しく此處て申して居る時もありませぬが、疲勞といふことは精神物理學上から解釋すると斯う云ふことになる。即ち腦細胞の中に一種の有毒素が生じまして、細胞の中に於ける分子の排列が歪んて來るのであります。それが睡眠により て回復すると其の排列が再び元の通りに整頓する狀態に外なりません。所が過勞を始終やって居りますと其の歪むことが癖になりまして些っとも整列が出來ないといふ結果と致しまして精神の反應力を失なって仕舞ふ。生理上から言ふと尙ほ此の疲勞といふ一般感情に伴ひまする種々の症候がありまするが、さう云ふやうな理窟は別問題と致しまして、兎に角精神過勞、殊に記憶を過度に用ひさすといふ弊は往々、必理上の低能を持來すのであります。六七歲の頃に無暗に記憶などさせまして腦力を用ひました結果十歲頃に至って心理上の低能と成って現はれるのであります。或は十二歲十三歲頃になって著しく其の特徵を現はしまして最早精神的勤勞に堪へないといふやうな徵候を示して來るのであります。蓋し此の唯だ記

憶に訴へるといふやうな教育法は一つの全く誤つたる原則の上に立つて居るものでありまして、其の原則といふのは子供に理解の出來ない事でも記憶さすことは出來るといふ原則であります。さて此の誤つて居る原則をドシドシやつて顧みざると同時に他方に於いては斯ういふ教師は兎角精神力といふものが全身の有機的活動の結果であるといふことを忘れて毫も念頭に置きませぬので勉強さへさせれば身體はどうても宜いといふ風にやると遂には取り返へしのつかぬ所の精神上に故障を來します。其の精神上の故障は唯だ最早や精神的勤勞に堪へないといふやうな消極的の程度のみに止まらば、まだしもの仕合せでありますけれど、更らに積極的に進みまして誤つた且つ危險なる觀念を捉へ又意志及び品性の薄弱を來すに至るのであります。此の點から申しますると所謂神童といつて子供の時には非常に秀才であつたものが十五六歳以上に至つて、却つて低能に成つて仕舞ふものがあるその理由が解かるであらうと思ひます。神童即ち「ウンターキンダー」と申しますのは事實往々あることでありまして、私が獨逸に居りまする頃に匈牙利から參りました四歳かに成りました子供で「ヴアイオリン」を奏すること丸で大人の然かも

甚だ熟練した人の如き者があつた。さう云ふ子供は後になつて通常て有つて呉れば宜いが場合に依ると却つて馬鹿になることが毎度ある。八歳九歳頃によく出來た子供て十歳過ぎて衰へて仕舞つて丸て消極的になり、活力が無くなつてとゞのつまり低能になつて行く者の實例は少なく無い。俗の諺に「十デ神童、十五デ才子、二十過グレバ並ノ人」といふことがあるが並の人てあつて呉れゝば善いが動もすると更らに下つて低能に成つて仕舞ふものがある。所謂苗にして秀てざるものてありますが、兎に角六七歳頃の過勞の影響は十二三歳以後になりまして、始めて表はれ、遂に低能に成る者が少なく無い。それから又少年期即ち十五六歳頃の生徒の過勞……是れが又其の者の將來に向つて著しき惡影響を及ぼしますもので、我が邦に於いては、試驗法といふものが比較的教育的に考へられて居りまするから此の弊も先づ左程多く無いが、西洋殊に白耳義や佛蘭西などては中學校や高等中學校なども競爭試驗の制といふものがあります。是れは私が文部省へ差し出しました白耳義、和蘭丁抹瑞典等の教育狀況に關する報告書中にも擧げて置きましたからアレを御覽を願ふことに致して詳しくは申しませんが、兎に角或縣とか或地方とか或は

全國に通じて中學生徒の學力競爭試驗といふものがある。各々の學校が「チャンピオン」を出して、之れに應ぜしめる。そして一等を取った者は大變な褒美の金を貰ふといふ組織がありまする。此れは一例でありまするが、此の他、總じて斯樣な事は少、青年に過勞の影響を及ぼすことが甚だ大きいのであります。

斯う云ふやうな過度の勉強は、成る程、一時は學業の上に非常の進歩を表はしまするけれども、是れ實に身躰上の經濟を忘れたものでございまして、其の結果は食慾を減じ、抵抗力を薄くし、頭痛眩暈が起り、時に氣絶に罹り、それから鼻血が出て、不眠症に罹り、總べての物に感じ易くなり、或は幻覺と云って途方もないことを空想的に頭の中に考へ出したりすると云ふやうなことをしたり、又注意が薄弱になり、精神勤勞には堪へなくなり、餘程長い間多大の悪い影響は精神並びに身躰の上に及ぼすのであります。殊に十四五歳から十七八歳に至る間の少年の精神過勞と云ふものは非常に危險なものでありまして、到底其の身躰上なり又は精神上なりの上に何等の悪影響をも及ぼさずして已むと云ふことは殆んど少ないのであります。蓋し此の頃は人の精神並びに身躰が非常に變化する所の極めて大切な時期であるからであります。殊に其の發達が止むと云ふこと、それから疑問力即ち物を尋ね究むる力と、研究心即ち物事を調べて明らかにしようと云ふ心とが之れが爲めに無くなると云ふことは甚だ悲しむべき結果でありまして、斯かる青年の將來の發達といふものは玆に止めを刺されたもので、此れ等の人の壯年以後の活動といふものは全く見る影も無く成るのであります。それで今迄申し述べた所を纏めますれば、六七歳頃の精神過勞は、壯年時代以後の年時代の精神過勞は、壯年時代以後の無能の遠因をなすといふに歸します。

第四　誕生前の生活及び誕生

前の章に於いて申し述べました如く、母の姙娠期中の健康狀態傳染病、不幸其の他精神上、殊に感情上より受くる影響から更らに進みましては、其の子が生るゝ時に難產ではなかったか。生れると直ぐに自分で呼吸を初めたか、或は窒息の狀態で生れた爲めに人工呼吸法を用ひねばならなかったか。それから臍の緒を切るときに多量の出血がありはしなかったか。それから小供が能く吸乳をしたか。又其の消化作用が十分

に行はれたか。其の生れた時に其の身重が通例の分量に達して居ったか。骨が通常の有様であったか。頭の踊り子が適當であったか。其の小供の全身の運動が通常であったか。歯が適當なるときに適當なる方法に依って成長して來たか。明らかなる或は左程明らかでないにしても兎に角病的徴候と云ふものを有っては居なかったか。相當の時期に歩行を初めたかと云ふやうなことは何れも必要なる條項でありまして、前に申し述べて置いた所よりして、一々説明を致しませずとも直ちに、身躰上並びに精神上の異常を鑑定致しまするのに缺くべからざる事であるといふことはお分かりになりませう。

第五 身體の狀況

これにはいろ〳〵の點がございまするけれども、其の要點のみを先づ擧げますると云ふと、第一は營養、第二は全身の形狀、第三は全身の機能であります。是れ等は何れも重要なる事柄でありますが今一々に就いて一言づゝ申し上げまする と、先づ(甲)營養の狀態に就いての吟味でありますが、これは必ずしも、子供の生れました時、直ちに一々吟味することは出來ませぬけれども、兎に角二つの點に於いては少なくとも注意をしなければならぬのである。其の一つは此鼻の穴の奥の處に、獨逸語で、アデノイーデウクゼルンゲ」と申しまする肉纖維が出て來て居るものがある。これは呼吸を閉息せしめ及び困難ならしむるのでありまして、之れを有って居りまする小供は其の顔が少しく變てあります。能く見るとそれが直ぐ分かるのであります。其の上斯樣なる小供は常に口を開いて居りまして、上唇が齒をスッカリ掩うてしまふことが出來ないので、刎ね上って居る。それから唇に異狀を呈して居って、呼吸を致しまする毎に頰の肉が少し動く。鼻は尖って居って狹く、鼻の穴が餘程小さくなって居る。耳が平たくなって居ないで立って居る。さうして皮膚の色に光澤がない。其の視力がボンヤリして居ってチョッと見ても人に不愉快の念を與へる樣な顔付を致して居ります。其の他細かに云へばイロ〳〵の徴候がありますけれども兎に角之れが多くの白痴或は低能の原因を爲すのであります。其の二は矢張り獨逸語で「ミキシェデーム」と申しまして、身體の纖維に水氣を澤山有って居るのであります。此れは大人に於いても亦次ぎの樣な徴候を示して居る。即ち纖維の中に大變に水氣を

含んで居って、然かも後になりまするとズッと又痩せてしまふのである。さうして筋肉の上に種々の故障が起る。或は又其の筋肉が全く萎微致して遂に枯れてしまふのである。さうなると時に「ヒキッケ」を起したり、或は呼吸に困難を來し、心臓に故障が現はれると云ふやうな徴候を呈しまする。其の原因は腺の機能が十分でないところから々々に阻礙せらるゝのであります。其の原因は腺の機能が十分てないところから起るものでありまして、小供の時より既に現はれまするが、兎に角其の結果は白痴になる者が多い。さて此の種に屬する小供の特徴はといへば、大抵身體が小さく、纖維がブク〳〵して居って、水氣を含み、ソレて皮膚はどうかと云ふと乾き付いてガサ〳〵して居るのである。歯が不整列で、筋肉の生理力が弱く、多くの場合に於いて心臓に故障がある。精神力が遲緩で殊に萬事受働的てある。以上申し述べた二つのものは營養不良から來るのでありまして、兎に角十分の鑑定吟味を値するものてあります。

次ぎに(乙)全身の狀況に關する吟味に就いては是れ亦色々の點を含みまするが、其の第一は、頭の形であります、此の頭の形の異狀には種々ありまして、其の一を「ワッサーコップ」と申しまして所謂腦水腫てあります。之れは頭が開いて居りまして馬鹿に大きくって、時に依りまするとと病的に一夜の中或は二三日の中に全く見變はすほの大きな頭になってしまふのてある。第二は獨逸語て「スカホセパリー」と申しまして所謂縮助てあります第三は獨逸語で「プラギオセパリー」と申しまして尖り頭て小さ過ぎる てある。之れは三つ共白痴及び低能に伴ふ現象てあります。以上は頭の形に就いてでありまするが、其の第二は顔面の形狀でありまして之れに就いては三つ口、即ち唇が割けて居るもの、それから狼口と申しまして上顎と下の顎とが合はないて、且つ多くの場合に於いて口が大きい。それからモウ一つは咽喉部てありまして、即ち咽喉に異狀があって其の構造が不調子に出來て居ります。以上は身體の形狀に就いてゞありまするが最後に(丙)身體の機能に就いての吟味てありまする。是れ亦極めて大切なることてありまして、即ち小供に話をして聞かせてそれを領解するや否や、繪を見せて其の繪が分かるや否や。及び種々の形狀を示して之れを理解するや否や等の有樣を調べまして、それて以って視覺聽覺等を吟味するのみならず、殊に此れ等個々の吟味の結果を總覽して概觀をなすと云ふ

ことが最も必要であります。元來個々の場合を調べたる上更らに全體に渉って概觀をして考察すると云ふことは低能兒の鑑定上には非常に必要なる事項であります。モウ一つ茲に因んで申し上げなければならぬことは不當なる快樂を貪るや否やといふことでありまして、即ち衛生上並びに道德上宜しきを得ざる方法に依りまして快樂を取ると云ふ習慣を其の小供が有って居りはせぬかどうであるかと云ふことであります。之れは詳しく申し上げんでも大抵諸君がお分かりになるだらうと思ひますが、餘程重大なる關係を有って居ることであります。

第六　神經系統の狀況

之れは餘程注意をして吟味をしなければならぬことであります。これには大人に用ふる方法を以って直ちに之れを小供に適用する譯には行きませぬので、小供相應の方法に依って其の神經系統の狀況を吟味しなければならぬのであります。即ち第一は目の運動の種類であります。第二は身體の各部分の結合であります。第三は生理上から見たる言語の性質是れであります。今之れを一言づゝ申し述べまするならば、目の運動と申しまするは主として瞳及び眼瞼に於いての運動でありまして、通常の小供より遲れて居る者、或は過勞に陷って居りまする小供は、瞳の開閉が正當に出來ないのであります。之れが一つ。二つ目には左右の目が同じ樣に動かないのであります。それから彼の出沒隱見躍動する所の事物を眼前に提出せらるゝ時には、眼や頭を幾度と無く、前後左右に動かし、所謂蚤取り眼て其の運動を追ひ掛けて然る後其の物を視把する所謂瞳を定めるのでありまするが低能兒には動搖して居る物に對して瞳を定むるといふことが出來無いのであります。此れが三つ目で、丁度此の三點が吟味の要項であります。次ぎに身體各部の運動に就いてゞありますが、此れは又四つの點に於いて鑑定することが出來ます。其の一は步行、遊戲、及び段階を昇降するとき等の觀察であります。其の二は姿勢、殊に小供が自然と物の音を聞く時に取る姿勢及び運動。其の三は各種の禁止能力に就いての觀察。其の四は或一定の運動を課しまして其の熟練及び精密の程度を測定すること即ち是れであります。之れに就いても亦一々に說明致しまするならば、先づ步行の觀察は其の身體上の異狀例へば跛であるとか或は身體が硬ばって關節が自由に動かぬの

や又は骨盤の構造などが之れに依って分かるのて白痴及び低能の者の歩行の仕方はベタ〳〵として居るのが其の特徴てある。勿論其の體の構造並びに重さに依りまして一イロ〳〵ありまするけれども總じて白痴の歩行の仕方と云ふものは一種の特色を有って居りまして一イロ〳〵として滑り行くやうな歩るき方をする。それてありますから歩かせて見ることが必要てあります。それに附け加へて一本足て飛ばせて見るとか、又は爪先きて立たせて見るとか、或は膝を屈伸させて見ると云ふやうなことを致しますると非常に能く分かるのてあります。是の吟味は又身體精神全部の聯合の作用を觀まする上にも大切てあります。それから次ぎは遊戯の際の觀察てす。小供が遊戯を好んでやるかやらぬか。年齢相應の遊戯を爲すかどうか。其の時の身構へはどうてあるか。一般に活潑てあるか然らざるか。動物などを愛するや否や。他の仲間の友達に對して同情並びに親切を有って居るかどうてあるか。などとイロ〳〵の點から之れを觀ることが出來まする。以上は第一の項てありまするがそれから第二には姿勢殊に物音を聞く時の姿勢は餘程必要でありまする。元來通例の小供

が自然に物を聞くときの姿勢と云ふものは、動かないて、眞直て、頭を擡げて聞いて居るのが通例てある。それて問を掛けらるゝと云ふと直ぐに答へる。且つ其の答は聲に相應の力を有って居る。處が低能兒になりますると此の點が餘程違ひまするので、物を聞いて居ってもボンヤリして居りまして身體が曲って居たり、或は前後に運動を致したり、或は身體の何れかの部分を動かして居たり、或は全く精神が放散致して居りまする。且つ其の聞いて居る當時に於ける筋肉の緊張と云ふものは全然皆無てありまして、其の顔面にも何等の表情がなく、頭は大抵傾いて居る。それから注意が不十分て、尋ねられても答が出來ぬ。のみならず、答ふるにしても其の答や甚だ遲緩てあります。其の上、大抵小さな同一の運動を器械的に繰り返へしてやるといふ癖があります。例へば、貧乏振ひ、腕を廻はす、などてあります。或は袂の端を噛だり指を縮めたり伸したり、兎に角イロ〳〵の運動を致すのてあります。第三項の禁止能力を觀察する必要……之れは或事を命ずる、例へば先づ一定の位置に立たして置いて、それから手を頭に擧げるとか或は手を伸すとか、瑞典式體操のやうなことを急いてやらして見る。さうして置きながら其の間に

チョイ〳〵と話を仕掛けて見るのです。さうすると頗ぶる能く分かるのである。英國の或學者が指をヂッとして居ると云ふことの出來るか出來ないかと云ふことは其の小供を學校に入れて學ばすことが出來るか出來ないかの標準になると云ふことを申して居るのであります、併し之れはどうも正しくないらしい。ドモアと云ふ學者はブリュクセルの補助學校に於いての實驗の結果に據れば、指の靜止と小供の能力とは左程重大なる密接の關係を有って居ないのである。即ち白痴低能の小供と雖も指を靜止することが出來るし、又通常の能力を有って居る小供でも、指をチャンとして居ることの出來ないものがあるので、要するところ低能の如何と指の靜止と云ふことは、英吉利の或學者の說の如く學校に入れる入れ無いを定むる標準と致す程然かく重大なるものではないと云ふことが明らかに成ったのでございます。それから最後に一定の運動を課して其の精密並びに熟練の度を見ると申しまするは之れは其の小供の身躰の筋力、運動の韻律、筋の收縮の精密の度と云ふやうなものを見るのであります。而して其の方法にはイロ〳〵ありまするが其の一二を申しまするとと、第一はヤハリ躰操をやらすのである。例へば臂を伸ばし手を伸ばすと云ふやうなことを二度四度六度八度十度と云ふやうな風に、一定の律を以って反復させ、それを或は早くしたり或は遲くしたり又は號令を掛けたり號命を抜きにしたり色々にして、一定の順序に依りまして之れをやらせて見るのである。第二は年齡に應じて簡單複雜の程度がありますが兎に角年齡相應の運動的仕事をやらせるのであります。例へば釦を掛けさす鍵を以って戶の穴へ入れて明けさせて見る。針のやうな小さい物を落してそれを拾ひ上げさせて見る。或は丸を投げさせて見る。或は兩方に擴げた手を一時に合せて兩方の指が合ふか合はぬかを見、又拇指と人さし指とでもって物を煉るやうな運動をさせる。或は紐結び、或は圓、正方形、三角形などを手本に從って摸寫せしめる。或は圖の眞中を鉛筆で指さすなどイロ〳〵の法があります。之れ等は何れも簡單なることではございまするけれども、其の得たる結果と云ふものは實は甚だ大切なるものであります。以上申し上げた所によっても直ちに分かるのでありますが、元來躰育と云ふものが低能兒の敎育には非常に重大なる關係を有って居るものでありますが、尙ほ此の事に就いては後に詳しく申し上げます。

次ぎに言語の調査吟味でありまして、之れには二つの見點から致さねばならぬ。其の一は神經系統の中樞の方に於いては何等の關係を有って居らず、唯だ外部の發音機關と云ふやうな物に故障がある爲めに言語が十分でないと云ふ者が隨分多くある。即ち一言で申しますると言語障害の原因を機關の上に有って居りますものであって例べて見ると先きに述べた通り三っ口の如き、狼口の如き、咽喉の構造が不十分であり、鼻痔其の他鼻穴の故障、音聲機關の一部或は全部の麻痺等でありますが、是れ等は今お話申しました如く神經の中樞には何等の關係を有って居ないものであります。それから其の次ぎは內部の神經系統自身の方に故障ある爲めに起る言語上の不完全であります。之れを詳しく申し上げますると、更らに又矢張二つに分れまする。其の第一は分かり易い爲めに試みに言語の不完全と名づけて置きまするが、之れは全くの啞者から言語の聯絡關係を失って居るまで各種の程度の言語不完全であります。それから第二は一定の系統を有って居る故障であります。即ち同じ言語上の故障ではあるが其の故障にはチャンと筋途が分って居る所の故障である。試みに之れを言語上の故障と申して置きます。吃(どもり)であるとか、

物を云ふ中に時々詰(つま)ってしまふものだとか、齒の間に舌が挾まるもの俗に所謂舌の長いもの、それから物を言ふのに咽喉許り使って舌を使はぬもの等であります。今此れ等に就いて一言づゝ說明致しますれば、先づ第一のもの即ち所謂言語の不完全は殆んど總べての白痴は多少之れに罹って居ない者はないと云ってもよいのであります。是れは又大腦に於ける聽覺の中心と相關係を致して居りまするので、斯かる小供の多數は音樂の觀念は全く缺けて居る。又音調を聽いても之れを反覆すると云ふ力が極めて薄く、話方は元より非常に下手であります。總じて其の思想は話よりは寧しろ身振り手眞似等に於いて表はさるのであります。從って論理的要素と云ふものが殆んど缺けて居る。例べば語尾の變化、前置詞、副詞、接續詞等に於ける過誤が非常に多いのであります。それから彼の啞者は鵝鳥の聲の樣な一色特別の音聲を發するものでありまするが、白痴及び低能の者の聲は程度こそ違へ、餘程よく之れに似て居るのであります。即ち誤りが多くして且つ同じ音が毎度重なるのであります。それが極端に劇しく成れば鵝鳥のやうな聲

に成るのであらう。其の次ぎは之れは見分けるのに多少困難ではありますけれども物を云ふのにダラ〳〵と云うて仕舞ふのであります。即ち聲が低く、受身的であって力がなく、不規律に物を云って且つ時々行詰って仕舞ふのであります。之れは神經的で且つ空想に耽ける習慣のある子供に多いのであります。以上擧げた三つの場合は孰れも第一のもの即ち言語の不完全といふ方を具體的に説明したのであります。それから第二の方、即ち言語上の故障と云ふ方は之れは或一定の原因に基づいて居るものであると申す人もありますけれども併し必ずしもさうであるとは斷言し難いのであって、却って種々複雑な事情が關係して居るのであって或一個處の故障にのみ歸する事の出來無い場合があるのであります。けれども少なくも次ぎの事丈けは明らかに云へるのであります。即ち情操の激發意思の薄弱、智識の不確定、注意の不十分と云ふ樣な事は之れをして甚だしからしむるものである。殊に吃は今擧げました箇條の中でも特に不確實なる精神生活及び不十分なる注意と云ふ事に依ることが別して多いのであります。其の他猶ほ呼吸機關の振動力の不十分であるとか、發聲機關の活動が不十分であるとか云ふやうなことが助けて大に其の度を强からしむるものであります。次ぎに齒の間に舌が挿まるもの俗に所謂舌の長いもの、舌の廻らぬもの及び咽喉ばかりで發音するものは、之れは呼吸器には何等の異狀がないのであります。即ち一方には思想が不規律に、論理なき故障がありまする爲めに起るので、即ち思想の發表の速さ即ち發聲の速さが思想の起る速さと一致しないのであります。即ち一方には思想が不規律に、論理なきに、頭腦の中に湧いて來る。そしてそれが又非常なる速力を以って外に發動致しまして、それから通常ならざる休息を以って此の不調和が平均せらるゝと、斯う云ふのが即ち吃であります。

第七　心理上の狀態

今度は兒童の心理的狀態の鑑定であります。之れは非常に大切なものであります。まするから順を逐うて申し述べませう。第一は感覺機關の吟味であります。先づ其の中の視覺に就いて申しますると、第一に正しく見ることが出來るかどうか。それから又視距離の吟味、色の鑑定、即ち一つの色を示して、それから再び同じ色を見せてそれが同一であるとを認識し得るかどうか。强さの色々に違ふ同一色を

見せて之れを順に並べるとが出來るかどうか。それから形、距離、高さ等を知り得るかと云ふことは元より必要であります。次ぎに聽覺に於いては時計の音を聽き分ける距離、目を縛って置きまして、それから硝子であるか金屬であるかといふ物の音を聞かせて、それを聞き分けるかどうか。それから音の方向を知り分ける力、音樂に對する觀念と云ふやうなとは就中必要なる諸點であります。次ぎは觸覺でありまして、是れには絹、天鵞絨、布、金剛砂布等を區別し能ふか。それから溫度の相違、例へば木の物と金の物との差違、特に或一定の物に觸るゝことを好むかどうか。それから目を閉ぢて仕舞って手探り、即ち觸覺で以って物を見分ける程度と云ふやうなことが必要であります。それから次ぎは筋肉系統でありまして之れは手の熟練の程度を見るのでありますが、鋏で物を切る力、鉛筆を削る力、絲などの筋の間に這入って居るのを針で以ってホジクリ出す力、特に女に於いては物を縫ふ力に依って指の機能力を見ると云ふやうな諸點てあります。

其の次ぎは……其の次ぎと云ひますのは第一の感覺機關の吟味に對して第二でありまして、それは注意力の吟味であります。之れには色々の方法があります

ますけれども最も簡單なるものは、繪を見せて其の繪の中のイロ〳〵な物を觀察せしむることでありまして、之れには通例普通の繪を用ふる。例へば室内の家具をすっかり表はせる圖だとか、市街の光景をすっかり現はした繪だとか、或は田舍の風色を細かに現はした繪だとか云ふやうなのを用ふるのであります。第三は觀念聯合力の吟味であります。之れは二個の點を要點と致しまする。即ち空間の觀念と時間の觀念とでありまして、即ち自分の年と自分の父母祖父母等の年との關係であるとか、又は自分の年であるとか、或は一個年一個月の觀念、それから大いさの觀念例へば手近い所て言へば自分の兄弟の大いさ、或は室内に色々の線を引きまして其の線と其の長さぐらゐの實物との關係、それから熟知して居る土地の距離等を問答に依りまして測るのであります。又早い子供は五歳頃から初めまするのが、マア通例六歳七歳の時の小供になりまするとこの間も話致しました筋肉錯誤の觀念の試驗が觀念の聯合力を吟味する淘に善い方法であります。

第八　道德上の狀態

之れは長い間觀察を要するものでありますが、鑑定上注目すべき重なる條項を

申し述べますると、先づ當該兒童が兄弟姉妹を愛するや如何に。他の小供に對して同情を有するや如何に。或は動物に對して之れを虐待すること無きや如何に。更らに物を盜むの傾きがありはせぬか。夫れから虚言……之れは兒童に殊に強き想像より出づる虚言を指すのではありませぬ。眞の意義に於いての虚言を吐くかどうか。それから其の行狀の一般。安靜平和の有樣。柔順なりや否や。道德に對する考即ち道德觀とても云ふべき者はどうか。また其の者が不行狀をすると致しますれば其の不行狀は摸倣に出るか或は自發に出るか。色情殊に不正なる快樂を取る事がありはせぬかどうかと云ふやうな諸點であります。之れに因みてチョッと申し述べて置き度い事は、白痴と云ふ者は色情の奴隷になるのが多いといふ事であります。それ故に白痴の道德狀態を判明する爲めには一言しなければならぬのでありますが、元來白痴と云ふものは外界を極めて簡單に認識するものである。通常の人は外界を認識致しまするのに種々なる觀念の聯合に依り複雜なる形に於いて外界を認識するのに反し、白痴は極簡單に或一の點だけを捕へて他を顧みない。或る人は頭の善い人といふのは事物を極めて多方的に觀る人だと申しましたが、成る程一面の眞理を含んで居りまするので、それから推しても白痴は最も頭の惡いものであります。從って白痴は其の觀察が總じて皮相的であります。決して事物の眞相を洞察するといふことが出來無い。それから又或る印象を自分で頭の中に思ひ浮べると云ふ力は弱い。即ち外界の刺擊があれば其の刺擊に反應すると云ふことは出來ますけれども特に自分で或考へを頭腦の中に浮べ出すと云ふ力が非常に薄いのであります。即ち一方には皮相的であって多方的に觀るといふことが出來ず、他方には或感じに對抗する他の考へといふ者を自分で頭の中に浮び出さすといふことが出來無いものでありますから、從って白痴低能者は快苦の衝動の爲めに非常に強く動かされ易いのであります。即ち快苦の感は此の快苦の感は實に白痴低能者の意識を維持して行く主なる原動力である。即ちこれらのものが或事を覺えて居ったり又は或事をするのは其の動機は盡く快苦にあるといふことを申して居るくらゐであります。斯樣に快苦の衝動が强いから夫れ故に白痴低能者は自利心が非常に强いのであります。蓋し一方には快苦

の念が非常に強い。それと同時に他方に於いては自分の心て或事を頭腦の中に浮べ出すと云ふ力は薄く、觀念聯合の力は弱く、丁度今起って來た所の考に對して之れに抵抗するところの他の考を思ひ出すといふことが出來ないからてあります。其の結果徹頭徹尾自利心のみに支配せられる有樣になるのであります。そこてこは之れが白痴の性質延いて白痴教育の研究此の自利心の非常に強いと云ふことに關して一つの論爭を惹起するに至ったのてありますが、即ち或學者は白痴は自利心が非常に強く快樂を望むの念のみに驅られて居るから從って非社會的てある。否、更らに進んて反社會的てある、即ち社會に危害を及ぼす恐れある危險なものてある。故に白痴教育といふ者の趣意は斯かる危險なる者をして害を社會に及ぼさゝらしむる樣防止するといふ點にあると斯う唱へたのでありまず。是れは乃ち白痴低能者教育上の所謂消極論てございまして、最初之れを唱へましたのはソリエといふ佛國の學者てベルマンといふ獨逸の學者が之れに和し、更らに伊太利の有名な學者ロンブロソーの所謂生得犯罪者の義に解釋するに至りました。けれども之れは正當なる考ては無いので、吾々は寧しろ之れに反對てある所の所謂積極論といふ者を採らねばなりません。積極論と申すのは白痴低能者の教育は唯だ彼等をして社會に害を與へざる樣に防ぎ止むるのみならず、更らに進んて之れを改善せしめ進歩せしめて社會の爲めに成る有爲の分子に仕立て上げるのを趣意とするといふの説てあります。そは兎に角彼の消極論の起るに至ったと云ふのは所謂白痴は非社會的てあって其の自利の念が甚だ強い爲めてあります。それてありますから此の白痴と犯罪との關係と云ふ者は非常に大なるものてありまして、彼の窃盗てあるとか、放火てあるとか、或は殺傷と云ふやうな犯罪は白痴に非常に多い。一寸著しい實例を申しますると、千九百一年に埃太利の維也納て四歳になる小供が其の友達がパタを付けたパンを持って居るから其のパンを奪れと云ったら奪れなかったと云ふので遂に宅へ歸って小刀を持って行って直ぐに友達を突いてしまった。ところが其の刺した子供は白痴てあった。茲には巢鴨監獄の教誨師武田慧宏さんもお出てすから、よく御存じてせうが、日本にも斯かる實例は少なく無い。是れは後に猶ほ詳しく申し述べます。其の次ぎには尚ほ一言附け加へて云ひたいとは道德上並びに衛生上不當なる快樂を貪ることてあります。之れも快樂を

望む念のみが強く他方に之れに抵抗する考を頭腦に浮べる力が薄いから、白痴低能の者が此の惡風に染むことが強いのであります。此の弊は又仲々非常なものでありまして、彼の監獄に居る囚徒などは之れが爲めに遂に其の生命を失ふに至るものがあるのであります。獨逸のミュンヘン大學のフォレルといふ敎授は、此の問題に關する大なる研究を公に致して居りまするが、世の中に色情狂と云ふ者がある。處が其の多數は瘋癲白痴低能の者に多いのである。此の色情狂の實例を私が實地に目擊したのが、丁度私が獨逸に居りまする頃でございます。シャロッテンブルグの工科大學の一學生で女の頭髮を切る者があった。それが知れて巡査に捕へられたが其の居間を調べて見たら、机の抽出しや本箱などから女の頭髮が二十房から二十五六房も出て來た。自分の洋服の隱しにも一つ二つはいって居ったのである。此の學生は非常な變人で唯だ智力が相當に發達して居った者ですから大學の學生まで進んだのであるけれども、道德上に於いては元より低能者で、裁判の結果とうとう、病氣と云ふことで無罪になったのでありますが、さう云ふやうなのがある。それから最後に虛言です是れ亦低能白痴に多いと云ふことを前にお

話し致しましたが、此の白痴と云ふ者が虛言を以って途方もないことを仕出かした實例がある。例へばベルリン附近にポッダムと云ふ所がある。有名なフレデリック大王の住んで居った「サンスーシー」といふ奇麗な離宮のある處でありますが、此の地にお祖父さんとお祖母さんと二人住んで居って其の外にはカルヽと云ふ白痴の子供と家內は三人ぎりの家があった。處が其の家に於いて不可思議なることが毎度起ったといふのは、或時は家の眞中に人の骨が落ちて居たり、或時は大きな石が天井から落ちて來たり、又人も居ないのに石が飛んで來て窓に當ったり、棚の上に擧げて置いた物が家の眞中に持ち出されてあったりする。之れは必定所謂妖怪變化の仕業であらうと云ふので非常に喧ましくなってポッダムの警察署に訴へる。巡査が來る。探偵が調べる。五日も六日も此の家に泊って調べて見たけれどもどうしても分からぬ。此の文明の世にまさか怪物はないと云ってイロ〳〵吟味して見たからぬと云って匙を投げるに至った。お祖父さんもお祖母さんは共に怖れに震へて居る。あとは白痴のカルヽ許り。近處には人家も無い。どうしても原因が分から

無かった所が偶然のとから分かった。それは全く此のカル、の仕業であった。此の馬鹿者が斯やうなことをするとは夢にも思はれなんだ所のカル、の仕業であった。白痴て智恵も何も廻はらぬと思ったのが斯う云ふことを仕出したのであって、全伯林市二百萬の人士が之れが爲めに一驚を喫したのであった。それ故或る意味に於いては世に馬鹿程恐ろしいものは無いのであります、兎に角虚言は白痴が非常に多く用ふるものでありまして、其の虚言の結果途方も無いことを仕出すことがあるのであります。

第七節　低能兒の分類

異狀兒の種類と云ふものは非常に多く且つ其の原因は誠に多種多様であります。する故、偶々別々の取扱ひが必要であると云ふことは既に毎度も話致したところであります。斯様に多種多様であると致しますると云ふことは非常に大切なることゝなって参りまする。それで臨牀上の診斷を出發點と致して之れを科學的に分類した人も多いのであります。併しながら斯様に致しまするといふと、第一に非常に細かく分かた無けれはなら無いのと、第二に精神病學上非常に難かしい名を付けねばならぬのであって、例へば何々的何々的低能と云ふやうな風に極めて難かしい名が澤山重なって來て困ると云ふやうな風になるのでありまして、チョッと見た所では、素人には丸で分からぬのであります。之れは甚だ不便なことであります。それよりは一層斯う云ふ科學的の極難かしい分類法は全然捨てゝ仕舞って、寧しろ敎育上から見まして極めて通俗的に分類すると云ふことが必要であると、考へたのが丁度先きにもお話致しましたドモア氏であります。此の人は白耳義國ブリュクセルの補助學校の醫者でありまして丁度一昨年私がリエージに開催されました青年の躰育に關する萬國會議に列席致しました際に此のドモア氏もベルジューム國の委員として列席されて居りましたので、親しく色々の話を聞いたのであります。さて此の人の考が餘程適當であると思はるゝのであります。其の譯は今もお話したやうに科學上醫學上の分類は獨り素人に分からぬのみならず、醫術社會に於いては一致して居るかと申しますると、ヤハリ人に依って

其の考が違って居るのである。又同じ人でも時と場合に依って種々異なる名目を用ふることがあったり或は同じ語を用ひても其の意味に著しい強弱の差があったりすることがあるのである。正しく言はうとするには、其の度び毎に先づ解說を加へてかゝらなければならぬといふ樣な有樣であります。丁度異常兒と云ふ者が種々あって其の種々なる異常兒が又千態萬狀を以って現はれて居る。而して其の異常兒の內容と云ふものに就いては今迄述べ來った前數章に於いて吾々は多少の概念を得たのでありますが、偖て此の千態萬狀なる異常兒に對して之れに名を與へる即ち其の名に伴ふところの概念を明確にすると云ふことは此の節即ち低能兒の分類の仕事であります。そこで此の仕事に入る冒頭に於いて今申しましたドモア博士の分類法が最も善いと思ひまするから之れを擧げて見たいと存じます。之れは勿論敎育的醫療的の方法の上即ち取締上から見た分類でありまして、元より或人は之れに贊成し或人は之れに贊成せず低能兒敎育上一の論爭を惹起して居る問題でありますが、兎も角實際上の見地から見て私は之れを先づ適當と考へるのであります即ち次ぎの表の如くであります。

甲 言語に故障ある者
異常兒
乙 聾啞
丙 盲
丁 低能
敎育上の見地よりして
醫療上の見地よりして
受動的
頑固的
第一種の低能
第二種の低能
第三種の低能

玆に異常兒と申しまするのは即ち神經系統上に故障のある爲めに通常の敎育てはどうも工合が悪いといふ總べての兒童を總稱したものである。夫れ故に身躰の一部分に缺損があってそれより延いて神經系統に故障を起して居ると云ふやうな者もヤハリ含んで居るのである。即ち聾啞であるとか盲人であるとか云ふ樣な者も這入って居るのであります。けれども此の聾啞と云ふやうなものは之れはどうも醫師の方から見ましても當然他と異る特別の施設を以ってしての特別の敎育を加へなければならぬものであり、又事實何れの文明國に於いても此の點に就いては盛んに其の道を講じ而かも相當の成績を擧

げつゝあるところのものである。勿論極く理想をいへば、斯樣な不具者の敎育は未だ十分に發達致して居らぬのであります、して、或る人の申しましたる如く、十九世紀に於いて、比較的早く開け始めながら然かも、比較的遲々たる進歩を爲して居るものは此の聾唖其の他不具者の敎育である。けれども孰れの文明國に於いても或點までは行はれて居るのであります。從來此の不具者の敎育と云ふものは慈善敎育と唱へられて居りまするが、さて此の慈善と云ふ文字の意味が、人道仁善の發現といふ意味であるか、或は又單に志士仁人の博愛に待つ即ち社會の慈善的お情けに依って施すところの敎育と云ふ意味であるか、孰れてあるか。若し前の方の意味でありまするならば元より宜いのでありまするけれども、若し後者即ち世の中の仁者のお情けを受ける敎育であると云ふやうな意味であるならば、甚だ弱いと思ふ。私の見るところを以ってすれば、不具者の敎育と云ふやうなことは是れ國家なり自治團體なり當然行ふべきことであって、決して彼の志士仁人のお情けに依って成立って居るまゝに任して置くべきものでなからうと思ふのである。國家或は自治團體と云ふ人間の集合團體が當然之れに力を用ひ、猶ほ其の上に志士仁人が

之れに協力するといふのが、必要にして且つ善良なることであらうと思ふのであります。けれども此の講義に於いては吾人の研究の當體は其の範圍を低能兒に限られて居りますから此の方は多く說きませぬ。即ち私の問題となるのは此の分類表中の丁であります。丁に屬する者は精神上の劣弱若しくは異狀の爲めに……兎に角通常の敎育を受くるに適しない者を指すのであります。ソコで此の低能兒の中で其の原因が其の小供の長年間に涉って經驗したる廣義に於ける敎育に歸せらるべきものであるならば即ち之れを敎育上の見地よりしたる低能と稱し、之れに反して其の原因が疾病即ち其の病的事情に出て來たものであるならば之れを醫療上の見地よりして見たる低能と稱します。

第一　敎育上の見地よりする低能兒

或兒童は四歲、五歲若しくは六歲に至るまでに全く通常に育ちまして其の感覺機關の機能は秩序正しく働き、理解も感情も決して缺點を示さなくて居る所が五六歲の頃になりまして、丁度最も適當なる敎育……勿論廣義の敎育乃ち玆ては

保育である……を加へられなければならぬに拘はらず實は然らずして全く捨て置いて顧みず唯だ惡いことをすると叱る、それから又學校へ來ての後でも怠けたゝ隱れ遊びをしたりし、受業もサッパリ進歩をしない、それでも側の者が特によく注意し無いといふやうな境遇に於ける子供がある。斯かる子供は、其の心理的狀態が通常の小供に較べると二年も遲れて居る。ところが段々と歲月を經まして四年立ち五年立ち致しました曉と成りますると斯くの如き子供は、兩親の罪によって所謂教育上の低能兒となってしまふのであります。斯かる子供は大都會の地には殊に多いのであります。殊に勞働者の多く居住して居る區域や住民の移轉即ち一の場所から他の場所、第二の場所から第三の場所と轉轢流浪致しまする區域に於いて特に多いのであります。二三年の內に四度も五度も住居を換へ從って學校も換へる子供がありまするが、斯かる小供は其の智識に缺損が多いのみならず人格全體として教育上の低能になるに至るものが仲々少なく無いのであります。是れは第一種であります。

それから又十二歲、十四五歲乃至十八九歲頃までは全く通例でありまして、其の後に急に其の傾向及び性質に異狀を來して參る者があります。其の徵候ともいふ可きは隨眠を催ふし、其の精神生活が遲緩となり、受業に堪へない。それから罪に對して無感覺になり、晦としては其の性質が一般に殘忍となることがある。是れ等は何時かもお話致しました如く、其の原因が多く教育法の上に存するのでありまして所謂教育上の低能の第二種であります。申す迄も無く小供と云ふものは始めは兩親若しくは之れに代はるべき保護者の下に立って居る者であります。ところがソレが學校に參りまするとか、小供の精神生活の上にこゝに一の新らしい時機を開くものでありまして小供は從前とは全く異なる境遇に其の身を置かるゝのであります。即ち或は自分と全く考へ方の異なって居り又感情も違って居る所の子供即ち仲間といふものに接觸し交際する。又今迄自分が兩親或は家族の間に居った者が今度は教師に萬事監督せらるゝことになり、即ち今迄とは全く違ふ人の下に立って全く違ふ方法によって教育を受けることになる。さう云ふ譯でありますから、或小供は初めの中はどうしても此の方法に自分の身を適應せしむることが出來ないのであります。教師の方でも矢張りさうでありまして直ちに之れを

十分知ってよく此の點を考へると云ふとが出來無い。ソコて事實上敎師と生徒との融和といふとが出來ないのでありまする。斯樣なる譯で或小供は其の爲めに知らず識らず徐々に低能になると云ふことがあるのであります。ソレは如何なる場合に起るかと云ふことの詳細に至っては後に詳しく申しますが、玆には先づさう云ふ小供の境遇が一變する時に於いて小供の方も之れに適應することが出來ず、敎師の方にも考が足らない爲めに低能の傾を生じ、さうして後に至って其の結果が現はれて來るものがあると云ふことだけを申して置きます。それから又家庭に於ける關係が良好でなくして、親たるものが元來小供の敎育といふものは非常に難かしいものてあると云ふことを了解致しませず、小供の心と云ふものは親の心を以っては仲々推し量り難いものてあると云ふことを考へず、或時には寬大に過ぎ、そうかと思ふと又或時には峻嚴に流れ、其の結果多大の影響を小供の精神狀態の上に及ぼすものでありまする。一言以って之れを掩へば家庭の事情と云ふものは又此の敎育上の低能兒と稱するものを作る原因の一となるものてあります。それから又或小供は疾病の爲めに……例へて見ると貧血てあるとか或は腺病或は

舞踏病或は皮膚病と云ふやうになった爲めに醫師の勸告に從って轉地療養をすることがある。例へば都會に居った小供を靜養さす爲めに田舍にやることがある。或は同じ田舍ても他の地方の親戚などへ預けることがある。處が斯かる場合に於いては動もすると全く學習を疎かにしたり或は其の土地の惡い風に染むことがある。即ち學ぶ所は少しも無きのみならず、惡い遊戲を致したり善く無い見聞をしたり、又は面白からざる習慣を得るなど、不良の影響を受け其の結果今度再び歸って來まして適當なる進步をなし難いやうに成ることがあるのてあります。元來或種の病氣例へば舞踏病の如きは、それが治った跡でも其の病後が仲々長引くもので然かも其の間は注意が集注し無いとか、精神の働きが遲緩と成ったり、其の意思や慾望が誤れる方向に表はれたりするものてある。それ故斯かる時期の敎育は餘程善く注意をせぬと誤り易いのてある。處が若し之れを誤るといふと、其の結果は洵に悲慘なものであって、即ち永久恢復の出來ざる低能に成ることがあるのてあります。

今申しましたやうな原因て敎育上の低能になって行き居りまする小供に就いて

其の經過順程を見るといふと、概して二つの時期を通るやうてあります。其の一つを反應的時期と云ひまするし、其の二を不活動の時期と申します。反應的の時期と申しまするのはさう云ふ自分の力量に合はぬところの、即ち殆んど誤った教育を受けて居る間に而かもそれに對して頻りに爭鬪致して居る時期てありまして、之れが客觀的の表章ともいふべき證據は其の小供が罰せらるゝことが非常に多くなって來ることてある。今少し詳しく申しまするならば、子供が例へば力に合はぬ無理な教育を受けて居るとか或は身躰に疾病上の缺點があるに關はらず、普通の教育を强ひられて居る時には其の小供には無理なことてありますから、おのづから不調和が起り、勢ひ滑らかに之れに從って適合して行く譯に行かぬいて其の結果毎度罰を受けるのてあります。第二の不活動の時期と申しまするのは、第一の反應的の時期て、頻りに抵抗しては抑へられ、反應を起しては壓せられた結果、もう抵抗力を失ひ反應力を失ひたる結果到着する時期てありまして、もう此の時期になって仕舞ふのてあります。所が受動的てあると言ふ丈けには止まら無いて實は其の子供の品性といふものが其成ると受動的てヂッとして動かぬやうに不活動てあると言ふ丈けには止まら無いて實は其の子供の品性といふものが其の間に破壞せられてそれから又其の教育法が小供には全くどうても宜い吾れ關せず焉といふ風になり即ち叱られやうが又賞められやうが、物を數へられやうが、又捨てい置かれやうが、そんなことはどうてもよいと云ふやうになって全く應じなくなるのてあります。モー此の時期に達しまするど兩親教師は小供に對して何等の影響をも及ぼすことが出來無く成り、小供の注意力は元より段々減少し、全く訓練せられざる狀態と同じやうになりまして、少しも抵抗力をも示さゞるやうになります。所謂病膏肓に入った狀態てありまして、ソコて教師の方から見ますると、ヤハリ相變らず惡いと思ふから、自然罰を多く科する。それに從って小供は益々怠慢となる。さうなると學業は益々退歩してしまって、それが高ずると果ては遲鈍になって仕舞ふ。其の甚しきに至っては殆んど白痴と區別し難き程の狀況に進みます。斯かる教育上の低能兒の中には之れを智力的並びに道德的に觀察致しますると色々の種類があるけれども其の性質上から見ると、受動的と、頑固的との二種に分かれまず。

第二　醫療上の見地より下する低能兒

第七節　低能兒の分類

第一のものが生活上受くる教育上の原因より生ずるものなるに反して、これは胎兒の時並びに生後の發達中に受けたる病的原因から起るものでありまして、或は白痴或は愚鈍或は低能兒或は道德上の劣弱、或は智力上の劣弱等色々あります。其の程度に於いても唯だ寢小便を流す位のものから箸にも棒にも掛からぬ全くの白痴に至る迄實に千差萬別でありまして、或居りますけれども實際上の見地から見ると先づ三つに分かつのが便利であります。今此の三種に就きまして少しく詳しく説明を申し上げて見たいと思ひます。

第一種は道德上の低能或は第一種の低能と稱するものであります。これは其の精神發達は少しは進んで居りますけれども、其の精神の活動の種々の方面に甚だしき不同がある。其の上或は意思の不確立、或は其の行爲が其の生活條件に適合しないといふやうな種々の徴候を示すものでありまして、其の精神狀態如何にと尋ねますれば空想的であって變じ易きことさながら秋の空の如く且つ其の機嫌が時々變りまする。即ち調子の善い時には誠に上機嫌であるけれども調子が惡いと非常に困ると云ふやうな有樣で殊に常軌を外づれた行ひとそれから不道德

なる行ひと致します。前きに申し述べたるソリエ氏の所謂非社交的であるといふことといふ無責任であると云ふことは殊に此の小供に多く表はるゝ徴候であります。

それから第二種の低能……之れは理解は可也發達して居りますけれども其の心理的活動は一般に低いのである。但し其の活動の方面に大なる不同差等はないのでありまして大低平均は致して居るけれども全躰として通常の子供に比べて概して低いと云ふものである。其の徴候を申しまする。其の注意が弱く意思が薄弱で其の行ひが器械的であります。然かも其の故障の異なるに從って或は運働の點に於いて或は聽力の點に於いて或は腦髓の何處かに故障がありまして其の腦髓の何處かに故障があります。斯かる兒童は器械的の勤勞には適當して居りますが然し其の活動は單調であります。又獨創獨見創作と云ふやうなことは概念と云ふものゝ成立が困難であります。從って受身的ではありまするけれども併し先づ殆んど出來ないのであります。從って危險が少ない白痴であります。ひどい惡い事をするやうなことは少ないのであ

りまするが其の代り又自分の考で何かやり出すと云ふやうなことは殆んど無く、常に受身的であるところの兒童であります。

第三種の低能……之れは其の意思發表及び注意が殆んど不可能であります。寢小便をする。それから總べてが勤勞には堪へませぬ。其の機能の點から見ますると殆んど腦髓がないのかと思はるゝくらゐである。即ち大腦を有っては居るけれども其の働きから申すと大腦を有って居らぬのと同じである。更らに甚しいのに成ると大腦だけじやない延髓並びに脊髓をも缺乏して居るのぢやないかと思はるゝ場合もございます。それで此の種の低能は又其の原因である所の疾病の種類に應じて種々に分かれるのであります。

（あ）癲癇

（い）水腫的白痴

（う）癲癇的白痴

（え）黴毒的白痴

（お）過大頭及び過小頭白痴

（か）嫉衝疾病より來る白痴

（き）其の他の疾病よりせる白痴

以下順に說明致します。

（あ）癲癇　之れは存外其の表徴が分かり易い。其の身躰は大きな者もあれば小さな者もある。歐羅巴の統計に依りますると山地に多い。即ち山間溪谷に住んで居る者に多い。それから其の存在の範圍は、瘰癧と云ふ病氣の範圍と略ぼ一致して居る。此れはドモア氏の說でありまするが之れは其の譯があるのです。蓋し此の癲癇も彼の瘰癧も同一の原因から來るので、即ち腺の機能の不十分から來るのでありまして殊に同一の人て癲癇兼瘰癧と云ふのが頗ぶる多いそうてあります。さて此の白痴は初生の月に於いて早く現はれるともあります。是れは純粹の生得てありませう。又生後一二年に於いて現はれる者もありますが、併し七歲以後に於いて初めて現はるゝものは極めて稀れて大抵は其の前に既に分かってしまふのてあります。此の小供の徴候は廣がった然かも不規則な形の頭を有って居り、目の光は薄く、眼瞼は大きくて、且つ其の目を開いて居ても眼瞼が半分ばかり

塞がって居る者が多い。額はズッと低くなって居って鼻は獅子鼻で廣い、口は大きく唇と舌とが厚い。頭の踊り子は初め非常に大きくて其の閉ぢてひっつきまする時機が遲い。齒は不規則に成長致して居りまして身躰は通常より小さい。其の精神發達は甚だ遲れて居りまして其の顏に活動が少なく且つ其の表章が受身的であるのを以って特徴と致します。以上は子供の癡癲でありまするがさて之れが成長して大人になるとどういふ徴候を示すかといふと大抵發達が惡くって其の躰格が良く無い。其の運動が遲緩であって其の歩行がノソ〳〵と熊のやうである。それから咽喉が短かくて時として瘰癧のやうな腫物が現はれ其の顏面に表情が少なく目が双方に相距って居る。口は大きく唇が厚く齒は惡い。其の精神發達は程度に應じて元より種々あります。

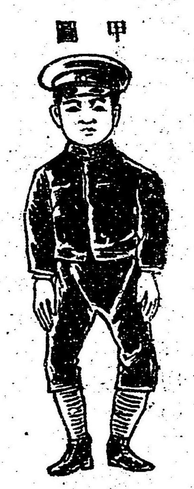
(い) 水腫的白痴　腺病が外部に現はれない時は水腫と成って他の病的狀態を現はしまする。世に所謂馬鹿の多數は實に此の水腫に歸すべきものでありまして、醫術上種々の名目がありまする。これには其の程度に依って多少違って居るところが無いでもありませんけれども概して申しまするとつぎに申しまするやうな特徴

を具へて居りまする。即ち身躰は中背で而かも其の各部の調和を得て居ない。身躰の釣り合ひといふものが充分に取れて居無い。皮の下層に水氣を有って居ります。そのくせ皮膚は乾いて居る。目に活動がなくって鼻が廣く且つ平たい。それから口が大きくて且つ常に開いて居る。唇が厚くて舌が長い。髮の毛は薄い。智力は低く且つ觀念の分量が少ない。言語が甚だ不明で其の聲が濁って居って響が惡く人が聽いても不愉快の感を起すのである。猶ほ此の水腫的白痴の中に「モンゴリア」的白痴と云ふものがある。之れは英吉利人の付けた名であって又此の白痴の事は英國の醫者がよく調査研究致しましたが其の特徴は目が釣り上がって居る。西洋人は日本人や支那人は目が釣り上がって居ると云って居る。それで向ふで描いた繪などを見ると日本人や支那人の顏は餘程釣り上って居るやうに書いてある。私は獨逸の學校で日本のことを教へる爲めに使って居る掛圖を持って歸って來ましたがそれなどには著るしく目が釣り上がって居るやうに書いてありまする。そは兎に角目の釣り上がって居る白痴だから之れを「モンゴリア」的白痴と名づけたのでせう。その徴候は水腫的白痴とよく似て居ります。

第七節　低能兒の分類

（う）癲癇的白痴　此れは癲癇を有って居る白痴でありまして其の程度に應じて種類が非常に多いのでございます。一躰此の癲癇的白痴は白痴の中でも餘程に多いのでありまして、伯林の近くにダルドルフと云ふ所があり、此所に白痴院があります。此の白痴院には、多い時には三百四十餘人、少なき時は百四十七人の白痴兒を收容して居りますが其の多い少ないを平均して統計を取って見ると、其の中の一八五パーセント乃至二四三パーセントは癲癇的白痴である。又ランゲンハーゲンの白痴院は多い時には六百六十八人、少ない時でも三百九十五人の白痴を收容致して居るが、數年の平均を取りました中で一五一八パーセントは此の癲癇的白痴であります。此の癲癇的白痴は一種の特徴を有って居りまして癲癇の起る毎に益々低能の度が加はって、遂に眞の白痴或は氣狂になるのであります。此の小供は或一方面のことには頗ぶる力が發達して居ることがあるけれども其の他に於いては不十分でありまして、且つ最も困ることは癲癇が沈まって居るときに教へたことなどはナカ〳〵能く覺えまするが一旦癲癇が起ると折角覺えて居ったことをもスッカリ忘れてしまふのである。即ち教育上教師が骨を折ったことを殆んど水泡に歸せしむる甚だ困った低能者であります。

（え）黴毒的白痴　黴毒の傳播は不幸にして非常に廣い範圍に渉って居りまするけれ共、此の黴毒的白痴の存在いたしまする範圍は幸にも之れに較べると甚だ狹いのであります。殊に其の原因の明らかに黴毒であると確證せらるゝ樣なものが餘り多く無くてどうやら黴毒的らしいと推斷せられるやうな場合が多いのであります。其の特色は丁度彼の肺病の人の頰が少し赤くなって光澤を失って居るやうな皮膚の色を示して居る事。發達が頓に止んで仕舞ふといふ事。それから齒が腐蝕して居る事。殊に著しいのは其の前齒が半月形に缺けて居る事であります。それから骨に異狀を呈して居りまするので、例へば軟骨病であるとか或は脚が曲るのであります。之れに二種ありまして獨逸の言葉で申しまするとオーハイネと申しまするイックスハイネと申します。即ち前者は甲圖の如く是れは足が一つは0の字の形になって居るのであって後者は乙圖の如くXといふ字の形になって居るのであります。共に軟骨病であります。それから口の周圍に疵の痕の如きものがある。又皮膚の下に異狀を呈する。即ち皮膚と筋肉との間


甲圖

乙圖

に異狀を呈するといふ樣な種々の特徴を具へて居ります。

(お) 過大頭及び過小頭白痴……これは腦水腫とは別であるらしく、解剖學上病理學上種々な原因から起るのであります。腦水腫で見ますると此の間もお話しを致したる如く其の頭の容積が一夜の中に二倍に達するといふ樣な驚くべき病狀を呈するが、過大頭過小頭は生れた時からさうで有りまして酷い急激の變化を來すことは無いのであますけれ共、敎育的の効果は甚だ薄いのであります。

(か) 燃衝的疾病より來る白痴　先づ腦燃衝即ち大腦の表皮に於ける燃衝は其の後に白痴を持ち來すのであります。そこで其の燃衝の場所及び强さに應じまして其の白痴低能に種々の程度を生じますけれ共、その現はれましたる徴候によりて即ち斯ういふ徴候を示すから腦の此の部分に故障があるといふ其の部位を

溯り窮めるといふことは困難であります。

(き) 其の他の疾病より來る白痴　是れは其の原因が確かに分からない白痴であります。元より或は生前或は生後の種々の原因から起るのでもありませうけれ共、兎に角其の起りの審らかで無いものをスッカリ集めて此の彙類の內に入るいのであります。さて以上申し上げましたる二章七節を以って前編と致しまして次ぎは後編に移ります。

後編　低能兒教育の實際

第三章　歐米諸國に於ける補助學校、補助學級、及び之れに類する施設

第八節　補助學校、補助學級の沿革並びに發達

補助學校は所謂低能兒のみを收容する學校でありまして其の最初の起原は前世紀の半頃であります。其の搖籃の地は獨逸でありまするが故に先づ獨逸の狀況を御話申し上げやうと存じまする。その最初起りました時に於いては、

第一　獨逸國に於ける狀況

獨逸に於いて最初斯樣な種類の學校の起りました時には元より補助學校或は補助學級と云ふ名目は有って居りませぬので、副級或は補助級或は救助級といふやうな名をつけて居ったのでございます。今日獨逸では小學校の事を國民學校と申しまするが當時は小學校でも左樣な名を有って居りませなんだので、多くは貧民學校（アルメン・シューレ）といふ名を有って居ったのであります。そこで最初の救助學校は『ハッレ・アム・ザーレ』といふ處の貧民學校の生徒の爲めに起ったもので、即ち千八百五十九年九月二十九日の『ハッレ』市の小學校長會議の記錄を見るといふと、同市の小學校長であって後に『メルゼブルグ』の視學官になりました『ハウプト』といふ人が斯う云ふ事を言って居る。『丁度今此の『ハッレ』の町に於いて能力の充分で無い子供が十七人有る。此の十七人の爲めに成るべく二時間宛特別の教育を施したい』と斯う云ふ說を出して居ります。所が此の說が此の市の學務局の容るゝ所となりまして小學校の敎師が通常の課業の外に即ち此の到底通常の授業に於いては敎ふることの出來ない低能兒のみを集めて二時間づゝ救助級といふものを組織して敎ふる事にしたのである。此れが抑もの始めてございまして、それから段々と時を經るに隨ひまして其の授業時間を多く致しまして遂に一週二十時間をも敎ふるといふ事になったのであります。是れが即ち後に特別學校といふものゝ發達いたしまする發端でございまするが、此の『ハウプト』といふ人は後には議政官視學官に成って丁度私が伯林に參りました年に死んだのであります。此の人が即ち今日補

助學校といふものゝ最初の創立者と認められねばならぬのであります。勿論補助學校の始めはハッレでは無くして、ドレスデンである。ドレスデンで或女教師が十六人の低能兒を集めて、特別教授をしたのが始めだといふ説もありますが、併しそれは千八百六十七年のことで年代から言って遙かに後に成るのであります。けれども斯かる爭ひは此の研究には大關係の無きことでありますから玆には申し述べませぬ。兎に角此のハウプト氏の考がハッレから段々とサクセン州やプロイセン州に弘まりまして漸次に教育者が低能兒教育の理論なり實際なりに着眼する事になったのでございまする。千八百六十三年に至り有名な教育學者ケルン氏はライプチッヒに開催いたしました教育會に於いて所謂低能兒の教育並びに撫護が一般に望ましい事であるといふことに付いて演説を致しまして、尚ほ進んで之れが爲めに特別の學校を施設するの必要が有るといふことを論じましたのでございます。其の翌年即ち千八百六十四年に至りましてステッナーといふ人が『低能兒の學校其の創立の最初の計畫』と題する書物を出したのであれは僅かに四十三ページの小冊子でございまするけれ共、低能兒の教育に關して著はさ

れた最初の本ではあり、且つ其の中殊に大都會の學務局に向って低能兒の爲めに特別學校を施設するの必要あることを勸告致し、其の理由として、是れ等の兒童を其の儘に捨て置くといふ事は、實は他日其の町なり市なりの人民の桎梏となる譯であるからどうしても之れが爲めに特別の施設をなすことは都市の爲に緊急の事業であると云ふ事を懇々と述べたのであります。所が此のステッナー氏と彼のケルン氏との二人が合同協力致しまして千八百六十五年にライプチッヒ市に於きまして全國教員會議の開催せられしを機會と致しまして、此の會議中に於いて、療治教育學部といふ部面を設け、又同じ年にハノーバー市に臨時低能白痴教育期成會といふ會を組織したのであります。此のケルン、ステッナー兩氏の協同盡力の結果がライプチッヒ市に築えずして却ってドレスデン市に於いて花を咲かすに至ったのであります。ドレスデンでは前きにも申しましたる通り、千八百六十七年に十六人の低能兒を集めて獨立の補助學級を創めましたので、是れ或熱心なる女教員が自分の金を投じてこしらへたのであります。それから七年程の間にグラ市之れに倣ひ、エルバーフェルド之れに次き、千八百八十一年にブラウレシュ

ワイグライプチッヒ等が又之れに倣ひまして今日では何れの處と雖も競うて之れを建てることになりました。千八百九十三年にイルメナウで開催しましたるテューリンゲル地方諸都市聯合會の如きすら補助學校若しくは補助學級を以って緊急な事業であると議決いたしましたのでありますが、一般に斯かる形勢であるに拘らず獨り伯林市に於いては二個の理由の下に之れを設くることをせず唯だ千八百九十八年以來副級といふ制度を立てたのであります。即ち伯林では小學校に居る子供に心身の故障の爲めに通常の兒童と共に教育を受けることの出來ない者のみを此の副級といふものに移すのであります。そこで副級といふのは普通の小學校の學級と同じ事で唯だ其の學級の人員丈けを減ずのであります。其處に移しまして充分個人的の注意を加へる結果として可なりに發達いたしましたらばそれを再び普通の學級に返すといふ事が目的になって居る。斯様なものを設けて補助學校や補助學級を作らなかった理由が二つあるといふことを今申しましたが、さて其の二つの理由といふのは千八百九十八年から同九年に亘る伯林市長の發したる行政報告の中に明言致してあります。其の文言に曰く『多くの

都市は競うて特別學校を設立することになって人道的の目的を達せんことを謀って居る。然るに獨り我が伯林市のみは其の擧に倣ふこと能はざる二箇の理由がある。その第一は伯林に於いては生徒通學の距離が甚だ遠隔して居ることとてある。文第二には、補助學校を特設するといふ事に依って其處に這入る兒童は是れは低能兒であるといふ捺印を永久に捺さるゝことになる。是れは面白く無いことである。是れ等の子供をも矢張り町村學校の兒童といふ名前の下に留めて、唯だ一時其の人員を少なくしたる所に於いて充分に發達せしめ然る後出來べき丈け早く再び元との級に復歸せしむることを努める方が宜い』といふ事を申して居ります。そこて其の實際の有樣を見ますと一組の最多數を十二人と極めて一週十二時間の授業を施して居る。それならば如何なる兒童を普通の學級から拔いて此の副級に移すかと申しますと、それは引き續き二個年落第した者といふことになって居ります。是れは伯林市に於ける所謂副級といふものゝ組織でありますがさて此の伯林市の副級組織は其の目的である所の、成るべく早く元の級に復級せしむるといふの點に於いて果して實効を奏して居るかどうであるかといふ

ことを實地に就き又統計に據って調べて見ると甚だ實効を奏して居無いのである。即ち一年經ち二年經ても仲々原級に復歸せしめ得る樣には成ら無いのであります。千九百〇三年に於いて斯樣な組織て出來て居りまする所の副級の數が丁度九十一であって之れに收容して居った所の兒童が男子が七百五十五名、女子が五百七十三名あったのでありましたが、其の內僅かに三十六人の男子と二十九人の女子と丈けが再び普通の學級に復歸したのであります。斯樣な實地經驗上の結果から致して遂に獨逸の他の都市に倣うて補助學校の制を採るを可とすと認むるに至り、また他方に於いては千九百〇三年三月二十六日に於いて低能兒敎育保護會といふものゝ設立を見るに至りました。今日に於いてはギチッキー氏といふ人が此の會を主幹致して居ります。此のギチッキー氏は是れより前に伯林でも補助學校を設け無ければならぬといふことを痛論したのでありましたが、市學務局の方でグヅ〳〵して居ったのである。そは兎に角、斯かる有樣であった所から此度は此のギチッキー氏の提案に基づきまして先づ副級の分合といふことを行った。即ち澤山の學校に附設せられてあった九十九個の副級を四十一の學校に分合致しました。

伯林市の有樣が斯くの如くなる間に普露西の文部省は斯かる運動に對して如何なる態度を執って居るかといふことを見ますると、明らかに補助學校の制を宜いと認め、諸處に段々と發達いたして參りましたる所の此の組織を保護して行くの方法を執って居りまする。即ち千八百九十二年十一月四日の省令に依りまして完結級の設置を許し、又補助學校補助學級の發達を奬勵致して居りまする。完結級と申しまするのは、色々の事情の爲めに小學校の八個年程をすっかり修了することが出來無いとか、或は心身の弱い爲めに八個年程を悉く修めることが出來無いといふやうなものゝ爲めに、少し許り年限を短かくして卒業の出來る樣に特に設くる學級であります。是れは此の問題には直接關係は無いが因んで茲に申し述べて置きます。さて此の訓示に於きましては、補助學校並びに補助學級に關して五つ許りの注意を擧げて居りまするから、それを述べて見ますると、先づ第一は補助學校並びに補助學級に於いては醫師と敎員との協力が必要であると奬勵いたし、且つ兒童の發達の狀況と云ふものを十分に考慮せよと云ふこと。それから第二に低能兒の敎育に於いては一學級內兒童數二十五人を超えざるをよしとす

ること。第三に適當なる敎師を特に選んで補助學校を受持たしめ且つ之れに從事する敎員には一定の俸給の外更らに手當を加ふべく從って之れが爲めに敎育費の豫算を多くせよと云ふこと。又第四と致しまして、授業時間は通常の一時間を二つに分けるが宜しい。而して補助學校に於ける學級敎授の目的は通常の學校の之れに匹敵する級の先づ其の半分を敎へらるれば宜しい。それから更らに進んでは、補助學校の最上級と云ふものは即ち普通の學校の中級にて達する所と同じからしめて宜しい。それから第五に特に身躰上の熟練並びに實際上の能力を發達せしむるに足るといふ敎科に重きを措いて敎授せよ等の數ヶ條を含んで居ります。それから千九百一年四月六日に至り普漏西文部大臣フォンスッット氏は再び訓令を發しました。それに依りますると能力が尋常でない學齡兒童の敎育に關しては、全普漏西王國中四十二個の市なり町なりに於いて九十一個の特別學校があって二百三十三の學級を有って居る。それに四千七百二十八の兒童を收容して居ると云ふ現在の有樣であると述べまして更らに學校醫のことに論及いたしまして、是れ等の補助學級に於いては學校醫が其の仕事に參與すると云ふこと

は當然缺くべからざる所のものである。それで、どうか是れ等の學級なり學校なりに於いて一定の時期に必ず其の兒童を診察すると云ふことの無いやうな學校が一つも無いやうになりたいと云ふことを切に望むと云ふことを申し述べてあります。それから次ぎに進んで補助學校から其の子供を普通の小學校に移すことに關して次ぎの如くに申してあります。即ち地方に依りましては補助學校に長く居った兒童を年齡が長じて居るからといって普通の學校に轉學せしむる所があるやうであるが是れは甚だ避くべきことである。蓋し之れが爲めに其の普通の學校に於いて其の子供と外の子供との年齡の相違が非常に大きいものになって授業上之れが爲めに非常に困難を感ずるからである。元來斯う云ふ困難を避けるが爲めに丁度補助學校の制があるのである。それにさう云ふやうなことをするのは、甚だ其の意を得無い次第である。その上他方から云ふと補助學校に於てたると普通の學校に於いてたるとを問はず兎に角八個年さへ就學すれば世の中に出ることになりますから長い間補助學校に居ってそれから年が長じたからといって普通の學校の下の方の級へ入ったものは、また下の方の級に居る中にも八個年の義務年

限が立って仕舞ひますから、勢ひ、小學校の下の方の級丈けやってそれで直ぐに社會の實際生活に就くといふ譯に成りまする。即ち實際生活に對する準備としては甚だ不十分なる教育を受くることになるのであると警しめてありまする。それから一昨々年即ち千九百〇五年一月二日に至りまして更らに又省令を發して居ります。是れ又補助學校の創立に關する積極的注意であります。兎に角普漏西の文部省は補助學校の制を奬勵するの方針であります。即ち段々と市町村の方で發達致させて來た所の補助學校に對して便宜適當なる注意を發布致しまして其の健全なる發達を保護指導するの趣意であります。けれども强迫的には未だ何等の指令をも發して居りませぬ。それは思ふに十分愼重に經驗を集めつゝあるものでありませう。

以上申し上げた所は主として普漏西の狀況でありますが、他の聯邦に於きましても漸次之れに倣って發達いたして參りました。丁度普漏西と時を同じうして訓令を發したのはザクセン王國でありまして他の諸州も此の二大聯邦に倣って參りまして現在にては、千九百五年一月十一日の調査に依りますと全獨逸國に於いて

補助學校の制を有して居りまする市町の數百八十個所、其の學級數て四百九十二、五千八百六十八人の男兒と、四千七百五十三人の女兒とを收容致して居ります。之れに伯林市の副級在學の兒童を加へて合計致しますと云ふと全獨逸國に於いて學級數が五百八十三で此處に收容せる男兒の數が六千六百二十三人女兒の數が三千三百人と云ふことになります。それから又此の補助學校なり補助學級なりに從事して居る教員全躰は聯合いたしまして一の大なる會を組織して居ります。是れは千八百六十八年にハノーバー市のドクトル、ヴェヤハーン氏の盡力に依って創られたものでありまして總べての補助教育上の一大聯合會でございます。此の外各地方に於いても又郡にもそれ〳〵小さい聯合會があるといふ譯になって居りまして是れ等の會に於きましては種々の研究を爲し其の結果は段々と報告せられて居りまして、又之れが研究のみを目的と致して發兒せられて居る雜誌もございまする。

第二　澳匈國に於ける狀況

次ぎに歐洲に於ける他の諸國に就いて順次に補助教育發達の狀況を大躰丈け

申し述べませうが先づ獨逸の東に隣接致して居りまする澳匈國の中墺太利に於きましては千八百九十五年を以って此れが運動の始まった濫觴と致しまする。曾ら く立って、首府維納の地方市學は此の維納市の國民學校並びに市民學校に於いて特別部と云ふものを設けたのであります。それから千九百二年に至りまして、低能兒保護と云ふ一の組合が創立ぜられました。これは成るべく通常の小學校に密關して低能兒教育の施設を益々多からしむると同時に更らに他の一方に於いては、廣き意味に於いて低能兒保護即ち主として彼れ等が學校を出てから後の保護に盡力致すことになりました。併し概して論ずる時は此の國に於いては低能兒教育は尚ほ未だ大に發達進歩せりと言ふことは出來ぬので、全墺太利國内に於ける補助學校の數が獨逸のハンブルヒ一市に在る補助學校の數と丁度匹敵いたして居ります。夫れ故に異常兒即ち通常で無い子供の多數はまだ全く教育を受けないで居るか、若しくは通常の能力の子供と同時に小學校に於いて學んで居ります。

次ぎは匈牙利國の狀況でありますが千九百五年に出ました『コス』（曙光の義、低

能兒教育法研究の雜誌）といふ雜誌の第一號に據りますると匈牙利國に於いても近時補助教育を盛んにせんとするの運動が起って參りましてブダペストに『アウスヒルフスシューレ』といふのが出來て種々の特別學級をこしらへた。「アウスヒルフスシューレ」といふのは、獨逸の『ヒルフスシューレ』と同じことで、種々の特別學級といふのは、低能の種類に應じて子供を分類し、斯う云ふ性質の低能兒はこちらへやる、アヽ云ふ者はあちらの方へ入れるといふやうに同樣のものを彙類して種々の部を設けてそれぞれ特別の教育を施して居るのであります。それが初めてでありますが、匈牙利國には療治教育視學官といふものが置かれてありまして、これが段々と補助學校の方面に着手いたして參りましたので、丁度其の視學官の筆頭たるドクトル、ナライスザボーといふ人が同時に文部省の特別教育部の部長をいたして居りまするが、此の人の意見に據りますると、此の匈牙利國に於いても一方には成るべく澤山な療治教育的の教員を養成し他方には補助學校を全匈牙利國に普及せしめて以って特別教育の實を擧げたいといふ意見を發表いたして居ります。

第三　瑞西國に於ける狀況

次ぎは瑞西國でありまする。此の國は敎育の甚だ盛んな處でありまして國の小さい割合に敎育に費用を多く掛けることは恐らく全世界中第一等でありませう。是の國に於いては御承知の通り軍隊といふものが要らない。無論海軍も要らない。そこで此の方面に費す可き費用を擧げて之れを敎育を進歩せしむる爲めに用ひて居る。即ち國防に要すべき費用を以って國民の內部的發達の資に投じて居るのであって、隨って此の國に於いては特別敎育の如き者非常に能く發達いたして居りまする。私は一ヶ月半ばかり此の國に滯在しまして色々實際やって居る所を視察致しました。其の大略は文部省に提出致しました瑞西國學事の狀況に關する報告中に揭げて置きましたが、さて此の國に於ける特別敎育の起源に溯りまする と、實に千八百八十八年以來補助學校を設けましたのでありますが、斯樣に低能兒の爲めに特別に設けた學校即ち補助學校を瑞西に於いて設けたのは果して何處が先鞭を着けたのであるかといふ事に付いて今非常に論爭致して居る。即ちベルン、バーゼルの二市が互に喧嘩して、自分の方が先きてある、イヤ此方(コヽラ)が先きてあるというて論爭して居りますが要するに殆んど同時に始めたのでありませう。兎に角此のバーゼルとベルンと二つの市が一番初めでありませう。それから段々と增加して、千九百三年に至りましては五十三の補助學校がありまして千〇九百十六人の兒童を收容いたして居ります。そして十二人の男敎員と四十二人の女敎員とが之れを擔當いたして居ります。尤も極く小さい國でありますから學級の數は元より多く無いのであります。此の外此の研究發達を目的として千八百九十八年に全瑞西國聯合組合といふものが成立いたしました。又特殊敎育の講習會を開きました。此の講習は千八百九十九年の末から千九百年の始めに渉る一學期即ち四ヶ月の間にチューリヒ市で開きましたが、是れは多大の効果があったといふことを申して居ります。

第四　伊太利國に於ける狀況

それから其の次ぎに丁度瑞西の南の方に當って居ります伊太利の狀況といふものはどうてあるか。是れは昔は矢張り特別學校は無かったのでありますが、どうも低能の者を普通の者と一緒に敎育するといふとは大變六つかしいといふ所から、

其の出來ない者丈けを集めまして、さうして特別の敎授を施し、大抵女敎員がこれを擔當して居った。但しこれは大都會丈けで行はれました。所が千八百九十八年に至りまして低能兒保護の目的を以って組織せられました國民組合といふものが出來て、それが主として低能兒の保護に骨を折り出しました。此の低能兒保護の國民組合と他の方に於いては敎育社會の輿論が非常に特別學校を作ることに盡力いたしまして、其の結果、能力不充分なる生徒を集めまして是れに特別敎育を加へるといふ道が次第に開けて來たのである。千九百年に首府の羅馬に於きましては男女の敎員に、低能兒の取扱法を敎育する所の師範學校である。それから又是れより一年前即ち千八百九十九年に於きまして、今申しました國民組合とは全く別に、羅馬の大學敎授ドクトル、サンテ、ド、サンクチスといふ人が羅馬に救護學校といふものを自分で拵らへ、貧民の子弟であって而かも低能である者を收容致しまして朝早くから夜まで晝の間成る可く長く玆に留めて置く組織に致しまして四十人ばかり收容いたしました。此の學校に其の創立者の外有名な精神病學者、學校長、小學校女敎員等が此の事務に掌いたしま

して、其の外本科の正敎員、言語、體操、音樂等の專科敎員も之れを助ける。此の學校は千九百三年四月十六日から學事報告を出して居りまする。之れに據ると此の學校は唯だ敎育的の方面よりも醫療的の方面に非常に重きを置いて居るやうに見えます。

第五　佛國に於ける狀況

次ぎに伊太利の北なる佛蘭西に於きましては低能兒に對する特別な敎育といふものが未だ善く普及いたして居りませぬ。ドクトル、モリソンといふ人が巴里にて發行いたして居りました『フォア エ ザー』（信仰と生活の義）といふ雜誌の千九百〇四年十一月六日の分を見ると其の中に斯ういふことが書いてある。即ち近頃此の國に於いて、三人の人が聯合して低能兒のことに關して大變眞面目な研究をしました。それはセキン、ボス、ブルネビーユといふ三人でありまして其の中セキンは主として低能兒を其の精神狀態の方面から研究し、ボスは其の道德的方面より調べブルネビーユは其の技能の方面を調査いたしまして大に研究に從事して居るといふことが出て居ります。又巴里に近い所にビセートルといふ處がある。そこ

に低能兒に醫療的教育法を施す特別の施設があります。併し此の外に未だ補助學校を置くに至っては居りませぬ。フアーフといふ人が千九百四年に「低能兒に付いて」と題して論じて居ります所を見ると、歐羅巴の文明國は孰れも皆異常兒即ち低能兒だの、盲聾唖だの、白痴だのの爲めに特別の施設を備へて教育を加へて居る。然るに獨り我が佛國は共和政治であり人民の自由を大變に重んずるに拘はらず此の點に付いて未だ何等の設備も完整せず、薄弱なる未成年者に宛かも武器を携へさせること無くして而かも生存競爭といふ劇烈なる戰場に之れを追ひ遣らうとして居るのは何事ぞ。甚だ慨嘆の至りに堪へない次第であると言って憤慨して居ります。勿論盲聾唖の教育は佛國に於いては早くより發達致して居るので彼のバランダンアウエーの如き人は佛國人でもあり、ボルドーなどには有名な聾唖學校などもある。併し補助教育は佛國に於いては未だ盛んに發達するに至って居りませぬ。

第六 露國に於ける狀況

それからズッと北の露西亞、此の國に於いては未だ低能兒を教育する特別の施設は無い。唯だペテルスブルグに於きまして千八百八十二年にドクトル、マルヤンチッチといふ人が醫療教育所を建てまして上流社會の子弟の白痴及び低能の者を收容して教育致して居ります。又聖母組合といふ宗教上の組合がありまするが此の組合は貧民の子弟の低能、癲癇、白痴のものを收容して此處で養育して居ります。是れは皇太后の援護の下に成立致した者で、初めは唯だ此れ等の者を養育丈けいたして居りましたのが千九百三年以來は此處でも教育を加へることになったといふ事であります。

第七 瑞典國及び諸威國に於ける狀況

其の隣の瑞典に於きましては、補助學校の方の發達が遲かったのでありますけれ共、補助學級の方の發達は甚だ早かったのでございます。瑞典の首府ストックホルムの教員會が當局に建議いたしまして、低能兒の爲めに特別教育を施さんとを望みましたのが餘程前の事でありましたが、之れと丁度同じ頃にドクトル、ヘルストレームといふ人がストックホルム市の小學校の兒童に付いて斯う云ふ調査をいたしました。即ち此の市の小學校生徒二萬五千〇八十九人の中、八十七人即ち三

厘五毛といふものは毎日學校へ出て居っても丸て何も理解し無い即ち何も分からない者てある。それから七百四十三人即ち一分八厘八毛は生理的に低能の者てあるといふことを報告致しました。是に於いて乎市の學務課は市内の小學校教員と聯合致しまして之れが研究調査に從事し、その結果次ぎの年に於いて學校の内に補助學級といふ者を設け、生徒の數は十二人を最限とし、二期以上六期以下の間に於いて修業の効果の無いといふものを、更らに醫師に鑑定せしめたる後此處に入れるといふことに致しました。そして授業時間は晝間の四時間と致し、……：是れは瑞典といふ國は夏は日が長くて宜いが冬になると夜が遲く明けて日が早く暮れるから授業の半分位は火を點けてやらなければならぬ所謂夜に亘るものてある。それ故晝間四時間といふことが低能兒には日のある中に授業をいたすといふの意味を有って居るのてあります。それから之れに從事する教師は自分の自由意志よりやって見たいと望む所の女教員に擔當せしむることに致して居ります。瑞典は女の教育が餘程進んて居る所て女教員が餘程多い。中には男のやうに斬切り頭の女教員などが少なく無いのてあります。以上はストックホルム

の狀況てありますが其の他諾威のクリスチャナ、ベルゲン、トロレジョン等の諸都市の如きも之れに倣ひ獨逸の手本によって低能兒教育をやって居ります。

第八　丁抹國、和蘭國及び白耳義國に於ける狀況

次ぎに丁抹の首府コッペンハーゲンに於いては千九百年以來補助學校を設けて居ります。丁度千九百六年の夏私は此の地に參ったのてありますが、概して此の國は萬事進歩的にやって居ります。それから和蘭、白耳義の二國にても是れ亦最近に於いて此の運動が盛んになりまして、殊に白耳義のブリュッセルの補助學校は、有名なものてございまして此の前に御話いたしましたド、モアといふ人が此處の補助學校てやって居るのてあります。

第九　英國に於ける狀況

一葦帶水を渡って英國に於ける狀況を見まするど此の國の補助學校の制は殆んど獨逸の模範を其の儘に倣ったのてあります。即ち千八百九十九年に「バーミッションアクト」（許可法）といふものが發布されました。是れは補助學校を設けると設けざるとは一に自治躰の自由に任せまするけれ共之れを設ける時に政府の認可を

受けて、之れが監督の下に立つことが出來る。そうすると之れと同時に補助を政府から受けるとが出來ると斯う云ふことを規定いたしましたる法律であります。政府より支出する補助金は獨り低能兒教育の爲めの分のみでは無い。總じて英吉利の教育費用の補助といふ者は例べば手工科を設けるところで補助を與へる、或は家事裁縫をやる處で補助を與へるといふやうな場合にも皆頭數に應じて、其の額を定めるので、即ち生徒一人に就き何十何錢と定め、さて此の學校の生徒の數が何百人だから何千何百圓やるといふ風になって居りますが此の低能兒教育に關する補助も矢張り其の主義でやって居ります。唯だ此の法律の精神として一つ記憶すべきは其の學校の修業年限を十六歳まてと定めたことであります。それから英國の補助學校は概して一級以上三級以下の組織に成って居ります。即ち必ずしも各學年に級を分けることをしないのである。それから之れを教へます教師は女教員でありまして、初めて英國に於いて設けられましたる補助學校は千八百九十二年にロンドン市て設けたのを以って嚆矢と致します。然るに其の後餘り多くの年を經て居りませぬ所の千九百三年に至りては全ロンドン市に於いて已に六十の補助學校があり三千六十三人を收容致して居ります。全ロンドン市の低能兒數は勿論是れ位てはきゝませぬのてどう少なく見積っても五千人は有る。成る可く、これを皆收容しなければならぬといふ理由に基づいて段々と補助學校を增設致しました。勿論補助學校の設けられて居るのは、獨りロンドン市のみてはございませんて、外の都市ても又村落ても之れを立てゝ居りまするので、今日、許可法により政府の監督の下に立って居る全英國の補助學校に收容致して居る生徒の數は遙かに一萬人を超えて居ります。又マンチェスター是れは近頃大變教育の進んて來たところてございますが此處にては英國補助學校組合といふものが出來まして知力上の低能兒のみならず身躰上の低能兒をも一緒に致しまして、さうして甚だ盛んに特別の教育を施して居ります。リヴァプール、グラスゴー等の狀況も大同小異てあります。昨年私が英吉利へ參りました時にロンドンに於いて丁度低能兒教育に關する會議が開かれて居りまして色々有益な問題に就いて討議いたしまして其の報告も出て居りまする。

第十　米國に於ける狀況

更らに海を渡りまして米國に參りますると、玆にも亦ヨーロッパと略、時を同じくして補助學校の制度が段々と發達いたして參りました。即ち千八百九十四年に至るまでに實は低能の者も敎育上、彼の不良の者と一緒に取扱ひまして、デイスレブリースクール（蹼學校）に入れて、置いたのでございました。然る處最近米國では御承知の如く兒童研究といふことが段々と盛んに發展いたして參りまして、其の結果低能の兒童を不良少年と共に蹼學校に入れて置くといふことは甚だ以って其の當を得て居無い。これはどうしても、特別の學校を設けて、適當なる敎育を施さ無ければならぬといふことに成りまして公立としても、私立としても、低能兒收容の學校を段々と多く立てる樣になりました。少し前に手許に到着いたしました調べ乃ちワシントンの敎育局の最近の年報（千九百五年の末の調）に依りますると獨立したる補助學校で國立のものが二十五、私立のものが十五ある。國立の者は一萬五千五百三十人の生徒を收容し其の內八千二百六十六人は男兒で七千二百六十四人は女兒てある。それを三百一人の敎師が敎へて居る。此れ等の敎師の外に又特別の敎育で所謂低能兒を取扱ふのであるから之れを保護監督する爲めに

千二百八人の補助敎員があって正敎員を助けて居る。それから私立の獨立したる學校に於きましても七百十人の生徒を收容いたして居りまして、其の內男兒が四百十七人女兒が二百九十三人で、敎員の數が七十八人であります。國立の低能兒學校の爲めに支出する金額が二百十七萬三千六百十七弗即ち約四百五十萬圓の巨額に達して居ります。

第十一　其の他の諸國に於ける狀況

最後に尙ほ一言しなければならぬことは東洋の濠太利亞に於きましても補助學校が大分發達いたして參りました。即ちシドニーとかメルボルンとかいふ小都市に於いて最近多大の發達を見るに至ったことであります。

以上申し上げました所は補助學校竝びに補助學級の發達の事實を沿革的に申し述べたのでありますけれ共、此の外更らに他の方面から觀察いたしまして、其の發達の精神趣意といふ者を見ぬければならぬと思ふのであります。唯だ其の事實を列擧したのみてはそれは表面てありますが、更らに其の裏面に立ち入って一層深く其の精神といふ者の發達を探求しなければ分からぬと思ひます。それを聊

か申し上げまするならば、此の補助學校と云ひ補助學級と云ふものは、固より氣の早いものが物好きに拵らへたものでも無ければ、又他の國でもやって居るから、何の考も無しに唯だ其の眞似をする者であると云ふやうな風に起ったものでも無い。且つ其の起りといふものを見まするとまことに色々ある。例へば或る大都會に於いては、其の土地が工藝の非常に盛んなる所であって從って又低能の者が大變に多いのである。斯う云ふ者の爲めに特別の教育を加へねければならぬといふ實際上の必要から補助學校の考を起すに至ったものもある。又富有の家の子供で低能のものがあるなればと言って貧民の子弟と同じく通常の小學校で學ばして置きまして然かも落第許りして居るものがある。さう云ふ者を引き受けて特別に教育して比較的行き屆いた教養をしようといふ所から起った私立學校があり、それが發達して補助學校となったものもある。又之れと丁度反對に博愛慈善の考から貧民の子供で然かも低能であるといふ、實に憐むべきもののみを集めて教育することは甚だ宜い事であるのみならず又必要なことであるといふやうな考から起った私立學校から發達したものもある。兎に角、阿附雷同して起ったものでは無く、特に之れが必

要を認めて發達して行き居ったものと認め無ければならない。それならば更らに進んで其の所謂必要といふものを分析して考へて見なければならぬ。どう云ふ點で必要といふことが認められ、且つどんな程度に於いて、其の必要といふことが現はれて來たのであるかといふことを見ぬければならぬと思ふ。

此の制度の起ります前に於きましては如何なる子供と雖も、苟くも全くの癡癲白痴で物の白黒も分からぬといふ樣な者の外は何れも皆同一の小學校に這入って普通のものと共に教育を受けて居ったのである。さう云ふやうに總べてどんな者も兎に角癡癲白痴にあらざる以上は皆小學校へ這入って同じやうな事を學ぶのが當然な事であると思って居ったのは單に子供を有って居る父兄の考へたりしのみならず之れが教育に當って居った教師其の人も亦然か考へて居ったのである。是れには種々の理由があったのであって、即ち第一はそれが固より當然自明のことであると考へて居ったのである。それから第二には如何にして低能の子供を教育することが出來るかといふ其の方法の研究がまだ進んで居なかった爲めである。第三は學級成績といふものは一定の程度を以って段々と進んで行かなければならぬものである。

三年生は二年生より、二年生は一年生よりも一定の程度を以って進んで居らねばならぬ者てあるといふ觀念が明確てなかったのてある。即ち彼の方面から申しますると、學校へさへやって置けば遲かれ早かれ自然に物を覺えるものてあるといふ位の暖げなる考のみてあって、決して、生徒といふものは、一定の歳月を費せば一定の進歩をなし一定の知識と能力とを得て學校を卒業すべきものてある。それまての間一定の順序段階を踏んて進むべきものてあるといふやうな確かな且つ細かい考が無かったのてある。それ故に低能の者がある爲めに全體の進歩が甚だ弱いといふ樣なことがあっても左程之れを苦にしなかったものであります。第四は、個性といふ考即ち個人的天稟の相異といふ考が頓と薄かったのてある。それから第五は低能の者を區別して教授するといふ考に思ひ至ら無かったのには教師其の人の罪も有ったのてある。即ち教師は開發教授を萬能と考へ訓練の術といふものは驚く可き力を有って居るものと思ひ、これらの道によりて教育を加へなば、如何なる兒童と雖も、必ず相當の進歩發達をなすべきものと考へ……否必ずしもさう自覺して居ったといふ譯てもないけれ共不知不識にさう考へて居ったのてある。それだから教へれば覺えるものてある、叱れば言ふことを聽くものてあるといふ考がおのづから教育者の頭を占めて居ったものと言はねばならぬ。所が實際に於いては仲々さうはいかぬのであります。その一例を申しますと、半期即ち千八百七十年から八十年頃へかけての學校の實況殊に當時の教育の効果を一瞥すると分かる。即ち其の頃一の學級に於ける、殊に初年級に於ける生徒の數が七十人若しくはそれ以上の數を收容して居って一人の教師が之れを受持って居った。而して其の子供を學校にやって居る父兄といふ者は自分の子供の個性、才能學力等に就いて、何等の精しい説明を教師よりして貰はなくてもそんなことを要求しなかったのてある。唯だ教師に附けて置きさへすれば、即ち學校にやってさへ置けばそれて宜いと満足して居ったのてある。寧しろ、家に居れば腕白をして或は大事な纏を破ったり、大切な植木鉢を引っ繰り返す、時には弟などい喧嘩して困るといふさう云ふ父兄の考の下に子供が學校に來るのてある。それて教師の骨折が始まいたづら者を學校へやって仕舞へば厄介拂をして仕舞ったといふやうな考てある。る。所が其の教師は今御話申し上げたやうに、兎に角教授法は萬能てある訓練法

は強い力のものであるといふやうな事を思うて居る人で、而かも七十人以上の生徒を受け持って色々と教育を致して居る。さて教へれば覚える筈のもの、言うて聞かすれば言ふことを聴くものであると思うて居るが、やって見ると實際さう旨くはいかぬのである。否、更らに段々進んで行って見ますると、今教へて來ましたことを纔めて言はせて見ると些っとも言へない。否、今現に教へたとの一部分を反覆させて見ても出來ない。噛んで哺める様な話しを聞かせてもさて尋ねて見ると筈もろくに出來ぬ子供即ち全く覚え無かった者が、一人出來二人出來、此處にも彼處にも出來るといふ有様に成る。そこで教師は是れてはいけない恐らくは自分の力が足らぬのである。慥かに我が熱心の足らぬのである。古へのペスタロッチは斯うては無かったであらう。コメニュースは斯うて無かった筈と、大勇猛心を鼓舞してウンと勉強して斯かる低劣の子供の爲めに更らに一層多くの盡力を加へて見る。併し斯う云ふ塲合に於きまして其の結果が大に擧る場合もありませうけれども、時としては、悲しや、其の結果は到底其の盡力、忍耐を償ふに足ら無い。さてさうなって見ますると大勇猛心を以って奮勵したる教師、古へのペスタロッチの心を以って心としたる先生も最早や其の忍耐力を失はざるを得無いのである。是に於いて乎、ペスタロッチが一變して嚴酷なる裁判官となり再變して恐ろしき刑罰の執行者となるのであります。即ち唯だもう罰を用ひる。詳しくいへば色々の罰を用ひ、澤山罰を用ひる。そうなると教師は癇癪を立てゝ顔に青筋を入れ、聲が荒くなる。其の骨折りは一通りのことでは無い。併し子供の方からいへば實際自分が出來ないのであるからどうも仕方が無い。固より迷惑を感ずる教師より實は之れに對する生徒の方がもっと迷惑を感ずるのである。何故先生は自分ばかりこんなに苛めるだらうか。何故私ばかり叱るだらうか、分からない。自分はどうやって見ても覺えられないのだから仕方が無い。教師の方でさへ辛棒し切れない者を、況んや子供に於いてをやである。自分ながら失望落膽せざるを得無い。勿論生徒は教師に對しては如何とも言ふことは出來ませぬけれ共實際甚だしき困迷苦悶を感じ延いて其の心に大なる影響を及ぼすことは當然の結果であらうと思ひます。そこで他の仲間の子供はどうであらうかと顧みますれば、子供といふものは低能の仲間を捨てゝ置く程寛大では無いので、イヤあの子は幾ら先生に叱られても些っ

とも覺えないといふて、何時も嘲笑の種といたします。左なきだに物を覺えない低能兒が教師よりも、又他の仲間よりも多くの小言を受けるから益々以ってその心が頑くなる。彌よ〳〵以って其の力が働かなくなる。そこで教科に對する其の子供の同情といふ者はもう全く消えて無くなるのである。サア子供の興味が消えて仕舞いますとそれと同時に教師の興味も消えて仕舞ふ。生徒の興味が消えてへすれば宜しいといふ風になるし、教師の方の興味が消えて仕舞へば、斯んな子供はどうてもよい、唯だ他の子供に惡い風を移しさへし無ければよい。當該兒童に就いては最早や吾關せず焉といふやうな風にならざるを得無い。彼是して居る中に學年の終りが來る。斯ういふ子供は大抵落第する。それてさう云ふ子供を落第させて殘して置くといふとは、或は教師には厄介拂をしたかのやうに思はるゝやも知れませぬ。けれどもそれは實は時の間の空想て、實はこれと丁度同じ子供否寧しろ其の兄分ともいふべきものが上の組から又此の組へ落ちて來るからてあります。兎に角兄分の低能兒を受取って又同じことを繰返すのてあらうと思ふ。中には二度三度も續けて落第して來るものがある。こりやもう低能の隊長てありますから斯ういふのに出逢ってはマア教師は如何にしてこれを取扱ふ可きか殆んど手の附け樣が無い。生徒も亦長く斯かる境遇に慣れて居るので元より座して時間の立つのを待って居る丈けならばそれてよいけれども、そうじゃ無い。斯樣ふ子供は年齡に於いて他の同列の子供に勝さり且つ其の級の古參者てある所から致して自から勢力が有るので、それが爲め、他の子供に惡影響を及ぼすとに成る。そう成るといふと其の關係する所決して些少て無いから教師は最早や之れを度外視して置くことが出來無い。いやても應ても、勢ひ手を着けざるを得ないといふ事になる。そうすると、もう、どうしたら之れを厄介拂ひすることが出來るかといふことが常に教師の頭を刺戟する所の問題となる。即ち最も骨を折らねばならぬ問題てある。何となれば他の同列の子供が之れが爲めに多大な影響を受けるからてあります。どうしたら宜しいか。唯だ玆に一條の活路がある。即ち文明國には都會村落を問はず白痴院といふものがある。よし、其處へ送らうかと考へて

見ると、さて白痴院の戸といふものは其の能力の非常に缺乏致して居りまして到底進歩の見込が無いといふやうな子供即ち白痴に向ってのみ開かれて居るのである。全くの白痴では無い所の低能兒までも玆に送るといふことは出來無いのであります。そこで仕方が無い、教員は校長に相談し監督官廳等に相談して何等かこれを收容するところの設備を致さゞるを得ないといふ譯に成る。是れ實に監督官廳から言っても、校長から言っても將た又教員から言っても共に迫られたる必要に到着したものと言はねばなりますまい。さう云ふ譯で補助學校といふものは實に必要に迫られて出來たのであります。併しそれでも人といふものは兎角守舊的なものであって、そう言は無いで暫らく其の儘にして置いてなどと考へる人も無いては無い。又上の級へ昇せられぬものを無理に昇せて置くことを行ふ者もある。けれども其の實際の結果は又非常に悪いのである。是れ亦獨逸に於ける實驗が之れを證明して居る。即ち補助學校なり補助學級が始めて出來た時に三年四年も落第して仕方が無いといふやうな生徒を入れやうとした所が、悲しや其の大多數は補助學校へ入れても迚も駄目だと匙を投げねければならぬといふ樣な

ものに成って仕舞って居る。斯んな位ならばなぜモッと早く補助學校なり補助學級へ入れなかったらう。若し早くから斯ういふ特別學校を置いて、そこに入れたならば、本人の爲めは言ふに及ばず他の生徒の爲めにも亦多大の幸福であったであらうといふことは皆感ずるところである。實際段々と落第する者が年々寄って來る身體は大きい、仕方が無いから上の組へ入れるけれ共適當な能力は殆んど無いといふやうな兒童は澤山有るのであります。丁度ググナー氏が千九百四年十月九日の獨逸教育新聞に出して居りますのを見ますると、甚だしい實例がある。即ち工業地など殊に勞働者が多く住して居る區域に於いては、學校で子供の身體が段々大きくなり、年が段々長じて來る爲めに學科は一向進まず無いても上の組へドンドン上げて行くといふ風があり其の結果讀み書き算術も碌に出來無いで學校を卒業するといふことに成るものが仲々澤山有る。ロンドンに斯う云ふ實例がある。丁度十五才の子供が身體は非常によく發達して居って、うち見たるところ立派な若者である。この少年が一日法廷で裁判官の前へ喚び出されたとがあった。裁判官がなぜ御前は働らかないかと聽いたところが働けないと答へた。其の母も一緒

に來て居たのであったが其の母が口を入れて此の子は十五歳になりまするが些っとも働きませぬ、唯だ遊ぶことばかり嗜きて困りますといった。裁判官がそれてお前は學校へ行って居るか、と問ふと學校へ上りましたといふ。どの組まで行ったか。一番上の組まで行きました。それならお前に少し聽いて見るが一月は幾日から成り立つか。知りませぬ。誰もそれをお前に教へなかったか。教へた者はありませぬ。それぢや一週間は幾日であるか。知りませぬ。覺えたことは無いといふ。母が口を利いて言ふには。此の子供は或事は丸で分かりませぬけれども、時に依りまするとこの間も妹の持って居た金一「シルリング」を取りまして東京で申し

てあるから其の病氣が傳染する虞が多いと認められること。第二は弱兒ばかりを集めて教育を加へて居ることになると、動もするとそれが心理上なり教育上なり實驗の材料に供せらるゝことになる。是れは教育上甚だ惡い結果を及ぼすの虞が有りはしないかといふこと。第三は低能兒を特別な學校に送るといふことはその父兄が之れを喜ばぬといふ風があること。第四は補助學校なり補助學級なりに於いては其の教育の仕方が授產的にならずして隨って實科的に偏するといふ事等を擧げて居ります。是れ等は皆小さい故障であって且つ薄弱なる理由と認めなければなるまいと思ふ。到底此の補助學校なり補助學級の日を逐うて盛んならんとする大勢を動かすには足りませぬ。兎に角特殊教育の機關が日進月歩の勢を以って進んで參りますることは、我教育界の爲めに甚だ慶賀すべき現象と言はぬければならぬことでございます。

第九節　補助學校及び補助學級の實際

今申したやうな發達を致して參った補助學校なり補助學級なりで實際どう云ふ樣にしてやって居るかといふことを掻い摘んで御話申しまするのが此の節の仕事でございまするが、さて事の順序と致しまして、先づ

第一　補助學校に收容する兒童の選擇方並びに其の時期

此の問題であります。子供の學校に於ける成績固より種々に變化致しまするから之れを充分に鑑定することが最も必要であります。元來出來得べくんば通常の小學校に於いて學ばしむることは固より望む所でありまして、已むを得ざる場合に於いて低能兒として之れを補助學校に送る譯でありまするから、最も注意を要することは、餘り輕早に「低能」と判斷しては「ならない」といふ事であります。子供の成績行狀の宜しからざるには元より種々の場合がございまする。其の一二の例を申しまするならば、或は家庭に於いて學校の課業以外に色々なことを習はすの爲めに子供を過勞さすことがある。是れは田舍などへ行くと實際有ることである。或る地方に於いては女の子が學校から歸って來ると更らに三味線を習ひにやる父兄がある。さう云ふとの爲めに子供は充分學校の課業に進歩を示すことの出來ないことがあります。又子供の頭の性質が頑固な爲めに授業を充分に受け容れ

ることが出來ないものもございませう。或は何等か他に適當な方法を用ひたならば進歩を見ることは出來るかも知れぬのに教師の用ひる方法が其の當該兒童の頭の向と合はぬ爲めに充分進歩を見ることが出來ないといふやうなこともありませう。或は身體の不潔、衣服の不十分例へば長い間湯に這らぬ爲めに身體一パイに垢が附いて居るとか、頭の髪などは少しも手入をせず着物は垢で光って居る物を被て居る。といふ樣に身體の不潔と排泄の宜しきを得ぬ爲めに機能が働かないで其の心の働きも之れに依って良くない者もありませう。其の他種々なる事情が纏綿致して居るから校長たる者か低能兒を判斷いたして之れを補助學校或は補助學級に送るといふことの爲めには、非常に澤山の材料を教員から集めた後で無ければ判斷することは出來ないのであります。又之れと同時に各々の教員が從來よりも一層よく心理學上の智識、並びに生理學上の智識を有って居なければならぬと思はるゝ。ヴァンケといふ人は、其の著『精神病學と教育學』と題する書物の中に於いて大體今日の教員の有するよりも以上の心理學や生理學の智識を教員には要求せざるを得ないと申して居りますが至極尤もの事であると思ひ

ます。隨ひまして一般の學校に於いても又補助學校に於いても、低能兒鑑定の爲めに種々の表が要るのであります。そこで歐洲で用ひて居りまする所の表を見ますと、疑問表、觀察表、推選表、收容表等種々ございます。何れも詳細なる觀察をして其の結果を記入するやうになって居りまして通常の學校に於いても教員が子供を鑑定致しまする上に非常によく注意いたして居るのでございます。そうしてその詳しく記入したものに就いて校長が尙ほ充分に之れを吟味いたしましたる後郡視學、區視學に提出する。郡視學、區視學が更らに之れを推究考察いたしまして然る後初めて補助學校に送らるゝの資格を得るのであります。そこで此の記入の際最も大切なることは、教師と醫師との協力即ち是れであります。獨逸に於いては、之れを決定すべきは教師なりや將た醫師なりやといふことが一の問題となったのである。併しながら前きに申し述べたるプロイセンの文部省の訓令の示せる如く、實に兩者の然かも十分詳密なる協力が最も大切なのでございます。今先づ低能兒の鑑定に用ひまする疑問表、觀察表、推選表、收容表等に就きまして、三四の實例を擧げて細説に入りませう。

◎フランクフルト、アム、マイン市ノ疑問表

年　月　日

姓名

住所

生年月日　學校名　級名　組名

兩親並ビニ其ノ職業

家庭ノ關係

母ノ分娩ノ度數　生兒ノ數

誕生

正當ナリヤ或ハ私生兒ナリヤ

遺傳(兩親ノ疾病)

精神病　　呼吸器病

黴毒

以前ノ疾病

大酒　　犯罪　　自殺

痙攣　　痲痺　　舞踏病　　腺病　　軟骨病

氣絶等

感覺ノ故障

斜視　　盲目　　唖　　痲痺　　言語上ノ故障

精神ノ狀態

虚言癖　　盜癖　　膀病　　不穩　　憤怒

不親切　　無言　　涕泣癖

教師ノ判斷

勤勉　　進歩　　觀念形式(數ノ觀念)　　讀書力

書キ方　　等ニ就イテ

此ノ兒ハ以前嘗テ補助學校ニ入リシ事アリシヤ

其ノ他ノ事項

校長

學校醫

是れはフランクフルトアム、マイン市に於いての疑問表てあります。各項目の下のあいて居る所へ「有リ」とか「無シ」とか「然リ」とか「否」とか「善シ」とか「通常」とか「惡シ」とか記入するのてあります。

◎同市ノ補助學校ヘノ推選狀(同時ニ補助學校ニ於イテノ學籍簿ト爲ル)

兒童姓名　　生年月　　信仰

誰ノ子息或ハ娘　　町　　番地　　階　　前屋或ハ後屋

何學校ノ生徒　　學級

補助學校ヘ入學希望ノ年月日

以前ニ補助學校ヘ入リシコトアリヤ

若シアリトセバ其ノ詳細

職業

兩親ノ狀況　　普通學校ニアリシ時ノ兒童ノ狀況　　補助學校ニ入リシ時ノ狀況　　其ノ一年ヨリ六年ニ至ル間ノ狀況

第一、兩親ニ關スル事項

誕生　　正當ナリヤ或ハ私生兒ナリヤ

父存命ナリヤ　　死去ノ歳

母存命ナリヤ　　死去ノ歳

死去ノ原因

第二、兄弟姉妹ニ關スル事項

低能兒ナラザルヤ　　補助學校ノ生徒ナラザルヤ　　癲癇白痴ナラザルヤ　　盲、聾ナラザルヤ　　其ノ年齡　　死セル年齡　　死去ノ源因

第三、家庭ノ關係

貧困　　住家　　家庭生活　　父及ビ母ノ職業不能

第四、遺傳ノ關係

呼吸器病　　大酒　　精神病　　犯罪　　親戚中ニ此等ノモノ無キヤ　　自殺

第五、疾病

種痘　　猩紅熱　　デイフテリー　　百日咳　　腦炎

衝　ロエマチスムス　癇癪　痙攣　舞踏病

氣絶　腺病質　軟骨病　劇頭痛　卒倒

第六、發達

言語ヲ覺エ始メシ時期　歩行シ始メシ時期

第七、現時猶ホ有スル疾病

頭痛　咳嗽　消化不良　寢小便　ヒキツケ

第八、聽力

重聽　耳漏

第九、視力

近視　視力薄弱　斜視

第十一、言語力並ビニ言語機關

吃　訥　舌ノ長キモノ　顎ノ搆造ノ歪メルモノ

齒列　扁桃腺　厚舌

第十二、呼吸器

睡眠中口ヲ開クルヤ　鼻呼吸ニ故障アリヤ　呼吸逼迫

第十二、身躰上ノ不具

跛　背虫　貊僂屈　頭形　左手利　鳩胸

第十三、身躰上ノ容貌

健康ニ見ユルヤ否ヤ　多感　涕泣癖

第十四、情操及ビ品性ノ狀態

眞摯　沈默　無頓着　憤怒　社交的ナリヤ

臆病　驚怖　快活

粗暴ナリヤ（動物虐待）　授業中騒々シキヤ

不潔　盜癖アリヤ　感動シ易キヤ

輕薄　不親切　遲緩

第十五、知力ノ狀態

記憶一般ニ就テ　記憶上特殊ノ方面數　形　語　色　處

思考力　注意　觀察

印象力　觀念把住力

觀念形成　判斷力(迅速及ビ正當)　器械的認容(詩歌　音曲　九々)

第十六、醫師ノ鑑定及ビ注意健康狀況)　想像

補助學校ニ入ルヽニ足ルカ

或ル數科ノ斟酌除欠ヲ要スルカ

第十七、兩親ノ補助學校入學ノ希望

希望スルヤ否ヤ

第十八、補助學校ニ收容スル爲メノ試驗ノ成績

冬夏兩期ニ於イテ普通學校ニ於ケル知識及ビ能力ノ發達並ビニ補助學校ニ於ケル第一學年ヨリ第六學年ニ至ル成績

第一、宗教

第二、直觀教授

事物ノ認識　認識ニ對スル興味　寓話

第三、國語

イ、讀ミ方　印刷躰並ビニ筆記躰文字　音ノ結合　綴リ

及ビ語　文句ヲ讀ムコト　章　獨逸字及ビ羅甸字ノ

書躰文字　器械的能　朗讀　修述　讀ミ方ノ

際ノ固有ノ過誤　語調

ロ、語法　文字或ハ語ノ摸寫　音及ビ綴リノ嚥下

取　筆記　分解　書キ

固有ノ過失

第四、算術

數列　數量　器械的能　心算及ビ筆算　數ノ

記憶　應用問題ノ理解

第五、習字

第九節　補助學校及び補助學級の實際

大字及ビ小字　字形ノ斉整
第六、唱歌　聴力　拍子　音樂的記憶　音樂ニ對スル愛好
第七、躰操　力　持續　遊戯ノ時ニ他ノ兒童ニ對スル關係
第八、歴史　人物並ビニ事實ニ對スル興味　其ノ記憶
第九、地理　處ノ國　地理上ノ基本觀念　地圖ヲ讀ム力
第十、理科　事物ヲ直觀スル時ノ摸樣　排造ト仕事トノ關係
第十一、圖書　野書及ビ自在書　目測　清潔
第十二、手工

種類　熟練　興味
第十三、行狀　法律上ノ譴責或ハ罰ヲ受ケタルヤ否ヤ
第十四、勤勉及ビ注意　家庭ノ課業　副仕事
第十五、欠席　イ、已ムヲ得ザルモノ　ロ、相當ノ理由ナキモノ　ハ、病氣ノ爲メ

是れは推選狀であります。是れ等はまだ精しいものではありませぬ。是れ位に綴密に觀察いたしませぬと低能兒たることを判定し、之れを補助學校へ送るべき資格の者であるかどうか分かりませぬ。唯だ、チョッと見て低能兒らしいから是れは特別敎育を受けさせねばならぬなどと定めてはなりませぬ。次ぎにブリュクセルの補助學校の觀察表を申し述べませう。

◎ブリュクセル補助學校ノ觀察表

甲、何故ニ此ノ兒童ハ吟味セラレザル可カラザルカノ理由

(い) 不適當ナル或ハ異常ナル心理的發達

(ろ) 絶エザル且ツ著シキ不行狀

(は) 三學年引キ續キ落第シタル場合

(に) 重大ナル言語上ノ過誤

乙、一定ノ形式ヲ具ヘテ記入セラルル可キ記錄

(い) 學業成績ニ就イテノ報告

(ろ) 補助學校ヘ推選セラルヽ理由ノ報告、但シ成ル可ク詳密ニシテ且ツ次ギノ個條ヲ答ヘザル可カラズ

(ア) 兩親ハ健康ナリヤ　彼等ハ如何ナル道德上ノ性質ヲ有スルカ

飮酒家ナルカ

(イ) 當該兒童ハ疾病ニ罹リシコトアリヤ　視聽觸筋等ノ諸感ニ於イテ其ノ活動ノ故障ノ明ラカナルモノアリヤ　手淫ヲナスカ

何レノ敎科ニ於イテ最モ善キ進歩ヲナセルカ　注意ノ狀態如何

行儀惡シカラザルカ　其ノ不行儀ハ絶エズ表ハルヽカ或ハ週期的ナルカ　他人ノ物ヲ盜ミシコトアリヤ　虛言ヲナスカ　大言ヲナスカ

(ウ) 如何ナル知的若シクハ敎育的取扱ヲ受ケ居リシカ

その次ぎにライプチッヒ市では補助學校と言はずに、低能兒學校といふ學校を拵へて居る。此處では疑問表を始終普通の各小學校に廻しまして、其の各學校に於ける愚鈍に近き生徒の數、それから落第生の見込、其の他低能兒の種々の有樣等に就いて照會を致しまして、それをスッカリ集めましたる上に、學校醫、郡視學などが之れを鑑定いたしますのであります。其の疑問表は前に擧げたのと大同小異であります。

それからブラウエルン市の補助學校では收容表、(補助學校に生徒を入れる時の表)の記入事項を

概見、氣分、品性、興味、把住、記憶、言語、發達、活動、讀み書きの上に現は

れる固有の傾き　算術　兩親　家庭　生理的狀態
等に分けまして、其の各項に就いて更らに又精しく分けて居ります。
それからパッレアムザーレといふ處の補助學校は仲々善く整頓いたして居りまするので、其の校長ドクトルメンネルといふ人は補助學校の事に就きまして有名な人でございまして私は千九百四年に此の人の低能兒敎育に關する講習をエナて受けましたので此の講述の如きも此の人の説に負ふところ甚だ多いのであります。さて此の人の居るパッレの學校に於いて用ひて居る收容表は大躰ラウエルンの補助學校のと能く似て居って更らに其の上に受持敎員の見込　校長の見込　學校醫の見込　といふものを書き加へることに成って居ります。
それから此の學校では低能兒を觀察致します觀察點を次ぎの諸項に分けて居るのである。即ち第一は兩親で主として其の生活狀態の子供に及ぼす工合。第二は兩親が子供に就いての學校への報告で主として其の子供の上に影響を及ぼす所の病氣であるとか不幸であるとかいふやうな事であります。第三は身躰上の缺點、殊に感覺機關及び筋肉運動の點に重きを置く。第四は精神發達の狀態

て、是れが又三つに細かく分かれまするので即ち言語、敎授に對する興味、それから特別なる品性の發表是れてあります。第五が學業の進歩であります。斯う云ふ工合に五項に分けて居ります。此の中、第一項及び第二項に就きては其の土地の市役所の內にある貧民部に於いて調べて貰ふ上に尙ほ父兄を學校に喚び出して色々精しく報告を聽くことと敎師が家庭を訪問して實地に見聞する事等の方法を採って居ります。觀察表に就いては、元來兒童の特性なり性癖なりといふものが多種多樣千態萬狀を極めて居りまするが故に其の調べものは非常に困難であります。ストリュンペルやキョッレーなどの學者現はれて、兒童を觀察する方法に就いては色々な工夫を凝らし、千八百九十七年に兒童の性癖といふ雜誌の第五號並びに第六號に於きましてエナのツフィエレヘーヘ敎育所の所長トリュパーといふ人が澤山の補助者と共に研究して定めた要目を擧げて居りますのでありまして、之れは兒童觀察に就いて一轉機をなしたものと言っても宜いのでありませう。私もエナて此の人の兒童性癖論に關する講習を受けたことがありまするが此の人は兒童の性癖や個性の研究觀察に全力を込めてやって居る人て私も色々世話に

なった方てありまして實際自分て學校も有って居るし且つ此の研究並びに分類は能く出來て居りまするに拘はらず、どういふ譯てありまするか廣く一般に行はるゝに至らなかったのであります。所が最近に於きましてカルルスルーエの師範學校の教師ドクトル、ライーといふ人が其の著述「實驗教授學」の上に於いて發表した觀察表は是れは著しく教育者の注目を惹きまして之れに倣ふ者が非常に多いのであります。此れは又一層明瞭簡潔に出來て居ります。夫れ故に此の表を一つ申し上げて見ようと思ひます。是れは次ぎの如くてあります。

◎ドクトル、ライー氏ノ觀察表

甲、性質及ビ機能

第一　遺傳

第二　環境

(あ)　家庭

(イ)　營養

(ロ)　疾病

(ハ)　睡眠ノ持續

(ニ)　遊戲及ビ慰安(種類、時間、獲得力、副教授)

(い)　同胞

(イ)　朋友及ビ遊仲間

(ロ)　公衆生活(市街、宗教上並ビニ政治上ノ共同團躰)

(う)　自然

(イ)　自然ノ環遇(家、住所)

第三　運動的感覺的機關ノ相互關係

(あ)　生理的並ビニ心理的活力

(い)　疲勞

(う)　才能

(え)　品性

乙、身躰的特質

概觀、躰格、身長身重異常疾病

丙、精神的特質

(あ) 感覺上＝直觀型式

(い) 聯合上＝注意、記憶、興味

(う) 運動上＝活動、熟練、行爲

是れは實に科學的に出來て居るものであります。けれ共、直ちに之れを其の儘採用するといふに就いては少し考へねばならぬといふので、今御話いたしました、ベッレの補助學校長のドクトル、メンチル氏は之れに對しては少し訂正案を提出致して居ります。訂正案と申しても實は直すのでは無しに、寧しろ實施上仕事の分擔を定めたのでございます。即ち此の表の中て乙の身躰的特質といふ部分は之れを學校醫に任すので學校の實際に於いては身躰檢査表といふ者を以って之れに代へることにする。さうすると教師の取扱ふ可き部分は後に殘れる甲の性質及び機能といふ方と丙の精神的特質といふ二つになって來る。それに就いて猶ほ仔細に見ると、先づ第一に遺傳に就いては成る可く目覺しい點を記入する。それが主てある。あとで精しい實例を申し述べますが、其の次ぎの環境に就いては

主として家庭と社會とに分かれるが是れも亦觀察點を次ぎの樣な精しい點に分けたらどうか。即ち一は獲得、二は營養、三は子供の數、四は疾病、五は兩親の生活觀、六は慰安、勤勞及び交際といふ樣な六項に分かつ。それから次ぎに運動的感覺的の點に於いては、一は生理的竝びに心理的の抵抗力、二は直感能力、三は注意、記憶殊に或得意の興味、四は活動、熟練、擧動、言語、五は品性といふ五項に分けて觀察するが宜しい。斯う申しまして自分の學校てはそれを實施致して居る。それて此の見地から致してメンネル氏の學校て實際觀察した觀察表の實例の一二を申し述べませう。

其の一はアグネスといふ女兒て、千八百九十五年十二月二十五日に生れ、實父は日雇人なりしが酒毒の爲めに死せり。母は評判宜しからざる女てあったが、夫の死せる後は間も無く鐵工商て酒癖ある者と再婚した。併し今は同棲をして居らない。生活は常に欠乏勝。職業上の能力は更らに多額の收入を得る見込が無い。前の夫との間に五人の子供を生んだが其の中の三人までは「ヒキツケ」て死し、生存せる子供は小兒病に罹ったとがあるけれども幸に存命して居る。母は現存。尙ほ、

四十歳を少し越へたばかりだけれ共最後の分娩から病身となって居る。全家族は狹隘なる寢室に一緒に臥て居る。二人の娘に一つの「ベッド」が有る丈けて、それが固より不潔てある。アグネスは睡眠中、齒ギシリをやる。睡眠の狀態が甚だ不穩てある。學校から歸って後、其の姉妹と共に市街を彷徨する。職業上の能力は固より有らうとは認められない。勤勉竝びに家事に關する善良なる模範は母が之れを示すことは出來ない。母の考は唯だ、子供が自分に厄介を掛けなければ宜いと思って居るの狀態てあると同時に、一方には暴い言葉を用ひて屢々叱責するのみて他方に於いては母たる情愛を示すとは殆んど無い。アグネスは街道や家後の庭などて他の子供と遊ぶこともあり、時に依りては獨りて何だか空想に耽って居ることもある。時としては、他の子供をつねったり、掻ぎむしったり、殘虐な事をすることがある。以上は乙の項に記入されてある所です。次ぎに丙に於いては、アグネスは營養が不良て、其の爲めに身躰の抵抗力が薄い。シッカリした所が無い。唯ださう云ふ事をしてはいけないと禁じられた様なとをする場合に於いてのみは鞏固てある。疲勞をする事が非常に迅い。授業を受けて居る間に居眠をなす。其の能力が概して弱い。思想を確把することや或觀念を長く持續すること或は特に一種の才能が發達して居るといふことは共に毫も認むることが出來ない。周圍の者に對して或は不親切てあり或は喧ましく怒鳴る。極く瑣細な事に就いても笑ふか、と思ふと忽ち泣くといふやうな有樣て、甚しきに至っては一定の原因無くして或は笑ひ或は泣くといふやうなことをする。又總べての教育方法に對しては感應の力が甚だ乏しく利目が少ない。道德上の訓誡に對しては殆んど理解しないやうな有樣てある。次ぎに又他の項即ち身躰の項に移って、アグネスは同年齡の學童に比すれば小さい。其の躰格は中等に屬する身長、胸圍身重は平均に達して居らない。腹が出て居って少しく後ろに反って居る。其の歩行は不確實てグニャ〳〵と無器用に歩るく。左の眼を以って斜視をする。其の他には眼竝びに耳とも故障が無い。口は呼吸の際常に開いて居る。咽喉の佛が高く上って居る。齒は不整列て、鼻孔には異狀を認めぬが併し言語の過失が多い。裁判所の記錄に據って或男が此の娘を不品行ならしめたといふことが分かった。彼の女の外界に對する認識は非常に欠損が多い。而して其の不充分てあるといふことは決して感覺機關上の原因に

よるのでは無くして、心理上の不穩、即ち心がじっと落着いて居ることの無いといふ爲めの結果であると認められる。即ち心理的活動が鈍く、落着いて居るといふことの無い爲めに直ぐに考が脫け出て仕舞ふ。或事物に注意を集中することは到底不可能であるからである。授業を受けて居る際に偶まじっと氣を附けるやうな事があるが併し直ぐ注意は散漫して仕舞ふ。即ち何かチョッと喧ましい音がするとか或は敎場の窓を通して光が差込むとかいふやうな極く小さい刺戟の爲めに其の心を奪はれて、すぐ他の考が浮んで來る。隨って言葉、時間、空間の關係、色、音等の記憶は非常に少ない。彼の女は唯だ目前一瞬時の事のみ興味を惹くので引續いての興味は決して起ることが無いのである。併しながら其の一瞬時の興味を惹いた事の爲めには能く動くのである。それから身躰の各部分に於いては極く暫くの間のみ靜止するとはあるが直ぐに又動かし出し丁度此の生理的不穩に匹敵する所の心理的の不穩が存して居るやうである。即ち一方て貧乏搖りても始めて來ると心は丸て他の事を考へ出すといふ有樣てある。手工や裁縫に於いても熟練といふものは殆んど無いので受持敎師の我慢の試驗には洵によい試金石てある。と記入されて居る。

今一つドクトル、ライー氏の觀察表に基づいてドクトル、メンネルがやった實例を申し述べますると、是れはオットーといふ男の子だ。千八百九十二年の生れて第一遺傳の項には、恐らく結核を有して居るだらうとあり。第二境遇の項には、父は日雇人て肺結核て死し、母は朝早くより夜遲くまて餘處の家へ洗濯に雇はれる。夫婦の間に十二人の子供を生んだ、其の中二人は歯の痙攣て死し、一人は流産て亡くなり、更らに他の一人は產が重かった爲めに死んだ。オットーは九人目であったが、母は分娩の時には何時ても重い。殊に父の病氣と同時に數人の子供が病むといふ樣な有樣てあって、到底此の家に於いては子供の敎育に注意を加へることは思も寄らぬことてある。隨ってオットーの如きは親子の愛といふことに就いては何等の觀念も無い。遊び仲間の中てはチョッとした頭株になって居る。併し自分が不利なる事を感ずるとその不利益を與へた者に對しては必ず仇討をやる。街道に於いては惡戲をやるので、例へば電車に飛び附くとか或は店頭の菓物を盜むといふやうなことをする。丁度其の家が町外れに住んて居りました故に郊外に出まし

て自由に放浪致して居る。次ぎに感覺的竝びに運動的反射に於いては郊外に放浪自適致して居った爲めにオットーは抵抗力の餘程強い子供に成った。學校に通ふ路は隨分遠いけれ共そこを往復歩行して少しも疲勞を感じない。併し時としては氣力が盡きて居るとがあるが暫く經つと其の潜勢力を挽回して再び元氣な子供になる。彼れは己の直觀界を擴げることを能く知って居る。殊に町のならず漢のやうに、其の町に於いて起った興味の有る事柄は非常に敏捷に觀察し又金の價値をよく知って居る。己が閑な時に使に行って賃錢をもらふとか人に雇はれて金を貰ふ方法を知って居る。それから十戒中の第七戒即ち盜んぢゃいけないといふ戒を時々破るとがある。それから走ることゝ木に登るとゝは非常に巧みである。言語の能力は通常で無い。發音に注意せず且つ時々訛る。又屢々語を脫し、其の文章は誤謬が多い。要する所全躰として危險て且つ狡猾なる子供てある。それから自分が悪い事をした爲めに罰を受けぬければならぬ場合に非常に罰を受けることをイヤがる。到底尋常には罰を受けぬて反抗する。殊に彼が罰せられた時に他の子供が笑ひてもするとそのくやしがる事特に著しく斯かる場合には非常に

考へなしの事をやることがある。それから次ぎに身躰的特質と致しては、彼の躰格は良き方なりと稱するを得べく、身長、胸圍、身重等に於いては平均以上に位して居る。胸腹、脊柱、皮膚等に於いては何等の異狀をも認めぬ。眼は視力が弱く眼科醫は之れを强くする爲めに眼鏡を與へて居る。耳は通常てある。呼吸は鼻呼吸ては無くして口呼吸てある。息を吹きながら物を言ふ。次ぎに精神的特色と致しては、オットーは外界の認識に依って自分の内界を養ふとの出來る子供てある。敎授事項が具躰的の範圍に在る間は注意も能く集中する。記憶敎科に於いては大カ〳〵良い成績を示して居る。唯だ言語に故障が有る爲めに充分にいかない事が屢々てある。何か特別に興味を惹くことが有ってそれより延いて將來の職業選擇上好き引っ掛り處が有るかと思うて捜すけれ共今日までの所ては未だ一も認められない。其の制止すること能はざる不穩の狀態は强がち筋肉上より起るとは鑑定し難い。其の擧動に於いては監督者の眼が無い時には横道に這入ることが常てあるといふ鑑定てある。以上申し述べた所は、實際記入されてある觀察てあります。

それて今初から色々申しました種々の表をお互に比較研究して見ますると、先づ注意すべき事は、此の低能兒の觀察といふことは飽くまでも心理的教育的で無ければならぬといふことは明らかである。何れの表を見ましても此の點からの觀察が主眼をなして居るとは認められますのて唯だ皮想的の思ひ付きを書き並べるといふのては不都合てありますす。是れが第一て、次ぎは數回反復觀察を重ねましたる後に簡單に記入するといふ事である。そして其の記入は一見して要點を概見し得るやうなものて無ければならぬのてある。其れ故にバッレなどに於きましても非常に愼重に致して居りまするので校長メンヂル氏が學務委員と共に拵へたる表即ち先きに御話申しやうたる表を先づ普通の各學校に送る。そこて各學校に於いて第一項から第三項までは多く家庭訪問に依り或は市役所等に照會すること等に依って吟味致したる上記入し第四第五の兩項は少なくとも三度以上或時期を隔てゝ觀察いたしました結果を記入して然る後受持教員が之れを學校の校長に渡す。校長は更らに再び吟味をいたしまして然る後に初めて補助學校の方へ廻はして來るといふやうな組織になって居る。是れは餘り鄭重過ぎるやうに思はれるやうてありまするけれ共實はさやうては無いので、此の低能兒の鑑定といふ事に就いては特に注意を要することは、教師の速斷に流れると云ふ點に存する。思はず知らず子供を補助學校にやる事に依って厄介拂をしたといふやうな考が受持教員には出來ぬとも限らぬのみならず、低能者の鑑定に就いては最大なる注意を要するので、殊に必要なる事は速斷に過ぎないといふ點を豫防する必要があるからてございます。斯樣な風てありまして其の一札を添へられて子供が補助學校に來る譯てありますが、それならば其の子供を悉く直ぐ補助學校へ收容するかといふと、それは仲々しない。それは補助學校に於いて更らにモウ一度よく鑑定をするのてあります。さうしてモウ一ヶ年普通の學校に於いて實驗して見て決定するが宜からう、未だ是れは普通學校の方へ突き返す者が餘程澤山あります。込が有ると思へば補助學校から普通學校に於いてやらして置く丈けの見中には、バッレの實例を申しますると、五十人の候補者中普通學校へ返へしたのが二十人乃至三十人の多きに及んて居る。又二三回經過致した者もあるそれて愈〻補助學校へ收容するといふ決定は市視學自から之れに當るのてある。それから

マンハイムに於いては更らに嚴重にいたして居ります。蓋し、マンハイム學校の組織に就いては後に至って詳しく申しますが、是れは補助學級に至るまでの間に種々の段階がありまして少し弱い子供は進學級とか復習級とかを通ることに成って居りまするから、最も甚だしき低能の者のみが補助學校へ送らるゝことに成って居ります。

それから尚ほ一つ玆に研究しなければならぬ事は、子供が通常の學校に行き居る時に、補助學校は拙い子供の行く處てある、不具者の行く處てあるといふ樣に聽いて居る。そこて自分が低能兒學校へ送られるといふ場合になると何だか悪い所へてもやられるやうな心地がいたします。又親も矢張りさう云ふ考を有って居るので、子供を補助學校へやるといふことは何だか悪い事をした者を監獄へてもやる樣な心持て居る。是れは一躰心得が間違って居るのてありまして、實は普通の學校へ行っても何等進歩の跡をも示さず他の子供に迷惑を掛けるばかりてある。本人の爲めにも不得策であるといふものは、補助學校で適當の教育を得て特別の注意の下に兎に角或點までの發達を見るやうにするが元より宜いのてあります

が、さて子を有って居る親の愛に溺れる爲めに又物の道理を十分に辨知せざる無智の爲めに、兎や角と之をイヤがるの風が無いとも限ら無い。それ故親に對して、自由意志から必ず希望を言はする事に致して居ります。其の際には特に親切に補助學校の性質を說いて聞かせて且つ本人の能力に就いても精しく說明を與へて善く分かるやうにしてやってさうして補助學校に入れませうといふ自由意志よりの判斷を得て然る後送るといふことの手續を履んて居ります。殊に獨逸に於きましても補助學校に脅迫教育は成立って居りませぬ位てありまして、歐洲諸國に於いて補助教育を脅迫して居る處は何處もありませぬ所の今日に於いては愼重なる手續が必要てあります。丁度千九百三年に開催いたしました第四回獨逸國補助學校聯合大會に於きまして此の事が問題になりまして、補助教育をも義務教育とすべきかどうかといふの點に於いて論究討議いたしましたが、其の結果、各市町村に於いて適宜に其の規程を定め、遂に全國一般に此の規程が存するといふやうな曉を待って、中央政府から規程を出して貰ふ事にするが宜からうといふ事に歸結いたしました。以上は補助學校の收容の方法てあります

第二　補助學校生徒の父兄の狀況

子供は今申しましたやうな手續順序を履んで這入って來る。そこで補助學校に於いては如何なる仕事が始まるか。直ぐに其の授業に取掛る譯にはいかぬ。先づ兒童の身體上竝びに精神上の觀察の爲めに非常な勤勞を要するのでありまして、殊に先きにも申しました子供を知る爲めには父兄を熟知するの必要がある。所が此の父兄を熟知するといふことは樂な事のやうであって實はナカ〳〵困難である。是れは前にもチョッと御話申しましたが二箇の仕事に分かれる。先づ第一は其の校長が警察とか町役場とかいふ處へ公けの照會を致し種々の材料を得まして其の材料に依って表を作る。其の材料と致しましては其の兩親の生活狀態より其の性質其の近所に於ける評判に至るまで精しく調べるのであります。大抵歐羅巴の自治團體には貧民行政部といふ者がありますが、其處から澤山材料を送って來る者であります。ハッレの補助學校の書類を實例として一二申しますが、斯う云ふ事が集めてある。其の一はローベルトといふ子供で、父は千八百八十八年他人の身躰に對する罪即ち人を撲ったといふので二週間禁錮に處せられ、千八百九

十九年人を欺して錢でも取った。千九百一年に又一日禁錮を受けた。其の評判は惡い。彼は或夫より別れたる寡婦と私通し一兒を擧げたが、其の子は白痴にしてラインステッターの白痴院に收容せられた。其の寡婦は評判比較的好し。一年以來乳癌を煩らひ其の生活狀態は非常に惡いと調べられて記入せられてある。其の二はアンナといふ子供で、父は小なる刑罰に遭ひしこと幾回なるを知らず。千九百二年以來精神病患者としてアルトシェルビッツの顚狂院に收容せられ、其の妻は千九百二年田畑に作った物を盜んだ爲めに罰を受け、其の他には別に惡評は無い云々。と調べられてある。是れは市町村の貧民部や警察やなどの公けの方面から集める材料なるが、此れ等が集まると、次ぎには其の親、殊に母親を學校に招いて、懇談によりて、子供に關する色々のことを聽く。即ち或は色々の事から一家に起った不幸の事或は其の子供の姙娠中の有樣といふやうな事を聽くのであります るが、中には秘すものがあります。秘すのぢゃ無い、實際忘れて仕舞って居る。自分の生んだ子供の數を知らぬことさへあります。夫れ故に此の懇談の際には實に非常な熟練と經驗とが要る。餘程考へて、向ふに惡く思はれない樣にして併し

ながら實を吐かす樣にしなくちゃならぬから一段の才幹を要する所以であります。それから次ぎに兒童の健康狀態はどうであるかを觀察するのであります。健康狀態は概して惡いのでありますが、併しながら是れは前々章に精しく申しましたから玆に申しませぬが、唯だ私の實際に見た時の感じ丈けを申しますると補助學校へ這入って見るとモウ直ぐ分かるので、餘程健康狀態が違って居る。それは其の筈でせう。前申したやうな種々な病氣等を受けて居るのですから。

第三 補助學校の校舍

補助學級から段々次第に發達いたさせて遂に補助學校を作るといふことの事情に依るは宜通常の順序である。勿論最初から補助學校を作るといふことは宜いけれ共、是れは町村經濟問題の關係て初めから一の學校を作るのは種々な困難が有らうと思ひます。

それ故に始めは補助學級を段々と造って遂に一つの補助學校にすると云ふ樣な考を以ってやって往くのが最も適當であらうと存じますが、さういふやうにして補助學校はどう云ふ風に組立て往くが宜いかと云ふことは研究して置くべき値打のある問題であります。御承知の如く補助學校は最新の發達でありまする故に教育上、衛生上、將た又經濟上最も新らしい研究の結果を集めるに都合の好い事情の下に居るものでございます。そこて差當り心付けて置かねばならぬ事は溫室法であります。即ち部屋を溫めると云ふことであります。それから換氣法即ち空氣の流通を良くすると云ふこと及び排泄法であります。即ち便所の始末と云ふやうな點であります。斯う云ふ風に一般の注意を致しまする外、尚ほ下級生即ち最も小さい子供を收容致しまする教室に於いてはアンビテャーターと云って教壇の周圍に圓るく机を列べる組織にすると云ふことが有益であらうと思はれます。其の他甚だ悲しむべきとてはありますけれども然かも必要なる事は病室を置かなければならぬとであります。それから次ぎに手工場を必要と致します。其の上に浴室を設けることが出來れば尚ほ結構てありますけれども是れは外國に於いては餘程必要なことてありますが我國に於いてはそれ程必要がなからうと私は信じて居ります。其の中病室は十分に廣く致して此處て種痘も出來れば體格檢査も出來る醫師の診斷も出來ると云ふやう

な面積を有して居る病室でありたいことを望みます。殊に癲癇とか痙攣とか氣絶卒倒等の如きは補助學級並びに補助學校に於いては毎度起るものと假定して置かねばなりませぬから、殊に此の必要があるのであります。次ぎに手工場は紙細工、粘土細工、木工等が十分に行はれまする設備を必要と致しましてそれに適當なる道具を備付け、尚ほ且つ工場服をも備ふることが出來まするば更らに結構と考へまする。それから體操場は必ず教室から廊下を傳はって往けるやうにしなければならぬ。即ち降雨或は降雪のときに濡れなければ體操場迄往けないと云ふやうなことであっては低能兒には甚だ困るのであります。それ故に教室から廊下傳へに往けるものであるを要求する。それから教室の裝飾は殊に大切でありまして、子供をして學校に於ける滯在を樂しく愉快に感ぜしむることが必要であります。其の他體操場に療治體操器具を備付けまするば尚ほ結構でありますけれども、是れは差當り望むことは出來まするまい。通常の學校に於いては其の必要がないけれども、補助學校に於いては、あれば結構だと存ぜられます。それから音樂の器具は是非必要であります。是れは後に至って更らに詳しく申しまするが、低

能兒の教育には音樂が大なる効果を與ふるものでありまして、音樂の器具を備付けると云ふことが是非共必要でございます。最後に共同の遊びに使ひます砂山、動物飼養の方法などが庭園に備はって居ると云ふことが低能兒教育に缺くべからざるものでございます。更らに教室の窓硝子は成るべく植物園、動物園、水族館などを現はすを可と致します。と申しますのは其の硝子の窓に金魚とか鯉とか菖蒲とか櫻とか云ふやうな動植物を描くのであります。是れ亦有益なることの一つでございませう。

第四　補助學級の編制並びに兒童定員

第四は學級の編制並びに人員のことでございます。即ち校舍の御話が濟みまするとと次ぎに此學級の編制方法に就いて申し上ぐべき順序でありますが、少し低能兒の教育に就いて經驗を有して居るものは、低能兒の學級編制法は頗ぶる困難なるものであって彼等を組分けする前には稍長きに亘る時日を要すると云ふことを認めるでございませう。即ち初めは全く能く分からないのでありますが暫らく時日を措きまして經驗を積んで其の子供の特性を觀察致しましたる後相當の

分類を致しまして學級の編制をしなければならぬのである。是れは前回から毎度御話を申しましたハッレの學校などに於きましても、どうしても或時日の經驗の結果子供を分けなければならぬと云ふことを申して居りますが、他の土地の補助學校に就いて尋ねて見ましても亦同樣の答を得たのであります。先づ此の考が一つ必要でありますが扨いよ〳〵分けると云ふことになりますると、第一に起る問題は、一學級に幾人を收容するのを以って適當とするかと云ふ點であります。是れは經費の點から制限を受けまするが故に敎育的幷びに敎授的理想の通り實現するとは頗ぶる困難でもございませう。普魯西の文部大臣が千八百九十四年の六月十二日に示しました訓令に依りますると、補助學校の兒童の數は二十五人を超過すべからずとございます。是れは收容し得る最大多數を示したものでございまして、敎育上の理想から考へますると云ふと尙ほ少しく多きに過ぎるの傾があると云はなければなりませぬ。けれども經濟上の事情の爲めに制限を加へられまする所もあり、種々の點から考へて最多數を二十五名と普魯西の文部省は定めたものであらうと思はれます。けれ共實際上敎師が子供の特性をよく

顧みて之れに適當なる方法を加へ充分なる效果を擧げやうと致しますには、どう考へて見てもモッと少なくしなければならぬ。殊に下級に於いて少なくするの必要を認めます。即ち下級に於いては十五人以下であれば最も宜しい。又事實十五人を定員として居る都市も少なく無いのであります。ドクトル、メンネル氏が下級は十五人、中級は二十人、上級は二十五人を以って最多數と定めるが適當であらうと云はれまするが、さて斯樣に少數に制限いたしまするとになると、學級の數は自然大變に增加することになります。元來一般の兒童の數に較べて低能兒はどの位の割合で存在する者であるかといふことを考へて見まするのに、是れは都市の大さばかりでは一概に論じられないのであります。或統計に依りまするとと、平均都市の住民の百分の二分の一即ち二百分の一が低能兒であるといふことを示して居ります。即ち人口十萬の都會であれば五百人が補助生徒になる者と見て置かねばならぬといふ說であります。例へばハッレは十六萬の人口を有し統計は少しく大きに過ぎるのであります。併し平均二百十人から二百二十五人の補助學校生徒を有って居りまするが併し仕合せな事には事實上此の

ます。又マンハイムは人口はハッレと畧伯仲の間に在りまするが其の低能兒の數が千九百三年から四年に於いて平均僅かに六十七人を數へて居ります。勿論マンハイムの學校組織は前にも一寸申しました如く、少しく異って居りまして、補助學校に入れます前に復習級や進學級を經過して、どうも仕方が無いといふ者のみを補助學級に收容いたしまするが故に、其の數は元より甚だ少ないのでありますが、兎に角都市の大小といふことは必ずしも低能兒の數の多寡を定めるものでは無い。それならば大體に於いてどの位の低能兒が有るかといふ事に就きましては獨逸全體に通じてサンターマンと云ふ人が調べたものがありまするが、これは千九百三年頃の狀況に就いての調べてありますが、工業地即ちアーヘン、バルメンブラウンシュワイグ、ゲムニッツ、ケルン、エルバーフェルド、デュッセルドルフと云ふ樣な製造工藝の盛んな土地に於いては、工業の甚だ盛んにならずして隨って勞働者の多數を有って居ない所の土地に比して、低能者の數が餘程多いといふことでございます。それ故に要する所都市の大さよりは其の住民の種類及び職業、其の生活の方法等が低能兒の上に多大なる影響を及ぼすものである

と認めぬければなりませぬ。兎に角一方に於いて住民の數に對する低能兒の割合が略ゝ定まり、又他方に於いて、一學級に入るべき低能兒の最多限が定まれば、そこで大體或都市に於ける必要なる學級の數を假定することは出來るのでありますが、併し問題は其處に止まりませぬので、常に其の編制の仕方といふものゝ上に困難が殘って居るのである。例へば玆に百人の低能兒が有る其の低能兒を私に渡し、サア如何樣に編制するかと尋ねられますするならば私は直ちに斯く〳〵斯樣に編制するといふことの答は出來ないのであります。先づ第一に起る考へは、兎に角此の百人の兒童を一單級學校に於ける如くに、一緒にしておいて、そして一方には學校生活に慣れしむる準備をなすと同時に、他方には言語の矯正に從事しなければならぬ。即ち斯樣なる合同的豫備級といふものを一つ作ると云ふことは適當な考であらうと思ひます。それから其の上に段々〳〵と種々の學級を作りまして、かの豫備級で鑑定が出來、又幾分か發音の矯正が出來致しました者を程度に應じて適當なる組に編入するといふ方法に依るより外仕方は無からうかと思はれます。其の豫備級の上に立てる學級に就いては或は三階級にして居る所も有れ

ば、或は四階級制にして居る處もあり、乃至六階級にいたし居る土地もございます。更らに小學校の各學年に相當する學級即ち八學級に編制いたして居る所もありまするけれ共、是の最後のものは事實上殆んど不可能のことでありまするし、又方程細かく分けますの必要を認めない場合が多いのでございます。兎に角理想といたしましては補助學級の數は多い程宜いのであるといふことは明らかでありますけれ共、小學校の各學年に相當する程細分する必要は認めぬといふことに歸着いたしまする。

編制に就いて尚ほ殘って居る二つの問題があります。それは西洋で申しまするに二つの問題でありますけれ共、我が邦では一つの方は問題に成らぬのでありまして、其の一つは男女の性別に依って學級を異にするや否といふ問題であります。第二は信仰即ち宗教上の派が違って居るのに依って組を異にすべきであるかどうであるかといふ問題であります。後の方のは我が邦に於いては殆んど必要が無いのでありまするが故に、我が邦に於いて男女の性別に依って學級を分くべきであるか若しくは男女共學を實施すべきか

といふ問題のみが殘る譯であります。是れは歐羅巴などに於ける實例に就いて見ますると多くは否、殆んど總べてが男女共學をやって居るのであります。元來普通の學校に於いては男女共學のことは一つの重要なる研究問題でありますけれ共補助學校に於いては此の問題が教育上から見ましても經濟上から見ましても容易ずく解決せられまして、即ち共學が實施せられ居るのであります。

第五　授業時間

第五には授業時間の問題であります。時間の問題は一方に於いて教育上の要求から他方に於いて衛生上の要求からと、兩方面から見なければならぬのでございまして、普通の學校に於いても此の兩方面の要求を同時に容れるといふ事は頗ぶる困難なる問題でございまするが、殊に補助學校に於きましては層一層の困難を感ずるといふ事は申し上げる迄も無い事であらうと考へます。從って十分の考慮を要するのでありまするが、先づ第一に起ります問題は何れの教科が特に疲勞を多く感ぜしむるかといふ事であります。是れは普通の學校の授業時間を定めます上にも大に考を要する事であります。殊に補助學校即ち低能兒を收容

いたします教育所に於いては一層大切を感ずる點であります。此の點に就きましてはクレッペリン、エッビングハウス、ロブジェーン、バウルなどの人々は作業と疲勞とを概括して研究いたしましたし、又グリスマン、ブルガースタイン及びシッラーなどは教授案の分割及び持續、即ち教科はどう云ふ風に分けるが一番都合が宜いか、又どの位の間持續して教へると最も善いかといふ樣な實際教授の方面から見て研究をしたいのであります。是れは兩方共教授時間幷びに教授事項の配當を科學的に研究いたしまする上に多大な參考を與へるものでありまするけれ共、今之れを詳細に申し上げるの餘裕を有ちませぬ。唯是れ等研究の結果として低能兒の教育上特に注意すべき原則丈けを引き來って申し述べたいと存じます。兎に角低能兒は普通の兒童に較べて疲勞が早く現はれ且つ其の分量が大いといふことは疑ふ可からざるの事實でございまする。夫れ故に通常の學校に於いてよりは其の授業時間を短縮しなければならぬといふことも亦明らかなることになりまする。殊に困難なる教科に於きましては其の持續の時間を普通の學校に於いての半分位に減縮するといふことが必要であらうといふことと、比較的困難なる教科を比較的容易である教科の中に挾み、精神的勤勞を多く要する抽象的のものを多く取扱ふ教科は引續いて一緒に置かないと云ふ事との二事はモウ明らかに分かる事と思ひます。即ち精神勤勞を多く要する所の教科は其の間に唱歌とか手藝とかいふ樣な學科を挾みまして交互相交換するやうに排列することが必要でございませう。それらは言ふ迄も無い事でありまするがさて此の外更らに注意を要する點は次ぎの諸項に纏めて申し上げる事が出來やうと思ひます。即ち其の第一は生徒の生理的勢力を見て之れに適當と思ふ樣な時間を定めることである。第二は最初の時間は常に最高の努勉を要するやうな教科を配當することを避ける。第三は子供の心理の或る方面を働かしたならば其の次ぎには他の方面即ち前に働かさなかった所の方面を働かすやうな風に定めるといふやうなことに常に注意することとてある。隨って此の運用の出來る爲めに、時間の或部分は全く教師が自由に差し繰り斟酌の出來るやうにして置かねばならぬ。それから第四は若し出來ることであるならば何れの級も同じ時間に同じ學科を教へるやうにすることとてある。即ち甲の組が算術をやることになれば乙の組の方も算術を

すると云ふやうなことが必要である。それは低能兒といふものは餘程外界の周圍の事情を都合好いやうに致して置きませぬと兎角注意が散漫する恐れがある。それ故どの組も算術をやって居ることになると自分もやらねばならぬといふ風になることが一つの理由、今一つは教科に依りまして多少其の一時限の長短を變へねばならぬことがある。これは今日小學校ではさう云ふことを考へて居らぬので元よりまだ未定の問題でありますが、殊に低能兒に對しては、或教科は少しく長きに渉ってジット落ち着いてやらす方が都合が好い。又或る教科は寧しろ二十分か十五分位でやめて要點だけを考へさした方が都合が好いと云ふ樣なことがある。斯樣な斟酌を致しまする上には、同時に同教科をやりまするといふことは都合が好いといふが第二の理由であります。それから第五には成るべく其の授業時間は午前のみにして午後は避けるやうなことが宜しい。第六は一時限と他の時限との間の休憩時間を普通の學校に於いてよりは長くするといふことである。少なくとも十五分間以上二十分以内の休憩時間を與へなければならぬ。勿論此れは遊ばして置く時間を長くするといふ趣意からではありませぬので慰安回復の出來る餘裕を與へるといふの趣意であります。必ずしも遊戲を爲さしめ騷がすことが目的ではありませぬ。新鮮なる空氣を呼吸し身體四肢を自由に動かすといふことが主であります。隨って教師は此の間常に怠らずに監督注意をするといふことは申し上げる迄もなく必要であります。

第十節　補助學校の教案

補助學校の教案編成の問題は困難中の最も困難なる問題であります。第一、其の根本から致して既に問題だらうと思ひます。即ち補助學校並びに補助學級即ち低能兒を收容する所に於いて、或教案を立てるといふことは出來るものであらうかどうであらうか。扨申し上げる如く低能兒は既に千態萬狀に變化して居るものである。それに對して一定の標準に基づき教案といふものを立て得るものであらうかどうであらうか。元來教案と云ふものは或平均の標準を目當と致して居るものである。然るに千態萬狀お互に非常に異なって居りまする所の低能兒の教育上、斯くの如き一定の標準を與へるといふとは果して可能であらうかどう

てあらうか。之れ實に一つの問題であります。若し教案といふものを以って普通の小學校に於ける教案と同じ趣意のものと見ますれば是れ恐らく餘程困難でありませう。けれども、補助學校に於ける教案といふものは、さう云ふ趣意のものではなくして、寧しろ教へまする方のもの即ち教師が、一定の時間に此處まで達して見たいと云ふ見込を配列したものに外ならぬ。即ち當ても無しに唯だやるのでは無くして或自覺したる見込を定めたものであると、斯う見るのでございます。斯う云ふやうに見ますると補助學校の教案といふものは又之れを立てることが出來る。否、此の點から見て補助學校の教案と云ふものは今申し述ならぬものであらうと思ひます。總べて補助學校の教案といふものは立てぬければべました如き見地から出て居りますので隨って其の當事者の見る所に依りまして元よりイロ〳〵に違って居りまする。若し一致して居る點を求めまするならばそれは小學校に於いて行って居る教案を其の儘補助學校に持って來ることは出來ないといふ點隨って普通の小學校に於ける教授案の中から最も必要であると云ふものを選擇して來なければならぬといふ點と此の二點がこの補助學校の教案に於いても一致して居る所があります。そて先づ大體に於いて補助學校に於ける教案を定めるといふことになりまして、最初に著眼しなければならぬ要點は、教材を思ひ切って少なくするといふことである。補助學校に於きまして從來動もすれば、どうも教材を尊崇し過ぎる。即ち知識を禮拜し過ぎたといふ弊害を存して居る。故に補助學校に於ける教材は思ひ切って少なくすると云ふことが只今では段々行はれて來たのであります。けれども之と同時に又他の危險をも顧慮しなければならぬ。と申すのは他の方に於いて療治教育學上の要求がある。それは丁度從前の弊害と正反對で、教材を過度に少なくする爲めに却って又其の効果が無いといふの弊害を生じて居るのであります。勿論低能兒教育法は只だ知識を授けるといふだけではイカないので、所謂教授といふ仕事の外に、更らに訓練てあるとか或は作業てあるとか一言以って之れを掩へば所謂教育の仕事に骨を折らぬければならぬことは無論のことてありまするけれども、併し又餘り教材を少なく致しまするといふと、此の低能兒教育の目的てありまする所の知識能力の開發といふことが其の由る術がないといふやうな憂がある。それ故に其の方の危險も矢張

り豫防するの必要がありますので、即ち或點まで必要なる教材を教へるといふことは飽くまでも大切でございます。一體補助學校も矢張り學校である。學級であり學校である以上は相當の知識を授けると即ち教授といふ仕事はどうしても缺くべからざることであります。それならばどれだけの知識が必要であるかと云ふ問題に這入りまするといふと、普魯西の文部省の訓令にもありまする如く、小學校の最上級に於いて達し得る知識の程度には補助學校の最上級でも達することが出來ない。これは勿論明らかなことであります。即ち補助學校の教案の材料上の最高の目的と云ふものは普通の小學校の教案の最高の目的よりは餘程低い所に置かねければならぬ。されば云って普通の教授の中級の程度を以って直ちに補助學校の最高の程度と定めるとにもイカぬ。少なくとも實科の方面に於いてはさう云ふ譯にイカぬのであります。何となれば補助學校は兎に角自立の教育的並びに教授的の設營でありまして、それに這入りますものは假令低能であり、或は又遂に低能て止まるにした所が、兎に角直ちに實際生活に出まして人間社會の相當の値打ある一員に仕上げなければな

らぬ。さう仕上げる爲めの特別の教育を施すことが必要であります。それでありまするから、補助學校に於ける教育は矢張り一種の完結教育であって又どう致しましても大體に於いて個人の意思並びに活動といふものを覺醒せしめ及び鼓舞するに就きましては出來るだけ十分努めなければならぬといふ趣意を有って居る。それでありまするから矢張り意衷陶冶と生活に必須なる知識と此の兩方面から見て適當なる教材を選擇するといふことに於いては小學校と其の見方を全く異にするといふ譯にイカぬのであります。それでも低能兒であるが爲めに其の方法を異にするといふことは元より已むを得ぬ所である。即ち其の分量や程度や、排列や取扱に至っては普通の學校より多少變へねければならぬのであります。隨って此の點に付きましては種々な研究が表はれて居る。其の實例の一二を申しまするとと第一は「ロビンソン問題」といふのがある。これはトリュバーと云ふ人が獨逸國エナ市のソフイエンヘーヘといふ所で立てゝ居る教育所に於いて「ヘルバルト」派のライン氏の中心統合法に基づきて教材を選擇し、八歳から十歳に渉る位の低能兒には「ロビンソン」物語を中心と致しまして、さうしてそれに因んで庶物

示教だとか、手工だとか、圖畫、唱歌、國語、算術だとかいふ教科を授けてやって居るのであります。其の外フックスといふ人が低能兒教育上に於ける「ロビンソン」物語を大に推賞致して之れが採用を慫慂致して居ります。所が低能兒といふものは其の自然の發達に於いて通常の子供より一年か二年乃至三年遲れて居るものであると云ふやうな簡單に論結の出來るものならそれで宜しいのでありませうけれども、通常の子供より遲れては居るが、其の目に見、耳に聽くことは年相應に長じて居るものである。それは極く小さな子供に適當する「ロビンソン」物語を以って稍〻大きくなって居る低能兒に當て嵌める譯にはいかぬ事情がある。現に子供を其の學校の中に閉ち籠めて置いて、社會の物質的並びに人文的經驗といふ者に耳目を晒さしめることが無いならば、「ロビンソン」的發達を遂げ「ロビンソン」的教訓て適合するのでもありませうけれどもさう云ふ譯にはいかない。それ故に此の問題は十分效果を見るに至らなかった。之れを低能兒教育上の「ロビンソン」問題と申します。第二に特別教授上の教科書問題といふものがある。即ち低能兒の用ふる特別の教科書が必要てあるかどうてあるかといふ問題てあります。此の事は既に

ライプチッヒ市或は瑞西等に於いては企てられましたけれども、まだ一般に採用流布するに至りませぬ。低能兒の爲めの特別教科書は今日の處全體と致しましてまだ流布いたして居りませぬ。第三は補助教育、即ち低能兒教育の教案中に於けるる言語發音矯正の問題であります。即ち言語矯正、發音矯正といふことが、低能兒教授の教案中に於いて如何なる位置を取るべきかといふ問題てあります。それは蓋し低能兒の多數と云ふものは、言語上の過誤を非常に犯すものでありますから隨って低能兒教育の上に於きましては通常の學校の國語教授に於けるよりも一層重大な位地を取らぬければならぬといふのてあります。又事實に於きましても補助學校なり補助學級なりに於いては言語教育、發音矯正に非常に重きを置いて居るのてあります。而して獨逸に於いては其の矯正の方法と致しましてはグーッマンといふ人の方法が一般に用ひられて居るのであります。グーッマンは親と子と二人ありますが、二人とも吃唖治療、發音矯正といふことを深く研究いたしましたので、多大の貢献を斯道に加へた人てあります。私は此の二人の中、子の方のヘルマングーッマンといふ人の吃音矯正法の講習を受けたのでございます。

それから又シュレーズ井ッヒボルシュタインから獨逸の北の境の方に行くときルの補助學校長ゴットフリンク氏の方法といふのが行はれて居る。

此のゴットフリンクといふ人は、言語幼稚園といふ一種の幼稚園を立てゝ、發音などの十分でない子供の小學校に行く迄のものゝみを收容致して居りますが、其處で學校に行きまする半ケ年前まで、即ち滿六歳にして學校に行くものと致しまてゝ其の實驗の結果として一定の系統を拵へ、其の系統に基づく發音矯正法を立てたのが乃ちゴットフリング氏の方法と稱せられるものでございます。此のゴットフリンク氏の方法も、グーッマンの方法も共に良法であります。

以上申し述べたるが如き種々の點に就いて篤と考へて、補助學校の教案といふものは出來るのでございまするが、今次ぎに實例と致してハッレの補助學校に於ける教案を擧げて見ますれば之れは月に依って分けてあります。一學期二學期と云ふやうな體裁をせずに四月五月六月と云ふ樣に月に依って大躰定めてあります。それからハッレの補助學校には一學年から六學年までの學級がありまするが其の六學年を通じて月に依って極めてあるのであります。其の中最初の一年級の分だけはチョッと申し上げますれば、一學年は直觀教授、活動教授、躰操、唱歌と、是だけにしてあります。それで四月に於きましては……ハッレと云ふ所は宗教の盛んな所でありますから其の地方の補助學校でも特に宗教科に大變重きを置いてをるので、……即ち四月に於いては宗教科にては、春の植物、神が如何に花や芽を成長せもむるか、春は一年の中神が與へし最も樂しき麗しき時期であるといふことを主にして教へる。それから直觀教授に於きましては、學校園を舞臺と致しまして、花、草木、其の活動といふことを教へます。それから活動教科に於きましては、學校園に於ける子供の喜び、砂山、遊戲、それから幼稚園的の玩具、それから遊戲の歌を配當し、算術科に於きましては計數器を用ひずして一から十までの數、躰操及び唱歌に於きましては時節に合し且つ身躰精神教授に結合して自由なる運動、遊戲及唱歌を授けまする。五月になりますると宗教科に於いては春の動物といふ題て如何に神が鳥や獸を此の世の中に造ったか、且つ之れに如何に營養を與へるかといふことを主題目とする。直觀教授と致しましては前の月の所に加ふるに歌ひ鳥、蝶を、

蜂、蝸牛、鳥の巣を授け、活動教授と致しましては學校園に於ける有樣を觀察せしむる。算術及び躰操、唱歌は前の月と同じてある。六月に至りましては、宗教科に於きましては、如何に子供は神の創造物たる禽獸草木を取扱ふべきてあるか。動物に親切ならざるものは其の心亦親切てないといふことを主にして教へ、直觀教授として學校園、殊に夏の花園、田畑、夏期に於ける動植物の活動といふことを教へます。活動科、算術科、躰操、唱歌などは前の月と同じてあります。七月は夏休てありますから教案は記入されて居りませぬ。八月に到りまして宗教科に於いては、神が如何に地上を繁茂せしむるか。如何に太陽が親しく笑ふか。如何にそれが熱と光りを與へて萬物を繁榮せしむるか。而して是れ等を造りし者即ち神が之れを喜ぶてあらうと云ふ樣なことを主に致しまして、それから直觀教授に於きましては矢張り學校園て、それに加ふるに田畑に於ける人、即ち農夫の仕事といふことを教へます。それから天氣、日光、降雨といふやうなことをも授ける。活動科に於きましてはイロ〳〵の色を着けまして、小さい棒て以って子供が日常觀察いたしますものゝ形を造らせ、又針金を用ひまして矢張り觀察いたしまする所の種々の事

物躰の模型を造らしむるのてあります。算術は前の月と同じ上に更らにウィンターマン及びクレーマーと云ふ人の編輯した唱歌集を用ひます。これは八十ばかりの唱歌を子供の躰操遊戲用として集めたものてあります。九月に至りましては宗教科に於いては神が如何に變化の劇しき氣候に對して我々を守るかといふことを題目に致しまして、ハイネマンの「神が我等を守る」といふ歌を授ける。それから直觀教授に於いては、學校園殊に學校園に於ける小さい建物……日本ていふと藁小屋の如きものに就いて建築構造を簡單に知らしめる。それから木の枝や葉て小さな三角臺のやうな物を作らしめる。それから更らに蜜蜂の巣と泉水とを教へまして、活動科は前に同じく、躰操、唱歌に於きましては、ザイデルと云ふ人の運動遊戲唱歌を用ひる。十月に入りましては宗教科に於いては、神が如何に果物を熟せしむるか。我々の持つ凡ての良い物は神の賜物てあるから神に感謝せよと云ふやうなことを主題に致しまする。又。直觀教授に於きましては秋の學校園、活動教授に於きましては直觀教授て學びし所の材料に對し簡單なる讀み書き、それからミュラーと云ふ人が考へて按排致し

ましたる法を以ってイロ〳〵の圖形を拵へることを授ける。それから算術、唱歌、躰操は前の月に同じ。十一月に入りまして、宗教科では、如何に神が動植物に其の終りを完くせしむるか。昨日まで青々として居った神の園が今如何に變ぜしかとい。ふことを主題と致します。直觀教授に於いては矢張り秋の學校園、それから殊に秋の花、草、木、動物といふことを主題に致します外は前の月と同じ。十二月に至りまして宗教科では「クリスマス」の話、且つ其の讃美歌を題目と致します。直觀教授に於いては冬の學校園、其の雪を以って蔽はれたる有樣。活動教授、算術、躰操、唱歌は前月と同じ。一月に入りまするとと、宗教科と致しましては、生徒の相互間の關係……丁度寒氣の爲めに外へは出られないて困るからそこて教室教授が初まるので、兒童が教室に一緒になって居りまする所を機會と致しまして子供同志がお互に仲能くしなければならぬと云ふことを教へます。それから直觀教授と致しましては「ワイナハト」祭といふのは英語の所謂「クリスマス」て「獨逸に耶蘇教の這入って來ない前にあったお祭りを丁度時節が略ぼ同じとてあるからといふので耶蘇教の「クリスマス」と結び付けて一年中て一番大きな祭りになって

居ります。それて此のお祭りの時には部屋の中に大きな樅の木を飾りましてそれへ蠟燭を立て火を點けて廻りにイロ〳〵な飾りを作って、皆が集まって「ワイナハト」の歌を歌ひなど致します。是れは獨逸てはお祭りてあります。それから之れに加へて教室といふ題目を取り教室内の色々のことを教へる。外の教科は前と同じ。二月になりますると、宗教科ては生徒の教師に對する關係即ち教師に從順にして且つ常に教師の示す手本に從って行くべきてあると云ふことを授けます。外の教科は前月の續き。三月に入りますと今度は生徒の兩親に對する關係即ち子供は兩親の子供てあるから兩親に對して從順で且つ常に其の指導に從ふべきてあるといふことを主題に致します。それから直觀教授に於きましては矢張り前の續きて學校、教室、校庭と云ふことを教へます。斯ういふ風に毎月に配當されてあるのてあります。是れは幼年級のてございまするが段々上の方の級のも同じ仕組てありまするが之れを申し上げねばならず、且つ題目の名許り出て居るのみて余り興味於ける教案をも申し上げますると

が索然と致して居りまするから是だけに致して置きます。

第四章　「マンハイム」式學級新編制法

第十一節　新編制法の由來

此の「マンハイム」式の新編制法と申しますのは單に低能兒と云ふ方だけでなしに其の根本問題と致しましては子供の能力に依って學級を分けるといふの點にあるのでございまして、今日に於きましては普通教育上歐羅巴に於いての研究論議の一つの中心ともなって居る一の重大なる問題であります。蓋し從來の學級編制法は、子供の年齡と云ふものを標準と致しまして、即ち同年齡の者は同一の學級に編制するといふことを原則と致しましたのに反して、此の新編制法は其の上更らに兒童の能力に應じて班を分ち組を變へるといふの原則に基づいたものであります。之れが大變に歐洲に於ける教育社會の耳目を聳動いたしまして之れを可とするもの否とするもの益々多く、甲論乙駁、遂に教育社會の一大問題となるに至ったのであります。今日に於きましても態々遠方から此の地に行きまして其の有

樣を實地に參觀するもの踵を接して起り、又其の結果を持ち來たして之れを己れの學校に於いて施し行ふものも出來、兎に角やかましい問題の一になって居ります。

一躰此のマンハイムと云ふ所は南獨逸のバーデン州にありまする一の町でありまして、元は極く小さい所でございましたが最近に至り非常に急劇なる發達をいたしまして今日では商工業上の一の有名なる中心となって居る所であります。斯樣に急速なる進歩を爲しましたる土地でございまする故、其の町の如きは丁度日本の京都の都を奈良から移された時に一定の計畫通り街衢を立てられたやうに初めからチャンと其の町の工合を極めて置いてさうしてそれへ向けて段々家を立てゝ急に發達した町でありますから、學校の所在地の如きも、學校の管理の如きも、町の未だ十分に整頓し無い時分から既に一定の計畫があって其の計畫に從って着々と充實されて行ったのであります。それ故學校の相互の距離とか、或は學校の建方とかいふやうなことまで初めから都合よく出來て居る。町の如きも獨逸の町は大抵昔土地の名であるとか或は人の名であるとかいふやうなものを付けるのでありますけれども、此處の町のみは第一街第二街といふ名をつけ、丁度亞米利加

の新開地の町のやうな風に出來て居る。さう云ふ所でありまして急に進歩をいたした所から、其の土地の人が此の地の繁榮を進めるのにはどうしても普通教育を改善し、而かも最新の方法に依り、十分なる研究を加へて一定の方法でやらねばならぬといふの點に着眼いたしまして、夙とに有爲なるドクトル、ジッキンガーといふ人を聘して市視學と致して之れに教育の事を一任致したのでございます。此の人は之れより先きカルルスルーエの視學を致して居りましたのをわざ〳〵呼んで優遇をしてそして市の教育を委したのです。所がジッキンガーと云ふ人は仲々のやり手でありましたから色々研究を積むて終に所謂マンハイム式新編制法を實施いたしまして今日まで既に六ヶ年の經驗を積んで居ります。私は伯林に居る頃から此のジッキンガー氏と書面を以って交通することに依りまして此の系統を研究いたしまして丁度一昨年の秋獨逸から佛蘭西に參りまする際に此の市に立ち寄りまして、親しく實際を見て參りました。それ故其の大躰を此處に申し上げて見ようと思ふのであります。

其の由來を申し上げます前に、先づ此の新系統が歐羅巴の普通教育社會に對して如何なる影響を與へて居るかといふの概略をチョッと申し上げて見たいと存じます。其の(第一)は千九百五年七月六日に瑞西國のサンガレンといふ處で開催せられた白痴教育に關する瑞西國聯合大會で次ぎの事を決議致しました。即ち同年齢の兒童を能力の相違に依って學級を分かち之れを三種に編制する所のマンハイム市の學校組織といふ者は從來の如く單に年齢に從って學級を分かつ者に比べると遙かに優良であると。斯う云ふ決議を致しましたと同時に同國チューリッヒ市に於きましては次ぎの學年から之れを實際に施し試むることに致しました。其の外事情が許しさへすれば他の州に於いても亦之れを試むべしといふことを決めて居ります。それから(第二)には同じ年の七月十四日に伯林市に於いて開催いたしましたる普通西全州小學校長總集會と云ふものに於いて又此の「マンハイム」式學級新編成法を是認いたしまして、更らに進んで實地に就いて驗照する必要があるといふことを宣言いたして居ります。(第三)に同年六月十六日エルバーフエルト市に開催したライン地方小學校女教員聯合會に於いても又心身薄弱なる兒童の天賦の器能を開發する所以の道として、マンハイムの新編制法に於ける進

學級の組織……これは後に説明いたしますが……を以って最も適當なものと認む。故に教育上、生理上並びに社會上の基礎から致して本會は實に此の系統を推擧すると云ふの決議をいたしましたるの外尚ほ進んで此の新編制法とライン地方並びにウエストファーレン地方に普及することを其の筋に望むと云ふことを會の名を以って發表致して居ります。(第四)に千九百五年七月二日ゲルリッツに開催した男子手工に關する獨逸國聯合教育會總集會に於いても亦「マンハイム」式學校系統を是認し進學級の制を有理と認めましたる上、更らに他の地方でも苟くも其の土地の狀況の許るす限り進學級編制法を試んことを望む云々と宣言いたして居ります。それから(第五)にボルツハイムの小學校に於きましても、マンハイムの系統に從ひたる新編制法が、市學務委員並びに市參事會員の共に容るゝ所となって居ります。(第六)瑞典國のチュートリッヒに於きまして一昨年發表致しました小學校教案にも亦此のマンハイムの系統に隨って低能の兒童に向って復習級並びに退學級を編制することを奬勵いたして居ります。それから(第七)に一昨年九月二十九日に墺地利國文部省から新たに發布いたしましたる所の學校令の中にも、亦其の第六條に於きまして、心身の發育薄弱なる兒童の爲めには補助學級並びに進學級を編制すべしといふ旨を示めして居りますした。(第八)に同じく昨年四月十日發表せられたるケムニッツといふザクセン州の有名な工業地の學校令にも大抵これと略ぼ似たる箇條が擧げてあります。(第九)に同月二十二日に至って伯林市に近きシャロッテンブルグの市長は其の地の學校を變更いたしましてマンハイム系統と略ぼ似たる所の組織に致すことを布告致しまして、文部省の認可を得まして既に其の一部分を實行いたしました。丁度私が向ふを立ちます頃に大部分は此の組織に從ってやって居りました。斯樣な有樣で、此の新編制法といふものが獨逸國に於いて大なる影響を與へて居りまして、今日に於きましては全體に於いて二十一ヶ所に此の新編制法を行って居ります。

斯の如く多大なる影響を歐羅巴の教育社會に與へました所の此の「マンハイム」式の新學級編制法といふものが如何にして起ったものであるかといふ其の沿革の大要を申し上げますれば、千八百九十八年に於きまして此のマンハイム市に於ける市會議員の一人から市參事會に向って兒童教育に關する一個の質問は發せられ

たのである。其の質問は小學校を卒業した者て中學校の入學試驗を受けて落第するものが澤山ある。それから又小學校の兒童百人の中七十人若しくは八十人の多數が義務年限即ち八個年の間に於いて卒業することが出來ない。何處かて落第して居る。斯かる悲しむべき事情はどうしても捨て置くことが出來ない問題と思はるゝが、之れを如何にして矯正することが出來るかといふ質問てありました。所が此の質問は學事當局者なり又教育實際家の注意を大に喚起いたしました。其の結果、一方ては斯樣に學年と同時に段々進級して行くことが出來ずして落第して居る者の數を統計的に調べて見ると同時に、他方には他の地方即ちバーデン州の首府たるカルルスルーエ、ハイデルベルヒなどの有樣と比較して調査を遂げました結果どゝの詰り次ぎの五項を發見致したのてある。其の(第一)は小學校て授くる各教科の中て、算術、幾何の如きは、兒童の學習の實際の進度が所定の教程に副ふこと能はず、從って頗ぶる多數の兒童は是れ等の教科に限っては一段低い學級の兒童と共に學ばなくっちゃならないやうな事情に居ると云ふこと。(第二)は下級に於いては兒童の數が多きに過ぐるため、その結果教師の注意が周到なること能はず、又上級に於いては學科の多きに比して教授時間が少ないために兒童の智識が十分に進歩すると能はざる有樣てあると云ふこと。(第三)は教員の轉任、兒童の欠席等の事情が教育に多大の影響を及ぼすものてあるが、是れ等のことが從來甚だ等閑に附せられて居ったと云ふこと。(第四)は千八百九十二年の規定によりましてバーデン州に於いては七月一日より十二月三十一日までの間に生まれたる女子は小學校の七學年を修了すればそれて義務を免除さるゝことになって居るが、是れは甚だ不充分てあると云ふこと。及び(第五)といたしまして兒童は縱ひその年齡に於いては同一てあってもその心身の能力に至っては相互の間に實に非常の相違がある者て、精密に之れを區別するといふと、その差違が殆んど百分の百から百分の零に到る程てある。然るに教則は即ち一律てあって義務教育年限內に於いては少なくとも教則の要求する所はどうしても授けて仕舞はなければならぬ。其の上獨り心身の能力の相違のみならず、兒童病氣、家庭の事情など色々なる障碍が起って來る所から致して、義務年限中に最上級に達し又所定の教則に從って教育の目的を達することを得る者は兒童百人中五十人乃至七十人位のみてあると云ふて

とてあります。事情既に此くの如くてある以上はどうしても之れが矯正の方法を講ぜざるを得ない。そこて色々研究を遂げたる結果先づ之れが矯正の策として少なくとも次ぎの三項の改革を小學校の學級編成上に施さなければならぬと、決定いたしました。その三個の改革條項を述べまするならば、すなはち第一には、病的の薄弱なる兒童にして學校に居る間は毫も進歩の迹を示さず又學校を出てその後に至っては多くは讀み書きさへも出來ざる者として憐むべき一生を終はらねばならぬ者が少なく無いからして、是等の者の爲めに特別の學級を編制すると云ふこと、(第二)は病的に薄弱とまでは行かぬけれども、而かもその能力は到底通常に達して居無い。從って他の一般兒童と同じ樣に進歩することが出來ない者は、是れ亦一般の兒童より別けて教育を加へなければならぬと云ふこと、(第三)には、能力普通なる者は第一并びに第二に云ふやうな薄弱なるものより別ちて教授するを最も適當とするといふこと即ち是てあります。斯う云ふ決議の結果、マンハイム市に於いて千八百九十九年より之れが計畫に着手し、千九百年四月十九日に至って文部省の許可を得て愈々從來の學級編制法を變更いたしまして、現在の組織を施行するの運びに至ったのてあります。千九百四年四月ニュルンベルヒ市に開催せられましたる第一回萬國學校衛生會議に於きまして、この新系統を集成實驗したるジッキンガー氏及び同市の醫師モーゼス氏がこの會議に列席致しまして、新組織實施の結果を報告いたした處から、各地の新聞雜誌等の上に紹介せられ、之れに對して或は至極適當なる方法てあると云ふ說も出て、或は然らずと述ぶるものもありて、各種の意見が現はれまして甲論乙駁遂に教育社會の一大問題となるに至ったのてあります。獨り教育社會のみならず、更らに一般社會の注意を惹き起しまして、非常に喧しき問題の一となるに至ったのてあります。昨年の八月に前に述べましたジッキンガー氏がハイデルベルヒ市に開會せられましたる教員講習會に於いて前のニュルンベルヒ市の第一萬國學校衛生會議に於いて報告した所のものよりも尙ほ精しく且つ五年間に渉れる經驗の結果を發表致して居ります。是れはハイデルベルヒ市の新聞紙上に連日掲載せられまして、頗ぶる參考に供すべき者てあります。

以上述べた所は此の新編制法の沿革を一言いたしたのてありまするが、更らに

教育の理論の方面に就いて考へましても、兒童の能力に著しき相違があるといふことは餘程以前から段々と認められて居った所でございまして從って教育法も亦其の能に應じて多少變へなければならぬと云ふとも教育上の先覺者の頭には大分浮んで居った所のものであります。例へば、ヘルバルト氏は、「ウムリス、デヤ、ペタゴーギツシエン、フオアレーズンゲン」の終りに於きまして「學校の多樣なるは學校全體の改良上尊に非難すべき事て無いのみならず却って望ましき所てある。蓋し分業は總べての事物に於いて改良の方途にして且つ生徒を仔細に區別するとの必要なるは爾來屢々述べたる所によりて明らかてある云々」と述べて居りまする「能力の一樣ならざる子供を一緒に集めるのは學校教育上に多大の障害を與ふる者で、この事に注意を拂は無いのは學校規則といふ者の一つの弊害てある云々」と論じて居りまする次第て、一二の教育學者は早くも既に此の點に着眼して居りましたけれども、併し兒童の能力の相異が通常人の想像して居る所よりも、もっとずっと甚だしいものであるといふの觀念が非常に確かに成り且つそれてあるから其の教育法も亦材に適し能に應じて變へなければならないものてあるといふの必要を認めるに至りましたのは實に近來のことてあります。最も兒童の能力に應じて學級を分かち編制するといふことを實地に施しましたのはマンハイム市が必ずしも其の濫觴ては無いのてありまして從ってジツキンガー氏は決して之れが創始者たるの名を荷ひ得可きものては無いので、寧しろ曩きにも申しましたる如く之れが集成者たるの榮を負ふ可き人てありまする。然らば其の創始者は果して誰れてあるかと求めまするとこれはザイフエルト氏の功に歸せざるを得無い。即ち千八百九十一年にザイフエルト氏がザクセン州のマリエンタールといふ所に設けたる學校に於きまして兒童の能力に隨って學級を區別したのが抑もの始めてある。千八百九十七年に至りまして「ブラーン」といふ人がザイフエルト氏を助けて此の新組織に對する衛生學者の注意を惹起せしめんと努め、千九百二年に至りましてニュルンベルヒ市の學校衛生學者ランダウ氏は大にザイフエルト、ブラーン兩氏の説に贊同して衛生上より して此の組織の必要を絶叫致しましたが、時運の未だ熟せざる爲めてありませうか、社會より多大の注意を惹くに至らなかったのは遺憾のことてあった。然るにジッ

キンガー氏出でゝ其の有爲の材を以ってして遂に之れを大集するに至った。と斯ういふ次第であります。それ故に此の新編制法の搖籃の地はマイハイムにあらずして實にマリエンタールである。又其の創始者たるの名はジッキンガー氏の擔ふべきものに非ずして宜しく之れをザイフェルト氏の頭上に冠らしむ可きものであると認め無ければなりません。けれども又之れと同時に之れを集大成したるの功はこれをジッキンガー氏の手腕に歸すべきものであって元より沒す可からざる功勞と認めんければならず、又此の新編制法發達の地は乃ちマンハイムであると言って善からうと思ひまする。

第十二節　新編制法の梗概

次ぎに進んで此の新編制法の大畧を述べまするならば、先づ小學校の系統を分って三種と致します。主級系、進級系、補助系即ち是れであります。この中主級系は更らに又中學豫備級、退學級の二つに分岐し、進級系は又卒業級と復習級とに分かれ補助系の外に又白痴院がある。今これを一目瞭然たらしめんが爲めに圖で示すを次ぎの樣になります。

甲は主級系(七學級若しくは八學級)……(中は中學豫備級、退七は退學級)

乙は進級系六學級若しくは五學級)……
丙は補助學校(四學級)……

主一　は主級一年の學
豫三　は中學豫科三年の學
復一　は復習級一年の學
卒五　は卒業級五年の學
退五　は退學級五年の學
補一　は補助級一年の學

以下之れに準ず

圖に於いて縦の長さは約學年の長さを示し、横の巾は約現在の生徒數の割合を示し、↑—は通常の進級を示し、↑……は學年の中間から次ぎの上級に向っての進級を示し、↑……は復習を示し、又白は白痴院、文は文科中學、實は實科中學、高は高等實科中學、改は改正中學を示す。

尙ほ各の學級系に就いて一言づゝ簡單に説明いたして見まするならば、第一の

卒は卒業級
復は復習級
補は補助級
特別級

主級系に於いては、兒童の年齢が滿六歳から滿十四歳までてありまして、普通の能力を有して居る者は此の系統に從って學級を逐うて卒業するとを得る譯てあります。而して第一學年には先づ總べての新入學生を收容いたしまして、一學年の終りに至りまして其の成績に依って(一)第二學年に進學するものと(二)復習第一學年に送くる者と(三)補助學校第一學年に送くる者と、斯う三つに分かれまする。勿論心身の發達極めて薄弱てある所の兒童は一學年を經過しない前ても、約半年の後に於いては既に到底上級に進むと能はざるを認め得べき者がありまするが、是れ等は一學年間の經過を俟たずして、之れを進學級に送くると云ふ制度に改めまして、從前は一年俟って居ることてあったが、昨年度から半年の後に既に畧ぼ見込の明らかなる者は進級系に送くると云ふことに改正を致しました。さてそれから更らに又一年の經過に依りまして第二學年の終りに至ると、兒童の成績及び其の希望に應じて(一)第三學年に進學する者(二)復習級第二學年に送くる者(三)中學豫備級に進學する者と斯う三つに別かれます。それから又更らに進んて一學年を經過して第三學級の終りに至りまするとと、又其の成績に依って(一)四學年に進學する者と(二)復

習級に送らるる者とに分かれる。斯う云ふ樣な風て以下第六學年まて之れに準じて同じ筆法でやりまして、六學年の終りに至っては(一)七學年に進學する者と(二)退學級に送くる者とに分かれます。

第二に中學豫備級に就いて申しまするならば中學に入學するの希望を有し、主級に於いて四學年間就學した兒童を之れに收容いたしまして、此處て又暫らく修業をさした後に生徒の希望に應じて文科中學なり實科中學なり、高等實科中學なり各それ〳〵に入學せしむるやうになって居ります。

第三に退學級に就いては是れは主として女子の爲めに設けたるものてありまして、前にも申し述べました如く、バーデン州に於きましては千八百九十二年の規定に依って、女子に限り七月乃至十二月に生れた者は、小學校の第七學年を修了いたしますれば、滿十四歲に達せずとも義務を免除するの制度がありまする。從って第八學年に相當する教科は全く之れを修めなくて退學する者が出來る譯てあります。そこで此の缺點を補はん爲めに此の退學級と云ふものを拵へたのてありまして修業年限を一箇年に致しまして主級系の第七、

第八兩學年て教ふる教科竝びに教材の中特に必要と認めた部分のみを擇んて授けることとなって居ります。

第四は復習級でありまするが、是れは修業年限が七箇年て實際は各の學年を更らに又二部に別けて居りまする。是れは學年の終りに至り、主級系に於いて成績の十分でなかった生徒を之れに收容するの外更らに主級系に在學して居る中に長期間に渉る病氣て缺席をしたり。或は他の市町村から轉學して來たなどの事情の爲めに學業不進なる者を臨時收容いたしまして、之れに特別の教授を施したる後、其成績に依り(一)現級に止まる者と(二)二年級に進學する者と(三)主級に復歸する者とに分かれしむるやうになって居る。併し此の復習級に於きましては、第一學年の中に於きましては、今述べた三種の外能力甚だ薄弱にして到底進學の見込立たずと認められたる者は之れを白痴院に送くることになって居る。それから又此の復習級の第四年を終へた者は(一)現級に止まる者と(二)第五學級に進む者と(三)主級系に進む者と、及び(四)退學級に向ふ者と斯う四種に分かるゝとは先にお話した主級系と同じてあります。

第五に卒業級と云ふのは、修業年限も二箇年でありまして、復習級の四學年を終へたる者、或は主級系の四學年を終へたる者であって、今後二個年修業の後退學して仕舞はうと云ふ希望を懐いて居る者のみを收容いたしまして諸教科の中必須なる部分のみを擇んで授けることは丁度退學級と同じてありまして、又優良なる兒童の主級に復歸し得ることも亦退學級と同じてあります。而して二個年の後何等かの都合に依って尚ほ引續き學校に止まらんと欲する者は、更らに退學級に移ることをも得しむるやうになって居ります。

第六に補助學級、これは四學年より成り、能力薄弱なる兒童を收容して、これに特別なる教育を施す譯になって居るのでありますが、現在に於いては專ばら手工を課して居る。

第七に白痴院、これは主級系、復習級系、補助學校などに於いて結局教育の効果が甚だ薄く、どうしても所謂白痴と認めざるを得ない者を收容致しまして教授を施すことなくして只養護を主として居ります。

以上先づ此の新組織の實際の大略を述べたのであります。尚ほ現在に

於ける有樣を明らかにせむが爲めに主級系はどの位あるか、復習級系はどの位あるか、又補助學校に這入って居る生徒の數はどの位あるか、白痴院にはどれ程の兒童を送って居るかと云ふことを統計に就いて述べて見れば次ぎの如くであります。

編成の區別	學校數	學級數	生徒數	一學級の生徒數
第一主級	二四	五四六	二三〇〇〇	四五―五〇
第二復習級	一二	四五	一二九一	二五
第三卒業級	九	三六	一〇九八	二五
第四退學級	七	一九	八〇〇	四五―五〇
第五中學豫備級		六	二五八	四五―五〇
第六補助學校	二	八	一二六	一二―一五

また、マンハイム式學校系統の主腦ともいふ可き主級系と復習級との關係即ち復習級の兒童が如何なる割合を以って進學するかといふ狀況は次ぎの統計によって分かります。

學級		學年ノ終リニ於ケル數	目的ヲ達シ特別ノ進級		通常ノ進級		退學シタル者
			達シタル者	達セザル者	學年ノ中途ニ於テ	學年ノ終リニ於テ	
復習級 第一學年	男	一〇三	八	一四	一	四	一
	女	一一三	九	一四	六	一三	一
同第二學年	男	九九	八	一〇	一	一	一
	女	一二八	一〇	八	一	一三	一
同第三學年	男	一二六	一三	一四	一	一	一
	女	一三一	一三	一四	一	一四	一
同第四學年	男	一二七	一七	一〇	一	一	一
	女	一四〇	一九	一二	一	一	一
同第五學年	男	一二九	一四	一五	一	一	一
	女	一六五	一四	一九	一	一	一
同第六學年	男	一三〇	一九	一一	一	一	一
	女	一四一	一四	一四	一	一	一

以上述べました所によってこの組織の大躰はお分かりになったことであらうと思ひます。

第十三節　新編制法の成績

前節に於いて新編制法の梗概を申し述べましたから、今や進んで其の成績を一言しようと存じますが、之れに入るに先だち、茲に此の新編制法に對する重なる學者並びに實際家の贊否の意見を擧げて見たいと存じます。先づカルヽスルエのドクトル、ライー氏は「普通部の兒童を優等と劣等との二種に分けるだけで善い」と申して居ります。フランケンタールの地方視學ハンス、フリードリヒ氏は有名なクレッペリンの門下の人で疲勞調査上には色々の寄與貢献を爲した人でありますが、此の人はマンハイムの新編制法に全然贊成の意を發表致しました。次ぎにエナの教育所長トリュパー氏は「マンハイム」式の新編制法に於いて兒童の組分けの上に知力上の點が主に成って自から情緒及び意志の點が十分に斟酌せられ無いのが一つの難點とする所ではあるけれども、大躰に於いては此の組織は獨り社會政策上よりのみならず又國家的に必要てある」と申して居ります。次ぎにハノーヴァー市の市視學ドクトル、ウエヤハーン氏は此の新編制法に贊成の意見を發表致し、且つ附け加へて「落第生の數は敎授方法上に一層の改善進歩を如へたならば今よりは更らに少なくせしむることが出來る。是れに最も必要なるこ

とは、教育費を多くするといふことである。マンハイムの組織では、ジッキンガー氏の報告に據ると、一萬五千百六十名の生徒に對して百九十二萬四千「マルク」を支出して居るとの事故、生徒一人の頭割りが百二十「マルク」に成る。此れ程多額の費用を掛けて居る所は獨逸の大都會中殆んど類の少ない所である。外の都市でも此れ丈けの教育費を掛けてやったならば、落第生の數を今よりもずっと少なくすることは必ず出來る云々と申して居ります。次ぎにマトルブルグ市の校長ヘッツェ氏は全然ジッキンガー氏の說に贊成を表してライー氏の二分割說を駁して居ります。兎に角多少の難點もありまするけれども、先づ大躰に於いて此の新編成法に贊成を表して居る人が甚だ多いのでございます。之れを一括して「マンハイム」式新編制法に關する論爭とても申しませうか、併し私は玆に此の論爭を詳述するの餘裕を持ちません。それは餘り細論に立ち入ることともありまするし、又低能兒敎育の問題に對しては少し技派に流れまするが故に更らに他日を期することと致しまして、唯だ此の「マンハイム」式小學校の從來一般の學級編制法に對する長短得失の比較に就いて一言しようと思ひまする。管々しいことは煩を避けて申

しますまいが、要する處、通常此の新系統に從ったる編制法の利とする處は兒童の器能に應じて級を分けて敎授を施すのでありまするから、能力十分なる兒童が同列劣等生の爲めに自から其の進歩を妨げらるゝやうなことがなくして所謂無聊を感ずることがないと同時に劣等生も亦同列の優等生の爲めに自から己が力の及ばざる處を强ひられて稍もすれば一知半解に終りながら次ぎへ次ぎへと進んで行くと云ふやうな弊もなく、即ち雙方とも各々其の力に應じて適當の進歩をなすことが出來ると云ふの點に存するのであります。特に實際問題といたしましては、所謂落第生の取扱劣等生の取扱の如きは此の新編制に於いては先づ理想に近く行はれると云ふの利があります。抑も落第生と云ふものは隨分學級敎授上に於いて常に敎員の頭腦を惱ます問題でありますが、この新編制法に從ひますれば、其の點に於いて大體の利益を受けると云ふことは敢へて私の喋々の辯を須ひるに及ばずして明らかな事であらうと思ひます。併しながらこの編制法の短所とする處は又劣等生が優等生の刺戟がない爲めに勵もすれば、其の位置に甘んじ、奮勵心を失ふといふことが一つ、又父兄も自分の最愛の兒童が劣等級と云ふやう

な處に居ることを喜ばざるの傾向があると云ふのが一つと此の二點に歸します
る。且つ兒童の學業は其の身體の狀況により又周圍の境遇により及び當該兒童
固有の特性によって進否の度必ずしも常に同一ではない。然るに一年か半年の短
時期間に於いて示したる所謂一時の成績といふものを以って容易く其の級を變へ
其の班を異にせしむるは甚だ宜しくないのみならず學級に於ける兒童の編入編
出常に絶えざるを以ってこれが爲めに敎授の進歩も亦少なからざる弊害を受ける
と云ふことであります。併し是れ等の點に就いては此の新編制法の實施の上に
多大の經驗を有せるドクトル、ジッキンガーは次ぎのやうな辯駁を加へて居りま
す。第一の點即ち劣等生が優等生の刺戟がない爲めに奮勵心を失ふと云ふやう
なことを以ってこの制度に對する攻撃の理由とするけれども併し能く熟考し且つ
實際に就いて經驗を致して見ると云ふと餘り懸隔して居る優等生は劣等生に刺
戟を與へざるのみならず、却って勉勵心を失はしむる者である。あの子供には迚も
叶はぬと云うやうな氣が子供に生ずる爲めに却って劣等生の努力奮勵を失はしむ
るのは事實である。それよりは優等生は優等生、通常の者は通常の者劣等生は劣

等生と云ふやうに分けて置くと、其の各々の組の內に於ける相互の差違は素より
甚しくないから、却って差異の少ない同列の者の間に極適當なる奮勵が起り競爭が
生じ其の結果却って各級の進歩を來す者である。言ひ換へれば大抵似たりよったり
の成績の者を集めて置く方が却って奮勵心を皷舞する所以であるから劣等生が優
等生の刺戟がないから動もすれば奮勵心を失ふと云ふやうな攻擊說は事實に於
いて其の當を得ないものであると云って居ります。次ぎに第二の批難即ち父兄が
某の最愛の兒童を所謂劣等級なるものに在籍させるを喜ばざる傾向があるなら
ば、それは新編制法の趣意が十分に父兄の頭に徹底しない時に於いては固より起
ることを免かれないけれども能く其の趣意が父兄に了解せられ又現在
出來ない子供を無理に强ひて勉强させ丁度駑馬を駿馬と競爭させるやうなこと
をしてそれが爲めに却って最愛の兒童の身體上並びに精神上の能力を傷害するや
うな事の恐れを十分に知らしめたならば、父兄たる者は却って其の編制法の兒童の
爲めに有利有益であると云ふことを認めて喜ぶやうに至るのは自然であると思
はれる。それから又第三の批難即ち兒童の成績は變化するものである故に短日

月の間に示したる一時の成績によって組を變へ班を異にすると云ふは宜からぬと云ふ說に對しては素より至當の言であるけれども、この新編制法に於いては何時でも奮との級に復歸することも出來れば更らに進歩せる組に移ることも出來るやうて出入移轉甚だ容易であるからしてこの攻撃も當って居らないと云ふやうな說を擧げてこれに答へて居るのを見まする。以上先づ其の新編制法に較べて利害得失のある處を略述したのであります。

次ぎにこれに對する私の意見を附加したいと思ふ。これが爲には私が先づ學校を參觀いたしました時の所感を一言するのは順序であらうと思ふ。私は此の市の學校に於いて其の各級系に就いて各級の進歩管理の狀況生徒の自覺奮勵努勉の模樣等に就いて其の相互を比較し其の差違を明らかにしようと考へましたから成る可く同一年齡にして然かも學級を異にして居るものを而かも同一學科に就いて參觀したのであります。即ち主級系の三年復習級の二年補助級の二年を續けて見而かも同じ算術ならば算術を見ると云ふやうな風に致しましたのてありますが切て其の參觀の結果如何を繹ねまするならば次ぎのやうなことを發見いたしました。まづ第一は色々の教科の中て算術讀書等の教科に於いて各種の級系の間に非常に著しき相違があると云ふこと、第二此の新組織は教師の側より見て非常に便利であると云ふこと即ち教へ易いと云ふとの二事を發見いたしましたけれども又これと同時に(一)劣等生を集めた組の氣力が甚だ旺盛ならずして就れかと申せば意氣銷沈せるやうに見受けられたこと(二)及び劣等生を持って居る教師の注意がどうも十分周到てないと云ふの二事をも認めたのであります。即ち同列の劣等生のみを集めて置くと云ふと却って奮勵皷舞せられると云ふジッキンガー氏の說もあるてありまするけれども併し事實劣等生のみの學級の有樣は何だか銷沈して居るやうてある。矢張りその刺戟がない爲めてはなからうかと思はれたのてあります。それから第二の點即ち劣等生擔當の教員の注意が十分てないと云ふことは最も悲しむ可きことてありまして思ふに此の新編制法の特色とし利點とする處を打破する者てはなからうかと考へます。丁度私が見ました時に復習級を受持って居った教師などは劣等生を受持って居るのてあるに拘はらず非常に怒りっぽい。前にお話申した通り其の復習級が又甲と乙との二組

に分かれ、單級的に同一教室で算術をやって居ったのでございますが、其の乙組の方に居った一人の女生徒はどうしても四つといふ數の觀念が出來無い。三つといふ數もよく理解し、五つといふ數、六つといふ數、四といふ數丈けが分からない。實に不思議千萬と思はれたのでございます。そうすると此の先生が烈火の如くに怒って手を出せといふ……向ふては體罰として手の掌を打つことがありまするが……其の小供は恐る〳〵手を出す、そうすると先生がそれをしたゝか打つ。丁度此の時露西亞のモスコーの女教員も來て居って私と一緒に此の組を參觀して居ったのでありましたが、此の女教員もマア隨分非道いことをすると思ったらしい顏付きをして居った。私も餘りに不思議だと思ひ、其の上此の受持ちの先生のやり方が隨分ひどいと思ったものですから横から嘴を容れて先生の手を止めた。……向ふては校長などが教室を參觀して居って、授業の最中に生徒に話しをしかけたり、或は教師の手を止めさせて注意を與へたりすることを平氣でやる。此れは教育上元より宜しきを得たものでは無いのみならず、却って害のあることでありまするから私は學校を參觀致しまする時には勿論斯ういふ

ことをしたことが無い。校長が話しをし掛けたり教員が教授を止めて説明をして呉れたりしても、構はないてどうぞ授業を進めて呉れいと申して居るのであります。したけれども、此の時許りは此の子供が餘り不思議でならなかったものですから、且つそれが復習級でもあったし、個人教授を大に加味してやって居ったことでもあったから、どうとう嘴を容れた。そして先生の許しを得て自分で此の子供を教へて見たのである。それで色々と、指てやらせて見たり、鉛筆に就いてやったり、いろ〳〵致して見たけれども遂に功を奏し無かったのでございました。蓋し此の子供は四つといふ觀念の出來る際に何等かの故障があって、その故障が子供の頭に餘程強く響いて居るものと見えて「フィーヤ」即ち四つといふ音を聞くとモウブル〳〵と震って仕舞って丸で頭が働かぬ無く成るのであります。妙な子供もあればあるものです。それは餘談でございまするが、兎に角斯ういふやうな先生、即ち少し子供が出來無いともう癇癪を起して直ぐ手を打つといふやうな先生が復習級や補助級を受持って居っては、折角の分割的新編制法も其の効が極めて薄からうと深く感じたのでございました。是等の點から考へて此の新組織に對する私の意

見は次きの諸點に歸するのであります。即ち第一に補助學校若しくは補助學級と云ふものを設けて能力の低劣なる者を特別に敎授すると云ふことは利あって害なきことである。否獨り利あって害なきのみならず慥かに必要なる施設であらうと信じます。是れ獨りマンハイムに於いてのみならず目下歐洲の各都市に於いて盛んに實施せられて居る處であります。而して、この事に就いては聊か取調べた事もあり且つ又他日更らに申す機會があらうと思ひます。併し斯かる特別敎育が必要であると同時に、其の敎育の方法といふものが更らに必要なのであります。たとひ學級丈けを分けたとしても只だ通常の方法を用ひて敎ふるだけでは、其の効果が甚だ薄いと思ふのであります。これは他日申し上げる時がありませう。第二に低能兒は別として、兒童の成績に依りて各學級を異にすると云ふ「マンハイム式の編制法は適當なる敎員を得たる場合と學校の組織が極めて整頓せる場合とに限って甚だ有効であるけれども、然らざる場合に於いては失點續出して彼の得點を打破しかへって十分なる効果を擧げ得ざる可しと信ずるのであります。即ち此の編制法を用ひて其の利を收め其の果を擧げ得ると否とは一に優良なる敎員

を得るや否や、是れ等の敎員が能く一致し統一せるや否やの二點に歸すると云はねばならない。即ち優良なる敎員を得て、而かも其の優良なる敎員を成る可く劣等兒の擔當に充て、さうして優等生を受持って居る敎員と劣等生を受持って居る敎員とが善く一致して殆んど同心一體となって働くと云ふことが出來さへすれば此の編制法は實に非常に有益なる効果を擧げるものであらうと思ひます。けれども若しこれに反して優良なる敎員を多く得ることが出來ず若しくは敎員の中で種々意見を異にするものがあって歩調を一にして相提携することが出來ないとしたならば此の組織は支離滅裂に終るであらうと思ひます。それでありますから此の編制法は一方に於いて非常に有益なる結果を擧げ得る見込があると同時に、また他方に於いては甚だ危險に陷るの虞れがあるものと云はなければならぬ。而して其の結着する處は、要するに優良なる敎員と其の一致の活動とにある。これが最も大事なことであらうと確信致しますから、繰り返して申す可き者であらうと思ふ。第三にこの新編制法は兒童の器能に應じ及び敎課に十分の斟酌を加へるを得ると云ふ二點に於いて利があります。例へば中學以上に進學する者の

爲めに外國語を多く課し、中學以上に進學せずそれだけで終ると云ふもの例へば退學級の如き者にあっては家事科、裁縫科其の他卒業後直ちに實際生活に必要なる教科並びに教材を十分に加へ課することが出來るであらうと思ふ。是れは其の編制法の性質から當然享ける處の利益であらうと思ひまする。現にこのマンハイム市の學校に於いてはこの點に就いて多く他に其の比類を見ざる程の良成績を示して居ります。

上來述べ來りましたる「マンハイム」式新編制法と云ふものは兎に角現在に於いて歐洲の教育社會を震動せしめて居る一問題でありまするから、其の大體の組織を述べて以ってこれに對する一言の意見を附け加へた譯でありますが、斯う云ふ組織はマンハイムの様な事情に於いて始めて實行することが出來るもので、我が國などに於いてこれを實行すると云ふことは、素より費用の點や、教員の數や、色々の點から見てさし當りは大分にむつかしい所もあるのでありますが併しながら此の編制法と云ふものからして、少なくとも次ぎの三項を得ることが出來やうと思ふ。第一は學級教授に於いても生徒の能力に應じてこれを取扱ふ手心に餘程の斟酌を加へなければならぬと云ふこと。第二は特別の取扱をすると云ふこと。及び優良なる生徒にして進んで中學以上の學校に入らんとする者の爲めには成るべく無駄な事をさせないで其の力をよく利用せしめて出來るだけ短日月の間に多大の進歩をなさしめるやうに注意すると云ふことの三點であらうと思ひますから因みにこれを附言致して置きます。

第五章　低能兒取扱法

第十四節　醫療上より見たる低能兒の取扱

茲に申し上げますのは、前に低能兒を分類いたしました時のドクトル、ド、モア氏の説に從ひまして醫療上より見たる低能兒と教育上より見たる低能兒とに分けたのであります。その各〻に就いて取扱法を大體申し上げようといふのが第五章の目的でありまして、就中醫療上より見たる低能兒の取扱を論じますことが此の第十四節の目的であります。勿論其の取扱に於きましては單に教育上の取扱のみならず、又多少醫療上の取扱をも申し上げねばならないけれ共、その醫療上の

取扱といふものは畢竟教育上の取扱をなすの順程として若しくは方便として或は手段とするに止まるものでありまして、目的は飽くまでも教育上の取扱に歸すのであります。

第一　身體上の取扱

今順を逐うて其の大體を申し上げまするならば第一に身體上の取扱であります。さて醫療上より見たる低能兒といふのはどう云ふ者であるかといふ事に就いては低能兒分類の條下に御話申しましたから其の事を常に念頭に思ひ浮べ置いて頂き度い。さうして身體上の取扱に入りまするが、さて醫療上から見たる低能兒は三種に分けるといふことを申しました。即ち第一種の低能兒即ち全然白痴である者、第二種の低能兒、第三種の低能兒と分けたのでありまずが、その各〻に隨って身體上の取扱も手心を變へなければならぬ。先づ第一種の白痴低能兒即ち最もさういふ低能といふ者の狀態を述べるとその樣子は身體が丸るでグラ〳〵として居って口を始終開いて居る。そして時に妙な聲を發する。眼の光が無くて常に濕んで居る。其の身體に於いては諸處に利かない所即ち痲痺して居る所がある。

是れは狹義に於ける所謂白痴といふ者であります。是れが身體上の取扱は又色色の點に分けて見ることが出來る。第一は衛生の注意であります。第一種の白痴は始終寐小便放流しの有樣であります。それから發音の練習、筋肉痙攣の療治、冷水療法、電氣療法、體操療法、といふやうなものに依って筋肉の力を增大し其の伸縮の力を强くする。殊に「マッサージ」及び身體的運動は兎に角大なる效が有りますが、しかし相手が何しろ第一種の白痴でありますから色々注意を加へても仲々さう偉い者にはならぬのであります。

第二種の白痴に對しても矢張り「マッサージ」電氣療法、冷水療法、體操、體操と音樂とを共用する運動、全事を規律的にする事、等が有効でありまするが、此の第二種の低能は之れを前きの第一種の低能に比べますると餘程マア見込があるので、且つ此の第二種の低能者は大抵の腦髓の一部分が極く幼稚なる狀態に於いて存するか或は發達が止んで居るといふものである。そこで先程申し上げて置いた通り、

此の腦髓の發達といふことは其の活動に依って覺醒せらるゝものでありまするが故に、機關を活動さすといふことは其腦の發達に必要なる刺戟を與ふるものである　といふ生理上の原則に從ひまして、此の第二種の白痴にありては其の機關をよく活動せしめ之れを發達せしむるといふ所から始めまして、延いて觀念聯合作用の出來る萌芽を生ぜしむることが必要であります。

第三種の白痴に於きまして必要のある場合には第二種の白痴に對すると大同小異の方法を採るのであります。

第二　醫療的敎育的取扱

是れは各種の方面から見ましても重もに感覺機關を覺醒せしむる事を主と致しまするが其の方法には種々の分類があります。

（甲）練習　此の練習が精しく申しますれば又色々の細目を含みまするので先づ第一は五官、筋覺、觸覺等の覺醒であります。第二は機能、殊に運動の機能、即ち步行であるとか姿勢であるとかいふ事であります。第三は外界の感覺、殊に時、運動、空間の觀念を覺醒し、又注意及び意志を働かす所の練習を致しまして自覺を强めること等であります。以上の練習を致します所の方法と致しましては固より種々の卑近なる小さな事柄から這入りまするので、例へば飯を食べる箸の使ひ方本の指に對する對抗力之れは手の運動といふものは究竟、拇指の他の指に對する關係が充分に行き

て人形にスッカリ着物を被せまして鋏を掛けるとか或は西洋の女などの着物で「ブックス」我が邦では「ホック」といふと申します物を掛けるとか、或は紐を結ぶとか或は髪を結ぶ練習といふやうな事をさすのであります。此の外猶ほ色々な方法に依って總べて身躰の中を始終使って機關の練習をさすのであります。

（乙）聽覺發達の練習　低能白痴の者には妙に音律的趣味が大分にあるのであります。即ち韻律に對する感應を有って居る者が他の能力の發達の割合に比して比較的多いのであります。又音樂を聽く力といふものが存外低能白痴の者には在るのでございます。勿論これとても通常の人に較ぶれば元より低いのではありますけれ共、併し他の心力の錆び付いて居るのに較べますると割合に多いのである。そこで通常の音樂より少し度の強い音律を用ひて聽覺を發達せしむるといふことが低能兒に對しては比較的效果の多い方法でございまする。兎に角白痴教育の上に於いて總べての方法の上に音樂を伴はしむるといふとは確かに有効である。故に彼の躰操とか、言語の練習とか、注意の練習とかいふ樣な場合に「ピヤノ」が有りますれば一番宜いのであります、が併しさう容易すく「ピヤノ」を得る譯にもいきますまいから兎に角或音樂を伴はしむることに致したならば確かに有効であります。又低能兒の機關を練習せしむる際即ち練習器などを用ひまする際に拍子といふものを加へることは餘程有効なものであると私は思ふ。一躰拍子といふものは感覺を容易ならしむるものでありまして又た之れを正確ならしむるものであります。といふのは強い練習と弱い練習とが交互に起るからであります。それから延いて音樂にも色々の強弱の變化有る樣に仕組みまするとに角調子が高くなったり低くなったり致しまする故に、其の作用であらうかとは思ひますが兎に角感覺作用を容易ならしめ且つ正確ならしむる上に、又持續の觀念を得せしむるのである。即ち平らたく言へば長く持たすことが出來るのと後へ殘った印象が強いのと二つの利點が有りまする。元來此の低能兒の教育上に於いては厭嫌を感ぜしむるといふとが一番悪いのであります るが、さて一躰何が厭嫌の源であるかと尋ねまするに、單調といふことが實に其の源であります。單調であるといふと一方に疲勞といふことが早く這入って來る。他方に興味が無くなって仕舞ふといふ所から致してこれが直ちに厭嫌の原因をな

すのでありますからして、白痴低能の者に課しまする仕事は、變化といふこと即ち活動の種々の種類を含んだものでなければならないといふことが必要であるのであります。所が拍子韻律といふものは實に活動の色々の種類を含んだものであります。それは實際の證據が有りまするので、雙六の賽のやうな物を拵へてそれに一とか二とか三とかいふ點を書いてそれを聲に應じて白紙の上に出さす練習をさすのに只だやらして居りますといふと其の運動が遲緩になって懶さうにやって居る。然るに之れに對して一方で拍手を附けると其の作用が非常に敏快となり且つ倦まない。此れ等によりて之れを觀ると兎に角調子を附けるといふとは敏活に且つ滿足して仕事に從事せしむる上に頗ぶる有效な方法であると申さねばなりません。それから言語上の練習に於きましても、亦矢張り音樂に伴はせるとか拍子を取るとかいふ方法に依るとは大變宜いのであります。一體大抵の低能の者は調子外れの音調を發し又發音が正しく無いのであります。此の點は教育者の特に注意を要するところでありまして、それが爲めには聽覺の練習といふことが必要であります。聽覺と發音といふものは相關聯して居るといふことは前にもお話いたしましたが、兎に角聽覺の適當なる練習發達に依りまして發音矯正といふ仕事を助ける上に種々の工夫を加へるといふことは必要なる事に屬します。

(丙) 視覺發達の練習　此の視覺の練習を進めまして視覺觀念の發達を助け更らに他の感情竝びに筋覺との聯絡を附けるとに意を用ひねければならない。是れが又色の認識の練習であるとか、形の認識の練習であるとか、社會の研究とかに分かれる。社會の研究といふと可笑しいが本當の眼で世の中をよく視さすといふとに慣れしめるのであります。其の中先づ色の認識に付きましては、種々の色の紙片を相混じて置いて同じ色のを選擇せしむること、それから色紙より進んで種々の色布に及ぶ。ダニエルといふ人は玩具に種々の色をつけて色の認識を助ける工夫を致しました。丁度前きに申し述べたるブルネビーユ氏の人形と同巧異曲の考案であります。それから又同じ色の濃淡の程度、即ち大分濃い赤色、その次ぎの赤、チッと薄いの、ズッと薄いのといふやうな順序に依って識別排列せしむる練習や色鉛筆や色々の色の「インキ」を以って簡單な繪をかゝすこと、それから種々の色

紙を以て紙細工をなさしむることゝいふやうな色々の事がありませう。以上は色の認識の練習でございますが次ぎに形の認識に付きましては、木や竹や厚紙やなどで色々の幾何的形式を作らしむる。此の事に付きましては遊戯の道具の上に一段の工夫を加へる必要が有らうと思ひます。第三の社會の研究は妙な名ではありますが、實際低能兒といふものは社會に生れて居り社會に生存して居りながら、實は社會を本當に見て居ないのである。社會を目撃して居ながら、實は活眼を開いて社會を活視しては居ないのである。夫れ故に家であるとか町村とか或は各種の人間、或は兩親の職業といふやうな事を精密に目撃直觀せしむる上に工夫を加へることが必要であります。

（丁）理解の發達の練習　これには先づ感覺の發達に理解の發達を結び付ける事が必要であります。勿論其の理解を發達せしむる事と申しても之れに特別の方法が有る譯ではございませぬので、要する所朝から晩まで成るべく此の直觀といふものを良くせしむるとに外なりませぬ。直觀の觀念といふものは唯だ見るといふ樣な感覺的作用が働く丈けでは無いのでありまして必ず之れに運動的作用が働く場合が多いのであります。從前は單に感覺的作用といふことに考へたものだが今日では精神作用の要素を運動と感覺との兩方面から見ますのて、從って直觀の上にも唯だ感覺的直觀丈けではいかぬ。運動的直觀が這入ると云ふものが必要てありまして、それて以って直觀の意義が一層深く且つ切になって來るのてございます。そは兎に角、直觀といふものを正當に且つ適當になさしむることは、感覺の發達を理會の發達に結合せしむる一方面であります。次ぎに元來低能の者と雖も或點までは或強さの記憶を有って居るものてある。所が其の記憶を練習せしむるといふ丈けでは實は功が薄いので更らにこの記憶から進んて理解に入らしむる樣に努めねばならぬのであります。これが又理解を發達せしむる一方面てあります。其の方法としては習字、算術、手工といふ樣な教科の上て工夫を用ひますると此の點に於いて進歩せしむるに適當なる多くの機會を見出すことが出來るのであります。

（戊）社會教育　これは一寸適當な名を見出せませんからマア此の名にしてお

きませう。これは第二種及び第二種の白痴低能といふものは離群索居、孤立的

生活をなさしむべからざるものであって、成る可く早くより共同生活をなさしめて、社會生活の簡單なる法則に慣れしむることが大切である。歐米の或學校に於きましては此の點に非常に注意して居りまするので、例へば英吉利のイーストウッドの學校などでは、所謂人生といふものを知らしむる爲めに、物を買ふとか賣るとか、金を拂ふとか或は物を受取るとかの練習によりまして、自分の欲望を發表すること、人と共力すること、或は相互に睦しくすること、人に從ふこと、人と共力すること、或は相互に睦しくすること、と助け合ふこと、交際するといふ樣な色々の日常生活から、更らに進んで花卉の栽培とか動物の飼養とかいふ樣な事に及び、要するに世の中を尋究せしむる事を主としてやって居る學校があります。又獨逸のシュヴェンクといふ人がやって居る學校では、學校の内に大きな店が拵へてある。其處で百般の貨物を陳列して、賣買、支拂收入等總べてさう云ふ樣な事を直觀せしめ實習せしむることに供して居ります。兎に角此の實社會を理解せしむることが低能兒の爲めには殊に必要であります。それから手工教授といふものが是れ亦低能兒に對しては殊に大切なる關係を有って居りまするもので即ち直觀教授圖畫、粘土細工等に聯關致して社會的

理解を增さしむる上に有効な者でございます。更らに詳しく申しまずると、これは二箇の點に於いて必要でありまするので、即ち其の一は之れに拘はって居りまする爲めに他の考、殊に惡い考が浮んで來ない。殊に色情發達期に當って居ります者におきましては所謂閑居不善をなすの機會を少なからしむるといふ消極的間接的の點でありまして、其の二は將來社會に出まして後の職業準備として必要であるといふ積極的直接的の點でございます。實際白痴低能の者は社會に出ましてもさう精密なる技術をやらぬければならぬといふ樣な者になれるのは少ないので、先づ通常の職人の手傳などになる者が多いのであります。即ち或は石を搬ぶとか、或は木を擔ふとか或は機械の運轉を助けるとか、さう云ふ者が多いので、白痴低能の者に適する職業としては西洋では次ぎの樣な者が選ばれて居ります。即ち農業、園藝、靴屋、籠造り、葉細工、楊細工等であります。兎に角如何なる職業に就くにしても其の職業の準備として特に低能兒の爲めに社會教育を充分加へて行くの必要があるのでございます。そこで此の教育に於いて特に注意しなければならぬとは、低能白痴の者の特色と致しまして依頼心が非常に強いのであある。それ

であります、から自分に温言を変へ温情を以って接し、親切慈愛を以って取扱って呉れるものがあると、彼等は通常の者よりも更らに強く感じ且つ喜んで依頼するものであります。それ故に彼等を親切に取扱ふといふことは甚だ必要なことでございます。これと同時に低能者といふ者は餘程子供的性質を帶んで居る者でありまして、其の年よりは少しく若い者といふ様な心得で之れを取扱ひまするとが必要であります。即ち少し諄いと思ふ位まで説明してやる。言葉は成る可く明瞭に反復して能く聽かしてやる。殊に取扱上常に忍耐力を以って之れに接するといふことが大切である。之れを要するに低能兒取扱ひの三要領は忍耐と親切と確固とであるといふことに歸します。低能者といふ者の中にはジッと沈んで靜穩なる性質を有って居る者がありまするけれ共此の靜穩を表はして居る低能者が實は甚だ油斷が出來ないのであります。蓋し斯かる靜穩なる者に限って時として非常に爆發するのであります。即ち不意に不行儀な事をやり出し、或は殘忍な事を敢てするやうなことがありまするので平生靜穩なる白痴低能者の多くが悪事をなし犯罪を行ひ不道德を表はす。所謂俗の諺に「チンガ事ヲスル」といふのが頗ぶるよく當って居る。斯ういふ性質の者は平生靜穩でありますけれ共、或機會を得て、即ち或は空想に驅られ、或は反抗力を起し、或は色情に驅られるといふやうなことがありますと人を殺したり或は傷けたり又は火を放けたりする様な事を致して、且つ通常人以上の殘忍刻薄を現はすのでございます。殊に低能者の殘忍に於いて、特に著しき點はそれが、一旦爆發しまするとの最早や何等分別の念といふものが無い。其の相手の親たると朋友たると知人たると又未知の人たるとの區別がサッパリ無いのであります。それでありますから往々大逆無道の行を仕出かす者が有るのであります。殊に第二種の低能白痴て十八歳から二十五歳に至る間に於いて最も多く之れが現はれ易いのであります。是れ實に危險千萬な事でありまして、斯様な小兒を有って居る家族は殊に監視を要する所以でありまするが特に注意をしなければならぬことは、斯かる殘忍なる行ひが極くチョッとした行掛りから生ずるといふことであります。即ちチョッと人に揶揄はれたとか或は罵られたとかいふ様な事で、通常の能力を有する者ならば一日位怒って居るとか二三日位不愉快を感じて居るとかいふ